

令和6年度

近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書



2025年3月

近畿 E S D コンソーシアム
奈良教育大学 ESD・SDGsセンター

はじめに



今年度もまた、「近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会」が盛大に行われました（1月12日・13日）。事前の打ち合わせで、私は「全体会はもっと広い講堂に移したらどうか」と提案しましたが、当初の計画通り大会議室でギリギリ満杯。それにより盛況感がいっそう増す結果となりました。

初日の午前中は、私が毎回楽しみにしている「ESD子どもフォーラム」が行われ、遠くは福岡市立小呂小学校、近畿からは草津市立老上中学校と白浜町立白浜中学校、そして奈良県からは天理市立福住小中学校の皆さんが、日頃の素晴らしい活動を発表してくれました。司会進行は、本学ユネスコクラブの学生が務め、発表ごとの質疑も子どもたちに限定して行い、まさにこれからの「持続可能な社会の創り手」たちが未来の社会づくりについて語り合う有意義なセッションとなりました。子どもの言葉によって成果が語られ、それを大人（教師・社会人）が確認し共有することは重要なことだと思います。ご指導いただいた先生方にも敬意を表したい気持ちでいっぱいになりました。

大人の会（実践交流会）も充実度を増し、大変嬉しく思いました。近畿以外からの発表者や参加者もあり、本コンソーシアムの活動が全国へと拡大していく喜びを感じました。全国各地に同様のコンソーシアムはあるのですが、皆、ESDが全国的に「面」となって推進されていくことを目指しているわけですので、他のコンソーシアムとの繋がりや外への拡がりを常に意識して、活動を展開させていく必要をあらためて感じました。

ところで、この会の1か月後、その各地のコンソーシアムが本学に集まり、「全国ESDコンソーシアム/ステークホルダー円卓会議 2025」が開催されました。そこでも、コンソーシアム間、コンソーシアム・ステークホルダー間でもっと連携を強め、それぞれの取組や成果を共有していこうということになりました。もう一つ意見として出されたことは、「企業をもっと巻き込んだらどうか」というものでした。SDGsの達成のためには、学校におけるESDだけではなく、社員や経営者に対するESDも欠かせないことだと思います。

奈良教育大学は、今後、リカレント教育としてもESDを進めたいと考えています。その時、学校での取組や、子どもや教師を目指す学生の学びは、企業にとって大きな刺激になることでしょう。また、私たちも産業界から学ぶことは多くあると思います。来年の本会には、企業や自治体の方々をさらに多く招き、子どもフォーラムや実践交流会に参加していただくことで、ESDそのものを持続可能にし、持続可能な社会づくりを加速させたいと思います。

会場は、今度こそ大会議室ではなく講堂に変更するかもしれません。皆様、お元気で活躍され、また来年お目にかかれることを楽しみにしております。

令和7年3月

奈良教育大学 学長
近畿ESDコンソーシアム 会長
宮下 俊也

目 次

はじめに.....	1
E S Dティーチャープログラム	
・ ESD ティーチャー認証制度について	3
・ ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）開催要項	7
・ ESD ティーチャープログラム活動報告	9
・ ESD プログラム（ESD ティーチャー）履修の手引き	19
・ ESD プログラム（ESD ティーチャー）履修の手引き（教職大学院生対象）	21
・ ESD ティーチャー・フォローアップ研修会 開催要項	23
・ ESD ティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告（全 5 回）	24
・ ESD ティーチャープログラム（山形会場）・フォローアップ研修会 開催要項	38
奈良 E S D連続セミナー（全 11 回）	39
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー（全 5 回）	100
森と水の源流館授業づくりセミナー（全 5 回）	112
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク（全 9 回）	127
令和 6 年度近畿 E S Dコンソーシアム成果発表会・実践交流会	140
おわりに	144
近畿 ESD コンソーシアム規約	145
運営委員名簿	149

奈良教育大学 ESD ティーチャー認証制度について

1. ESD を適切に計画し指導できる教員に求められる資質・能力

(1) 教師としての基盤的力量

学級経営力、生徒指導力、授業力、そして子ども理解力など、全ての学校教員に求められる資質・能力が基盤的力量として必要である。

(2) SDG s に関心を持ち、様々な書物から学んだり、講演会に参加したりするなど、能動的に SDG s への理解を深めようとする態度と、SDG s に関する課題を自分事とし、自らが持続可能な社会の担い手として、ライフスタイルを見直し、SDG s の達成に積極的に取り組もうとする態度が必要である。

(3) 「当たり前だ」と思っていることを時間的、また空間的に捉えて代替案を考え（クリティカル・シンキング）たり、地域の課題を SDG s の 17 の目標と関連付けて捉え、解決策を多面的・総合的に考え（システムズ・シンキング）たりする、探究的な思考力と行動力が求められる。

(4) ESD には教科書がない。総合的な学習の時間に地域の課題を学習課題として探究型の単元計画を組織し、地域人材や社会教育施設・専門家などと連携しながら、授業実践を行う力が求められる。また、日々の授業実践を対話的で深い学びを促すような授業力が求められる。

(5) ESD は社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育活動である。ESD で育てたい価値観を育てるためには、系統的で継続的なカリキュラムが必要となる。校内はもちろん異なる校種の教員と連携して、系統的なカリキュラムを創造し、不断の見直し・改善を図ろうとする態度や、学校間交流や学習成果の地域への発信などにより、学びがいのある質の高い ESD 実践を志向する態度も求められる。



2. ESD ティーチャープログラムの概要

(1) ESD ティーチャープログラムの基本型

ESD ティーチャープログラムは、上記の資質・能力を養う目的で、次の 5 回の研修から構成されている。

第 1 回：SDGs の理解促進

SDG s の達成が求められる世界の状況を経済・社会・環境の側面から捉え、理解を深める。

第 2 回：ESD の学習理論の理解

ESD で育てたい価値観、視点、資質能力を紹介するとともに、持続可能な社会づくりに有用なソマティック・マーカーを育てる体験的な学習について理解を深める。

第3回：優良実践事例の分析と単元構想案の作成

ESD の優良実践事例を ESD の観点から分析し、授業づくりのポイントを理解したり、改善ポイントを見出したりすることで、学習指導案の読み方や作成方法について研修し、本学が開発した様式にしたがって単元構想案を作成する。

第4回：単元構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成

単元構想案の相互検討を踏まえ、ESD や ESD 学習指導案についての理解を深める。

※相互検討で修正した単元構想案を用いて、2 か月程度かけて ESD 学習指導案を作成したうえで、第5回に参加する。

第5回：ESD 学習指導案の相互検討会

各自が作成した ESD 学習指導案を発表し、全員で検討する。相互に検討することで、ESD の授業づくりや学習指導案作成のスキルアップを図る。

全ての研修会に参加し、ESD 学習指導案を1月末までに大学に提出する。奈良教育大学では提出された ESD 学習指導案を運営委員会で審議したうえで、本学の教授会に提出し、承認を得ることができれば、学長より ESD ティーチャーの認定証を授与する。

(2) ESD ティーチャープログラムの発展型

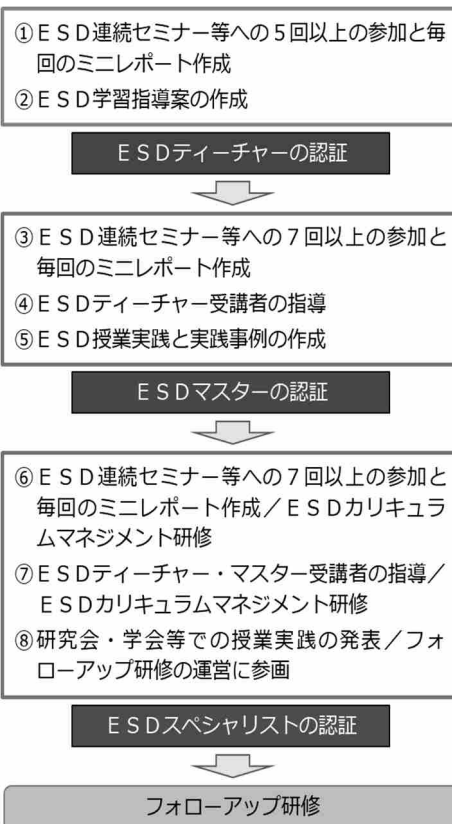
現職教員を対象とした ESD ティーチャープログラムにおいては、実践意欲の向上と、ESD に関する理解の深化を目的に、マスターコース、スペシャリストコースを用意している。

3. ESD ティーチャーについて

奈良だけでなく、ESD ティーチャープログラムを全国で展開することで ESD ティーチャーの拡大を図ると共に、ESD ティーチャーの資質・能力、及び実践意欲の向上を目的に、フォローアップ研修として ESD ティーチャーを対象としたオンライン研修を2ヶ月に1回実施している。

令和6年度までの ESD ティーチャー等の認定者数は以下の通りである。(名)

	現職教員			学生
	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	ティーチャー
平成28年度	0	0	21	3
平成29年度	0	14	13	4
平成30年度	5	2	19	11
令和元年度	4	1	22	5
令和2年度	0	2	42	8
令和3年度	1	16	96	9
令和4年度	8	19	124	14
令和5年度	10	24	138	9
令和6年度	11	25	81	12
合計	39	103	556	75



令和6年度ESDティーチャープログラム

認定者は次の通りである。

(1) 現職教員のESDティーチャー等

①ESDスペシャリスト (11名)

1	奈良教育大学附属中学校	丹後 七重
2	伊平屋村立伊平屋中学校	高良 直人
3	山形大学附属特別支援学校	阿部 友幸
4	屋久島町立永田小学校	吉富 祐子
5	福岡市立田隈小学校	稲留 愛
6	福岡市立小呂小学校・小呂中学校	枝広 隆志

7	福岡市立西新小学校	河野 陽一
8	福岡市立三宅小学校	橋本 智美
9	松山市立日浦小学校	西河 珠美
10	宇和島市立遊子小学校	西原 睦美
11	松山市立たちばな小学校	吉見 香奈子

②ESDマスター (25名)

1	奈良市立朱雀小学校	原田 龍ノ助
2	生駒市立俵口小学校	西田 有壱
3	姫路市立水上小学校	菊池 甲余子
4	屋久島町立小瀬田小学校	高橋 百合香
5	薩摩川内市立市比野小学校	菊永 美樹
6	屋久島町立神山小学校	山口 和代
7	福岡市立内浜小学校	床田 知子
8	福岡市立小呂中学校	花田 一志
9	福岡市立小呂小学校	松田 博光
10	福岡市立南当仁小学校	山本 隆一
11	新居浜市立別子中学校	池田 光希
12	松山市立東中学校	眞柴 さなえ
13	草津市立老上中学校	辻 大吾

14	草津市立松原中学校	山本 寛之
15	橋本市立西部小学校	辻本 貴久
16	白浜町立西富田小学校	大浦 侑唄
17	すさみ町立周参見中学校	谷口 祐也
18	白浜町立白浜中学校	西田 拓大
19	白浜町立白浜中学校	平野 俊
20	白浜町立白浜中学校	尾藤 伸次朗
21	天理市立福住小中学校	犬塚 良子
22	天理市立福住小中学校	大野 直彬
23	天理市立福住小中学校	永原 智子
24	天理市立福住小中学校	藤田 桃子
25	天理市立福住小中学校	堀川 淳司

③ESDティーチャー (81名)

1	奈良教育大学附属中学校	今西 昇平
2	奈良教育大学附属中学校	堤 彦三郎
3	奈良教育大学附属中学校	山口 春菜
4	奈良教育大学附属中学校	山本 達也
5	奈良市立三碓小学校	澤田 悠
6	生駒市立俵口小学校	中川 純一
7	王寺町立王寺北義務教育学校	高山 翔伍
8	王寺町立王寺北義務教育学校	三好 偉雄太
9	奈良学園小学校	山川 丈二
10	奈良学園小学校	駿河 徳子
11	奈良学園小学校	吉岡 真志
12	大阪市立加美北小学校	神前 竜太
13	大阪市立新森小路小学校	三笠 日向
14	豊見城市立上田小学校	赤嶺 英幸

15	鹿屋市立鹿屋小学校	上園 弘太郎
16	天城町立天城小学校	竹本 奈美
17	徳之島町立母間小学校	下津 慶一
18	鹿児島市立西紫原小学校	諸平 幸奈
19	鹿児島市立広木小学校	田中 春名
20	鹿児島市立広木小学校	日高 瑞貴
21	鹿児島市立広木小学校	横山 邦昭
22	福岡市立小呂小学校	力 恵利佳
23	福岡市立小呂中学校	溝田 友気
24	福岡市立平尾小学校	中川 朋美
25	新居浜市立中萩中学校	岡田 源紀
26	新居浜市立中萩中学校	中島 洋
27	新居浜市立中萩中学校	春園 彩奈
28	松山市立雄新中学校	井上 未来

29	新居浜市立大生院小学校	小畑 歩夢
30	新居浜市立船木小学校	片岸 力丸
31	新居浜市立高津小学校	古泉 啓悟
32	新居浜市教育委員会	越智 誠司
33	草津市立老上こども園	木戸 香里
34	草津市立玉川こども園	中川 珠紀
35	草津市立老上中学校	谷口 晋吾
36	草津市立老上中学校	廣瀬 萌恵
37	大津市立日吉台小学校	森田 華菜恵
38	草津市立松原中学校	山内 健太郎
39	草津市教育委員会	中村 大輔
40	白浜町立富田小学校	廣畑 智大
41	田辺市立上芳養中学校	藤田 万愉子
42	橋本市立高野口小学校	岡本 崇史
43	橋本市立高野口小学校	片浦 智一
44	橋本市立高野口小学校	西村 文成
45	和歌山県立古佐田丘中学校	寺阪 多江
46	橋本市立応其小学校	和田 剛志
47	橋本市立橋本小学校	吉田 稔
48	橋本市教育委員会	木下 豪人
49	麗澤中学・高等学校	石塚 友哉
50	麗澤中学・高等学校	須藤 早紀
51	麗澤中学・高等学校	瀧村 尚也
52	麗澤中学・高等学校	谷口 万里阿
53	千葉県立柏陵高等学校	浅野 稜太
54	千葉県立柏陵高等学校	代田 江理子
55	品川インターナショナルスクール	加藤 茉莉
56	柏市立高柳小学校	鈴木 郁香
57	豊島区立西巣鴨中学校	関澤 将大
58	菊池市立隈府小学校	橋本 歌織
59	菊池市立菊池北小学校	小松 凜菜
60	菊池市立菊之池小学校	徳淵 香織
61	菊池市立花房小学校	村上 千砂子
62	菊池市立戸崎小学校	平緒 郁也
63	菊池市立七城小学校	轟 佳士
64	菊池市立旭志小学校	高畠 雅秀
65	菊池市立泗水東小学校	鳩野 文也
66	菊池市立泗水小学校	村上 紀子
67	菊池市立泗水西小学校	大坂 亜紅
68	菊池市立菊池北中学校	吉里 泰志
69	菊池市立菊池南中学校	猿渡 裕幸

70	菊池市立七城中学校	岡本 睦
71	菊池市立旭志中学校	前田 扶美
72	菊池市立泗水中学校	澁江 公太
73	熊本県立菊池高等学校	吉良 宗高
74	天理市立福住小中学校	前田 佳代
75	天理市立福住小中学校	溝畑 桂子
76	天理市立福住小中学校	向井 薫汰
77	天理市立福住小中学校	村田 豊
78	天理市立福住小中学校	山口 雅史
79	天理市立福住小中学校	山村 昌宏
80	天理市立福住小中学校	高司 靖信
81	高取町立たかむち小学校	伊藤 輔

(2) 学生のESDティーチャー(12名)

1	教育学部英語教育専修	福西 隆生
2	教育学部教育学専修	大西 遥郁
3	教育学部国語教育専修	田中 愛花
4	教育学部国語教育専修	無量井 夏音
5	教育学部国語教育専修	吉岡 優来
6	教育学部社会科教育専修	島田 望希
7	教育学部社会科教育専修	木幡 美幸
8	教育学部特別支援教育専修	才田 優佳
9	教育学部特別支援教育専修	神吉 優利奈
10	教育学部美術教育専修	東 瑞
11	教育学部英語教育専修	澤井 咲樹
12	教育学部書道教育専修	八尾 有紗

令和6（2024）年度 ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）開催要項

1. 目的

持続可能な開発目標の達成及び学習指導要領の確実な実施に向けて、持続可能な社会の創り手の育成は喫緊の課題となっている。本学では2016年度より教員志望の学生及び現職教員を対象に、ESDを指導する教員に求められる資質・能力の育成を目的としたESD ティーチャープログラムを展開してきた。

2023年度末の段階で500名を超える認定者に達し、全国各地で意欲的にESDの実践に取り組んでもらっている。このように、ESDを意欲的に推進していくことのできる教員の輪を全国各地に広げるため、今年度も以下の通りESD ティーチャープログラムを実施する。

2. 運営担当者

及川・加藤・中澤・大西：その他、主に現職教員等の経験を有する大学教員

3. 研修内容

- ① 持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解 【オンライン】
- ② ESDの学習理論とESD 単元構想案の作成 【オンライン】
- ③ 優良実践事例のESD分析
- ④ ESD 単元構想案の相互検討とESD 学習指導案・実践報告の作成
- ⑤ ESD 学習指導案・実践報告の相互検討
- ⑥ ESD カリキュラムマネジメント【マスター・スペシャリスト】【オンライン】
- ⑦ ESD カリキュラムマネジメント案の作成・相互検討【マスター・スペシャリスト】

※ ①②⑥について、当日参加できない受講者は後日オンデマンド受講とする。

4. ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）について

（1）ESD ティーチャーコース

- ①本研修会への5回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案とESD 学習指導案の作成、1月末日までに提出

（2）ESD マスターコース

- ①本研修会への7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案とESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6P程度）し、1月末日までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④研修（6・7）への参加

(4) ESD スペシャリストコース

- ①本研修会への7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6P程度）し、1月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー・マスター研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出
- ④研修（6・7）への参加

※3月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証を授与。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載。

※1月に開催する近畿 ESD コンソーシアム実践交流会での発表を依頼する場合がある。

5. 開催予定

【研修① 持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解 【オンライン】】

6月 1日（土）14時～16時 講師：及川幸彦

【研修② ESD の学習理論と ESD 単元構想案の作成 【オンライン】】

6月 8日（土）14時～16時 講師：中澤静男、大西浩明

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 東京都 | 8月 1日（木）③④、10月20日（日）⑤ |
| (2) 菊池市 | 8月 5日（月）③④、12月13日（金）⑤ |
| (3) 愛媛県 | 8月25日（日）③④、11月16日（土）⑤ |
| (4) 大津市 | 8月23日（金）③④、11月 9日（土）⑤ |
| (5) 鹿児島県 | 8月 9日（金）③④、11月30日（土）⑤ |
| (6) 福岡市 | 8月 6日（火）③④、12月14日（土）⑤ |
| (7) 紀南 | 8月 7日（水）③④、10月19日（土）⑤ |
| (8) 橋本市 | 8月 2日（金）③④、10月18日（金）⑤ |
| (9) 附属中学校 | 8月29日（木）③④、12月20日（金）⑤ |

研修⑥については、9月上旬にオンラインにて実施

研修⑦については、受講者の多い会場は研修⑤のあとに実施

その他は別日にオンラインにて実施

2024年度 ESDティーチャープログラム活動報告

研修①「SDGsの理解促進」

日時：2024年6月1日（土）14時～16時

方法：Zoom によるオンライン

参加者：44名

講師：及川幸彦



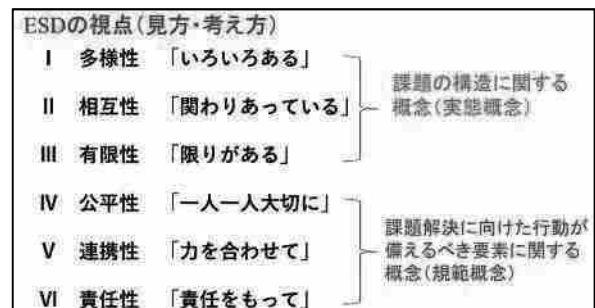
研修②「ESDの学習理論・ESDの授業づくり」

日時：2024年6月8日（土）14時～16時

方法：Zoom によるオンライン

参加者：31名

講師：中澤静男、大西浩明



①②とも欠席者はオンデマンド視聴

菊池会場【研修①②】「SDGsの理解促進」「ESDの学習理論・ESDの授業づくり」

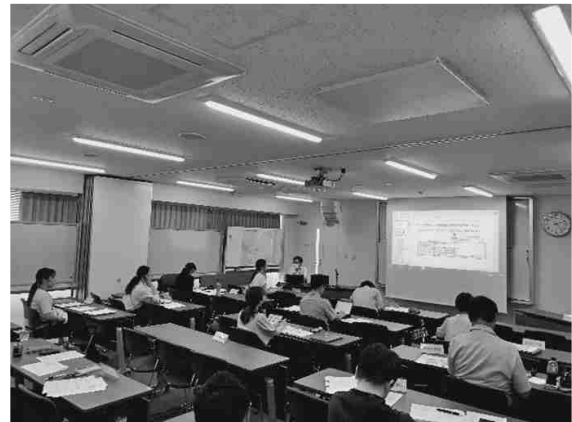
日時：2024年7月22日（月）10時～15時30分

会場：菊池市役所 203・204 会議室

方法：オンデマンド視聴

参加者：橋本歌織（隈府小学校）、小松凜菜（菊池北小学校）、徳渕香織（菊之池小学校）、村上千砂子（花房小学校）、平緒郁也（戸崎小学校）、轟 佳士（七城小学校）、高畠雅秀（旭志小学校）、鳩野文也（泗水東小学校）、村上紀子（泗水小学校）、吉里泰志（菊池北中学校）、猿渡裕幸（菊池南中学校）、前田扶美（旭志中学校）、澁江公太（泗水中学校）、吉良宗高（菊池高等学校）、宮崎博之（菊池農業高等学校）

出席 15 名（欠席 2 名）



東京会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 1 日（木）10 時～16 時

会場：JICA 地球ひろば

参加者：浅野稜太（千葉県立柏陵高等学校）、代田江理子（千葉県立柏陵高等学校）、
鈴木郁香（柏市立高柳小学校）、高橋絵理（白百合学園小学校）、
石塚友哉、須藤早紀、瀧村尚也、谷口万里阿（麗澤中学・高等学校） 計 8 名（欠席 5 名）
講師：新宮済（奈良女子高等学校）、中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、及川幸彦、大西浩明



橋本会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 2 日（金）10 時～16 時

会場：橋本市教育文化会館

参加者：片浦智一（高野口小学校）、巽庸子（恋野小学校）、辻本貴久（西部小学校）、
和田剛志（応其小学校）、吉田稔（橋本小学校）、寺阪多江（県立古佐田丘中学校）、
古久保隆也（紀見東中学校）、木下豪人（橋本市教育委員会） 計 8 名（欠席 2 名）
講師：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）、
中澤静男、大西浩明



菊池会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 5 日（月）10 時～16 時

会場：菊池市中央公民館大会議室

参加者：橋本歌織（隈府小学校）、小松凜菜（菊池北小学校）、徳渕香織（菊之池小学校）、
村上千砂子（花房小学校）、平緒郁也（戸崎小学校）、轟 佳士（七城小学校）、
大坂亜紅（泗水西小学校）高島雅秀（旭志小学校）、鳩野文也（泗水東小学校）、
村上紀子（泗水小学校）、岡本睦（七城中学校）、吉里泰志（菊池北中学校）、

猿渡裕幸（菊池南中学校）、前田扶美（旭志中学校）、澁江公太（泗水中学校）、
吉良宗高（菊池高等学校） 出席 16 名（欠席 1 名）

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、石村秀登（熊本県立大学）、河野晋也（大分大学）
遠入哲司（福岡市立原小学校）、島俊彦（福岡市立七隈小学校）、大西浩明



福岡会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 6 日（火）10 時～16 時

会場：福岡市立中央市民センター

参加者：稲留愛（田隈小学校）、河野陽一（西新小学校）、橋本智美（三宅小学校）、
床田知子（内浜小学校）、山本隆一（南当仁小学校）、中川朋美（平尾小学校）、
枝広隆志、花田一志、松田博光、井上敦子、力 恵利佳、溝田友気（小呂小学校・小呂中学校）
計 12 名

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、遠入哲司（福岡市立原小学校）、島俊彦（福岡市立七隈小学校）、
鬼塚正博（福岡市立小呂小学校・小呂中学校）、大西浩明



紀南会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 7 日（水）10 時～16 時 30 分

会場：白浜町立白浜中学校

参加者：大浦侑唄（白浜町立西富田小学校）、谷口祐也（すさみ町立周参見中学校）、
廣畑智大（白浜町立富田小学校）、藤田万愉子（白浜町立上芳養中学校）、
中村僚太、西田拓大、平野俊、尾藤伸次朗（白浜町立白浜中学校）、
岡本崇史、西村文成（橋本市立高野口小学校）、
大本拓輝、新東貴行、吉峯ゆかり（アドベンチャーワールド） 計 13 名（欠席 1 名）

講師：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、大西浩明



鹿児島会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 9 日（水）10 時～16 時 30 分

会場：霧島自然ふれあいセンター

参加者：吉富祐子（屋久島町立永田小学校）、菊永美樹（薩摩川内市立市比野小学校）、
山口和代（屋久島町立神山小学校）、上園弘太郎（鹿屋市立鹿屋小学校）、
竹本奈美（天城町立天城小学校）、下津慶一（徳之島町立母間小学校）、
諸平幸奈（鹿児島市立西紫原小学校）、

福留忠洋、田中春名、日高瑞貴、横山邦昭（鹿児島市立広木小学校） 計 11 名

講師：河野晋也（大分大学）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、新宮済（奈良女子高等学校）、
中澤静男、大西浩明



大津会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 23 日（木）10 時～16 時 30 分

会場：大津市立仰木の里小学校

参加者：辻大吾、廣瀬萌恵、谷口晋吾、（草津市立老上中学校）、中村大輔（草津市教育委員会）、
山本寛之、山内健太郎（草津市立松原中学校）、木戸香里（草津市立老上こども園）、
中川珠紀（草津市立玉川こども園）、山岸憲明（大津市立唐崎小学校）、
森田華菜恵（大津市立日吉台小学校） 計 10 名（欠席 2 名）

講師：阪本さゆり（奈良保育学院）、藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）、
新宮済（奈良女子高等学校）、大西浩明



愛媛会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 25 日（日）10 時～16 時 30 分

会場：新居浜市立女性総合センター

参加者：西河珠美（松山市立日浦小学校）、西原睦美（宇和島市立遊子小学校）、
吉見香奈子（松山市立たちばな小学校）、荒井慎也（松山市立北条北中学校）、
池田光希（新居浜市立別子中学校）、眞柴さなえ（松山市立東中学校）、
岡田源紀（新居浜市立中萩中学校）、越智誠司（新居浜市教育委員会事務局発達支援課）、
小畑歩夢（新居浜市立大生院小学校）、片岸力丸（新居浜市立船木小学校）、
古泉啓悟（新居浜市立高津小学校）、中島洋、春園 彩奈（新居浜市立中萩中学校）

計 13 名（欠席 2 名）

講師：藤原一弘（愛媛大学）、新宮済（奈良女子高等学校）、及川幸彦、大西浩明



福住小中学校会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 26 日（月）10 時～16 時 30 分

会場：天理市立福住小中学校

参加者：犬塚良子、大野直彬、永原智子、藤田桃子、堀川淳司、前田佳代、溝畑桂子、向井薫汰、
村田豊、山口雅史、山村昌宏 計 11 名（欠席 2 名）

講師：藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）、有馬一彦（附属中学校）、中澤静男、大西浩明



附属中学校会場【研修③④】「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2024 年 8 月 29 日（木）10 時～15 時 30 分

会場：附属中学校

参加者：丹後七重、挽地夕姫、今西昇平、堤彦三郎、山口春菜、山本 達也 計 6 名

講師：有馬一彦、吉田寛、山本浩大、長友紀子（附属中学校）、中澤静男、大西浩明



研修⑥「ESD カリキュラムマネジメント」（スペシャリスト・マスター受講者対象）

日時：2024 年 9 月 30 日（月）19 時～21 時

方法：Zoom によるオンライン

参加者：28 名

講師：及川幸彦



橋本会場【研修⑤】「学習指導案の相互検討」

日時：2024 年 10 月 18 日（金）13 時 30 分～16 時

会場：橋本市教育文化会館

参加者：片浦智一（高野口小学校）、辻本貴久（西部小学校）、和田剛志（応其小学校）、
吉田稔（橋本小学校）、寺阪多江（県立古佐田丘中学校）、木下豪人（橋本市教育委員会）、
岡本崇史、西村文成（橋本市立高野口小学校） 計 8 名（欠席 2 名）

講師：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、大西浩明



紀南会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2024年10月19日（土）10時～16時

会場：白浜町立白浜中学校

参加者：大浦侑唄（白浜町立西富田小学校）、谷口祐也（すさみ町立周参見中学校）、
廣畑智大（白浜町立富田小学校）、藤田万愉子（白浜町立上芳養中学校）、
西田拓大、平野俊、尾藤伸次朗（白浜町立白浜中学校）、
臼井達也（NPO 法人わかやま環境ネットワーク）、
大本拓輝、新東貴行、吉峯ゆかり（アドベンチャーワールド） 計11名（欠席1名）
講師：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、加藤久雄、大西浩明



東京会場【研修⑤】「学習指導案の相互検討」

日時：2024年10月20日（日）13時～16時

会場：JICA 地球ひろば

参加者：浅野稜太、代田江理子（千葉県立柏陵高等学校）、関澤将大（豊島区立西巢鴨中学校）
石塚友哉、須藤早紀、瀧村尚也、谷口万里阿（麗澤中学・高等学校） 計7名（欠席3名）
講師：新宮済（奈良女子高等学校）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、及川幸彦、大西浩明



大津会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2024年11月9日（土）10時～15時30分

会場：大津市立仰木の里小学校

参加者：辻大吾、廣瀬萌恵、谷口晋吾、（草津市立老上中学校）、中村大輔（草津市教育委員会）、
山本寛之、山内健太郎（草津市立松原中学校）、木戸香里（草津市立老上こども園）、
中川珠紀（草津市立玉川こども園）、山岸憲明（大津市立唐崎小学校）、
森田華菜恵（大津市立日吉台小学校） 計10名
講師：阪本さゆり（奈良保育学院）、加藤久雄、大西浩明



愛媛会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2024年11月16日（土）9時30分～16時

会場：新居浜市立女性総合センター

参加者：西河珠美（松山市立日浦小学校）、西原睦美（宇和島市立遊子小学校）、
吉見香奈子（松山市立たちばな小学校）、池田光希（新居浜市立別子中学校）、
眞柴さなえ（松山市立東中学校）、越智誠司（新居浜市教育委員会事務局発達支援課）、
小畑歩夢（新居浜市立大生院小学校）、片岸力丸（新居浜市立船木小学校）、
古泉啓悟（新居浜市立高津小学校）、中島洋（新居浜市立中萩中学校）
井上未来（松山市立雄新中学校） 計11名（欠席3名）

講師：藤原一弘（愛媛大学）、河野晋也（大分大学）、新宮済（奈良女子高等学校）、大西浩明



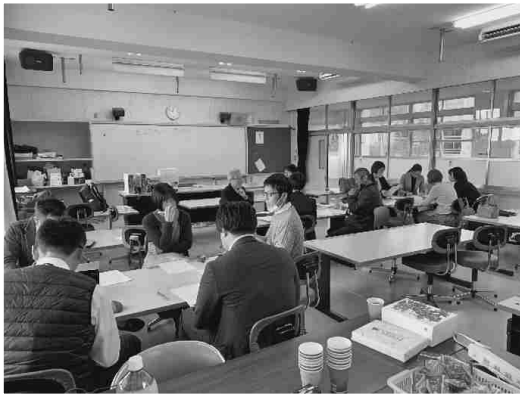
鹿児島会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2024年11月30日（土）9時30分～15時30分

会場：鹿児島市立広木小学校

参加者：吉富祐子（屋久島町立永田小学校）、菊永美樹（薩摩川内市立市比野小学校）、
山口和代（屋久島町立神山小学校）、上園弘太郎（鹿屋市立鹿屋小学校）、
竹本奈美（天城町立天城小学校）、諸平幸奈（鹿児島市立西紫原小学校）、
福留忠洋、田中春名、日高瑞貴、横山邦昭（鹿児島市立広木小学校） 計10名（欠席1名）

講師：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、新宮済（奈良女子高等学校）、中澤静男、大西浩明



菊池会場【研修⑤】「学習指導案の相互検討」

日時：2024年12月13日（金）13時30分～16時

会場：菊池市中央公民館大会議室

参加者：橋本歌織（隈府小学校）、小松凜菜（菊池北小学校）、徳渕香織（菊之池小学校）、
村上千砂子（花房小学校）、平緒郁也（戸崎小学校）、轟 佳士（七城小学校）、
大坂亜紅（泗水西小学校）高畠雅秀（旭志小学校）、鳩野文也（泗水東小学校）、
村上紀子（泗水小学校）、岡本睦（七城中学校）、吉里泰志（菊池北中学校）、
猿渡裕幸（菊池南中学校）、澁江公太（泗水中学校）、吉良宗高（菊池高等学校）
宮崎博之（菊池農業高等学校）

出席 16 名（欠席 1 名）

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、石村秀登（熊本県立大学）、河野晋也（大分大学）
遠入哲司（福岡市立原小学校）、大西浩明



福岡会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

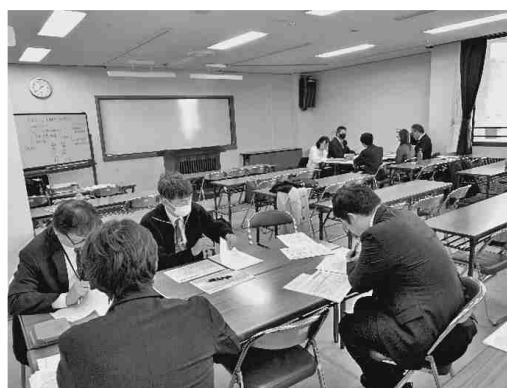
日時：2024年12月14日（土）10時～16時

会場：福岡市立中央市民センター

参加者：稲留愛（田隈小学校）、河野陽一（西新小学校）、橋本智美（三宅小学校）、
床田知子（内浜小学校）、山本隆一（南当仁小学校）、中川朋美（平尾小学校）、
枝広隆志、花田一志、松田博光、力 恵利佳、溝田友気（小呂小学校・小呂中学校）

計 11 名

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、遠入哲司（福岡市立原小学校）、島俊彦（福岡市立七隈小学校）、
大西浩明



福住小中学校会場【研修⑤⑦】 「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025 年 1 月 8 日（水）13 時～17 時 30 分

会場：天理市立福住小中学校

参加者：大野直彬、永原智子、藤田桃子、堀川淳司、溝畑桂子、向井薫汰、村田豊、山口雅史、
山村昌宏 計 9 名（欠席 3 名）

講師：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、新宮済（奈良女子高等学校）、中澤静男、大西浩明



附属中学校会場【研修⑤⑦】 「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025 年 1 月 17 日（金）16 時～18 時

会場：附属中学校

参加者：丹後七重、今西昇平、堤彦三郎、山口春菜、山本 達也 計 5 名

講師：有馬一彦、吉田寛（附属中学校）、大西浩明



※欠席者の指導案等相互検討については、奈良 ESD 連続セミナーにオンライン参加し、セミナー参加者とともにいった。

ESD プログラム (ESD ティーチャー) 履修の手引き

1. プログラムの趣旨・概要

- ・ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。
- ・本プログラムは、授業科目以外に、ESD 実践 (学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等) や、ESD 演習 (授業以外での ESD に関する学習)、現職教員と共に ESD 学習指導案作成を学ぶ ESD 連続セミナー (3 回生より) で構成されています。
- ・「スタートアップ⇒プラクティス⇒グローバル」とステップアップし、最終的に「ESD ティーチャー」が授与されます。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

- ・本プログラムはすべての学年の学生を対象としています。人数制限はありません。
- ・4 月 16 日 (火) 18:30～19:30 ESD・SDGs センター多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。説明会で申込みフォームの URL(QR コード)をお知らせしますので、履修希望が固まれば、5 月 12 日 (日) までに、フォームからお申込みください。

3. 授業科目・履修方法

(1) スタートアップ・プログラム

①ESD プログラムに関わる必修科目

前期:ESD と学校教育(木)、ESD-SDGs基礎論(火)

後期:ESD 概論(火)、ESD と生活科・総合的な学習の時間(月)

②以下の ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加し、ポートフォリオを作成する。

実践：ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺子屋支援

被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団、等

演習：ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク等

(2) プラクティス・プログラム

①選択必修科目である「環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目」「ICT、防災教育に関わる科目」、より、それぞれ 1 科目以上

②ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加 (スタート・アップと同じ)

(3) グローバル・プログラム

- ①ユネスコスクール推奨科目より 2 科目以上を履修してください。
- ②ESD 連続セミナーに 5 回以上参加し、ESD 学習指導案を作成します。
ESD 学習指導案の書き方は ESD 連続セミナーで学びます (3 回生より)。

(4) 修了の判定

原則として 3 年かけて履修していただきますが、自らの履修計画により短縮して履修することも可能です。ポートフォリオシステムを使って、ESD 実践・ESD 演習の履歴を蓄積し、最終的にポートフォリオと ESD 学習指導案を 1 月末に提出していただきます。書類審査の上、年度末に ESD ティーチャー認定証を授与します。

スタートアップ・プログラム：必修科目 (2 科目以上履修してください)

ESD と学校教育	ESD 概論
ESD-SDGs 基礎論	ESD と生活科・総合的な学習の時間
国連 SDGs 入門－「行動の 10 年」のためのサステナビリティの学び－	

プラクティス・プログラム：選択必修科目

環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目 (1 科目以上)	ICT、防災教育に関わる科目 (1 科目以上)
山間地教育入門	情報社会と法・倫理
持続発展教育と文化遺産	情報機器の操作
自然と地域の未来を探る	情報メディアの活用
フィールドワークで地域に学ぶ	教師のための情報モラル
ESD と世界遺産	ESD と防災
ESD と気候変動	地理学概論

グローバル・プログラム：ユネスコスクール推奨科目 (2 科目以上)

人権と教育	生涯教育計画特講 I	文化遺産芸術学演習 II
日本国憲法	肢体不自由教育方法	ユーラシア美術史
キャリア形成と人権	知的障害教育方法	アジアの中の日本美術史
教育人権アプローチ特講	生涯教育文化演習	地域文化論
教育人権アプローチ演習	校外学習指導特講	造形芸術学特講
文化遺産芸術学演習 I	大学での学び入門(文化遺産)	地理学野外実験
生涯教育文化特講	仮名書法論	仮名書道と実用書
国際理解地域研究	教育経営行政論	社会学
教育経営学特講	自然と地域の未来を探る	教師のための多様性理解
教育経営学演習	水圏科学	生涯教育史特講
生涯教育政策特講	公衆衛生学	教育史特講
比較文化論	日本語教授法特講	

◇ESD（持続可能な開発のための教育）とは

ESD とは持続可能な社会の創り手を育むことを目的とした教育です。2015 年に国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球的課題が顕在化してきており、世界中で SDGs 達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）では、ESD を SDGs の達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場における ESD の推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007 年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESD を推進しています。

◇ESD ティーチャーとは

ESD ティーチャーは、各学校での ESD 推進の担い手です。教師としての基盤的力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESD を実践できる力量をそなえた教員を目指します。本プログラムでは、ESD や SDGs に関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力量の形成も目指します。

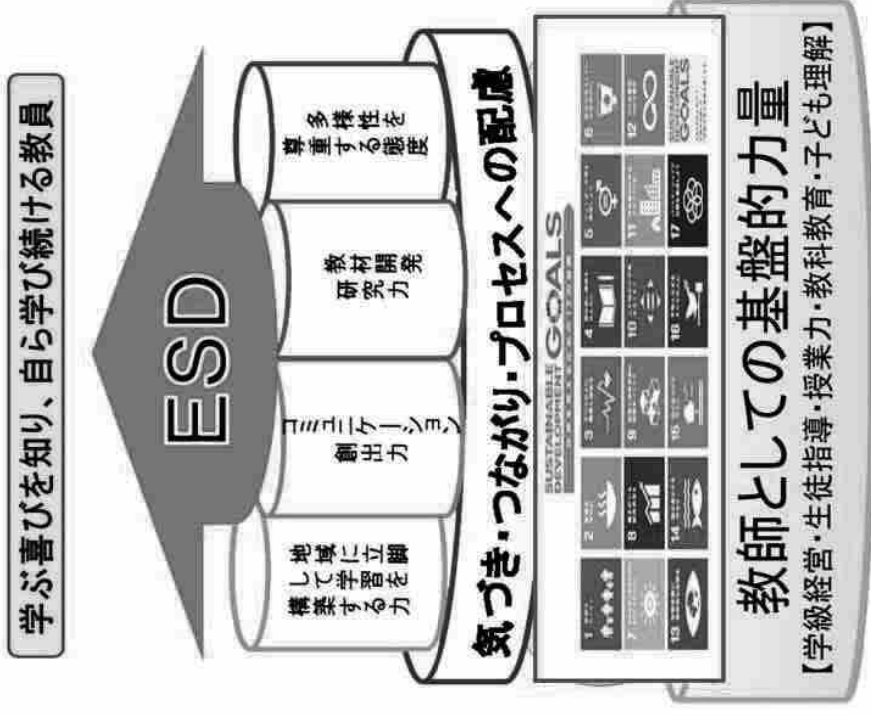
◇ESD 演習（授業以外での ESD に関する学習）

ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク、陸前高田市文化遺産調査団報告会、各種ボランティア活動報告会、ESD に関わる研究会、実践交流会など

◇ESD 実践（学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等）

ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺屋支援、被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団等、地域での環境保全ボランティア ESD プログラム登録者にメールで案内します。

◆3 回生から登録可能な「学校フイールド演習Ⅱ」の単位を修得した場合は、ESD 実践の要件（2 つ以上参加）を満たすこととみなします。



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

ESD プログラム (ESD ティーチャー) 履修の手引き (教職大学院生対象)

1. プログラムの趣旨・概要

・ ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

・ 本プログラムはすべての教職大学院生を対象としています。人数制限はありません。

・ 4月16日(火) 18:30～19:30 ESD・SDGs センター多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。説明会で申込みフォームの URL(QRコード)をお知らせしますので、履修希望が固まれば、5月12日(日)までに、フォームからお申込みください。

3. 授業科目・履修方法

(1) 現職教員以外の方

①専攻共通科目 「ESD-SDGsの理論と実践」(必修)

②専門科目 (6科目) の中から3科目選択

ESDカリキュラムマネジメント	ESDと総合的な学習の時間特講
ESDと郷土教育・総合学習	ESDと地域創生
ESDとしての教科教育実践	SDGs フィールドワーク

③ESD 演習 (2回以上)

授業以外でのシンポジウム、講演会などでESDを学びポートフォリオを作成

④ESD 実践 (2回以上)

学校現場等で行われているESDの支援を行い、ポートフォリオを作成

※ESD 演習・ESD 実践に関する情報は、ESD ティーチャープログラム受講生に、その都度紹介いたします。積極的に参加するようにしてください。

⑤以下のセミナーに5回以上参加し、ポートフォリオを作成する。

- i) 月1回、オンラインで開催するESD 連続セミナーへの参加
- ii) 年5回、県立万葉文化館で対面を実施する授業づくりセミナー

- iii) 年5回、森と水の源流館でオンラインで開催する授業づくりセミナー
いずれかに5回以上参加し、単元構想案及びESD 学習指導案の発表
をしていただきます。

(2) 現職教員の方

- i) 月1回、オンラインで開催する奈良ESD 連続セミナーへの参加
- ii) 年5回、県立万葉文化館で対面を実施する授業づくりセミナー
- iii) 年5回、森と水の源流館でオンラインで開催する授業づくりセミナー
いずれかに5回以上参加し、単元構想案及びESD 学習指導案の発表
をしていただきます。
- (3) すべての方

1月末までにESD 学習指導案を教育研究支援課に提出していただきます。

ESD・SDGs センターで審査した上で3月の教授会に報告し、学長より認定証が授与されます。

◇ESD (持続可能な開発のための教育) とは

ESD とは持続可能な社会の創り手を育むことを目的とした教育です。2015 年に国連で持続可能な開発目標 (SDGs) が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球的課題が顕在化してきており、世界中で SDGs 達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省 (日本ユネスコ国内委員会) では、ESD を SDGs の達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場における ESD の推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007 年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESD を推進しています。

◇ESD ティーチャーとは

ESD ティーチャーは、各学校での ESD 推進の担い手です。教師としての基盤的力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESD を実践できる力量をそえた教員を目指します。

本プログラムでは、ESD や SDGs に関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力量の形成も目指します。

◇ESD 演習 (授業以外での ESD に関する学習)

ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク、陸前高田市文化遺産調査団報告会、各種ボランティア活動報告会、ESD に関わる研究会、実践交流会など

◇ESD 実践 (学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等)

ESD 子どもも広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺子屋支援、被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団等、地域での環境保全ボランティア

ESD プログラム登録者にメールで案内します。



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

令和6（2024）年度 ESDティーチャー・フォローアップ研修会開催要項

1. 目的

新学習指導要領が全面実施されたことに伴い、現職教員にとって、ESD を適切に計画し実施する力量の形成は、ますます必要性が高まっている。平成 28 年度より展開する ESD ティーチャープログラムにおいて、ESD ティーチャーに認証された現職教員が全国で 500 名を超えた。そこで、全国で ESD に取り組んでいる ESD ティーチャー・マスター・スペシャリストを対象に、そのフォローアップとしてオンラインによる研修会を実施することで、参加教員の ESD の更なる理解促進と、参加教員相互のネットワークの形成を目的に、本研修会を開催する。

2. 主催 奈良教育大学 ESD・SDGs センター・近畿 ESD コンソーシアム

3. 対象 ESD ティーチャー・マスター・スペシャリスト

4. 内容 Zoom を用いたオンライン研修・交流

- ・ ESD や SDGs の理解促進を目的とした研修
- ・ 参加教員による実践事例の相互検討
- ・ 参加教員作成の ESD 学習指導案や単元構想案の相互検討

5. 方法

- ・ 原則として 1 回／2 カ月（計 5 回）。Zoom を用いたオンライン研修・交流会
- ・ 全国の ESD ティーチャーに毎回、開催通知、URL をメール送付し、参加を呼び掛ける。
- ・ 各回 1～2 名の実践について相互検討を行う。
（緊急に単元構想案や学習指導案の検討を行う場合もあり）

6. 担当者（企画・運営） 大西・中澤：現職教員の経験を有する大学教員

7. 開催日時（いずれも時間は、19 時～20 時 30 分）

- ① 5 月 2 1 日（火） 【実践報告】愛媛県宇和島市立遊子小学校 西原睦美氏
- ② 7 月 9 日（火） 【実践報告】福岡市立小呂小学校・小呂中学校 枝広隆志氏
- ③ 9 月 1 7 日（火） 【実践報告】山形大学附属特別支援学校 阿部友幸氏
- ④ 1 1 月 1 9 日（火） 【実践報告】比叡山中学校・高等学校 伊藤由季氏
- ⑤ 1 月 2 8 日（火） 【実践報告】福岡市立内浜小学校 床田知子氏

このほか、山形、沖縄、屋久島など、これまでの開催地域で要望があれば開催する。

8. 期待する効果

- ・ ESD ティーチャーの ESD 実践力の向上及び ESD の質的向上を図る。
- ・ 全国の ESD ティーチャーの取り組みを把握し、成果発表会・実践交流会につなげる。
- ・ 全国の ESD ティーチャー、ならびに各地の ESD 研究会のネットワークの形成を進める。

第1回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2024年5月21日（火）19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 30名

◇実践報告 愛媛県宇和島市立遊子小学校 西原睦美先生

「地域教材を生かした社会に開かれた教育課程の推進」

～児童のシビックプライドの醸成と行動変容を目指して～

小学校6年総合的な学習の時間の実践から

【実践概要】

○授業のねらい

全校生徒20名の小規模校に昨年赴任

20年前には100名程度いた 急激に子どもが少なくなっていることを実感している

6年生は7名で、おとなしい子が多い 自分の意見がなかなか言えない

総合的な学習の時間で身につけさせたい資質・能力を学校として明らかにする

目指す児童像を明確にし、年間を見通して意図的・計画的に学習を進められるよう、単元構想（カリキュラムマネジメント）案を作成し、学習指導案の検討を行う

→「遊子の防災大作戦！」

（ティーチャープログラムにおける自らの学び）

- ・現在の問題が全て因果関係を持ち、つながっているということを子どもたちにどのように意識させるか
- ・ESDは社会づくりに関わる人々の価値観と行動の変容を促す教育
- ・どれだけ具体的に授業をイメージできるか
- ・他校の先生たちから意見や助言をいただき、自分の考えが明確に

ESDを知ることで授業がブレないようになった

授業を創る楽しさと喜びを感じながらできるようになった

○実践概要

「避難路に関する学習」

コロナ禍で子どもが学校に来なくなり、教員が何かできないかと学校の裏山の整備が始まった

地域の方などが協力して新たに避難路ができる（行政がやったものではない） 3年かけて

それまでは海沿いの道路を通してしか避難できなかった

地域の人のおかげで避難路ができた → 自分たちも地域に対してできることはないか

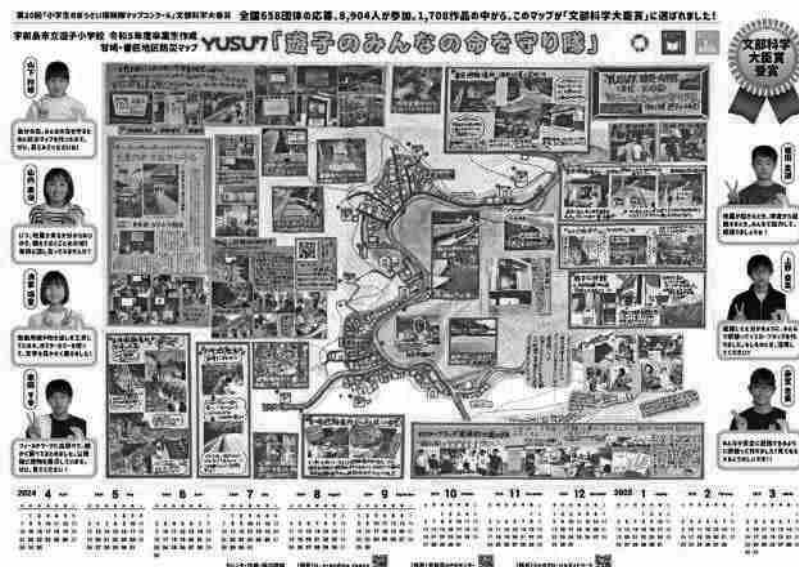
イエローフラッグづくり・・・防災に関する資料とともに各家庭に配布（約400）

防災マップづくり・・・タブレットを活用し、写真を撮るとマップが作れる

専門家にも協力してもらう

地域の人に意識してもらえるように

文部科学大臣賞を受賞



子どもたちが自信を持つきっかけに
地域の人たちが子どもの頑張りを認
めてくれる

NPOの方に協力してもらって、マッ
プ付きのカレンダーを作成
200枚を地域に配布

自分たちのつくったものが地域の人
たちのところへ広がっていくことの
驚きと喜び

(子どもの変容)

国語科「私たちにできること」・・・環境問題について関心を持ち、自分たちにできることを考え実行
算数科「票とグラフ」・・・小学校でのエアコン使用量をグラフ化
理科「生物のくらしと環境」・・・現在の問題点と解決方法を考える
給食・・・残飯ゼロを目指す取り組み
自分たちでできることをどんどん行動化するようになった

ここまでの取組を各自新聞「防災だより」にまとめる

ゲストティーチャー（地域の方や授業でお世話になった方々9名）を招き内容を検討
自分たちのやってきた取組は「共助」につながる 役に立った！



(成果と課題)

- 他者からの称賛を喜び、学習を重ねるごとに、自信を持った発言、より意欲的な言動が見られるようになった
- 地域教材を活用し、総合的な学習の時間を核として各教科を関連付けながら学習を進めることは、児童のふるさとに対するシビックプライドの醸成や行動変容に役立つ

○ゲストティーチャーや専門性のある講師が授業に参画することにより、授業の質が高まり児童の学びも深まる

●6年間を通した探究的な学びにつながる系統性・継続性のある教育課程の構築ができていない

●外部組織・人材等とのより持続可能な連携と組織づくり

○意見交流から

Q：9名ものゲストティーチャーと子どもとの関わり方がどうであったか？

A：ゲストティーチャー3人ずつ3つのグループに分かれてもらい、子どもらが各自作成した防災だよりを紹介し意見を求めた。それぞれの視点から意見やアドバイスをもらう。（3回ローテーション）

Q：子どもの資質・能力の変容を具体的に教えてほしい

A：人と関わるのが苦手だった児童が、自信をもって質問したり説明したりできるようになったことがいちばん大きな変容だと感じている。

Q：ゲストティーチャーも含めた地域の教育的資源はこれまでにあったのか？

A：地域の人たちが学校に対して非常に協力的なところ。自然な形で話を進めることができた。

Q：子どもの変容と同時に大人の変容も大事だと思うが、関わってくれた地域の大人たちに変容はあったか？

A：子どもたちの頑張りに市議さんが応えてくれ、市の予算で避難路近くに電灯をつけてくれたりした。急激な変化はないかもしれないが、防災に関して「自分たちもちゃんとしなければ」という思いが生まれてきたように思う。本来は大人がしないといけなことを子どもがやっていることで、大人が少し動き出したというところだと思う。

Q：先生自身が「自分事」になった瞬間は？

A：「本当に地震が起こったときに自分は子どもたちを守ることができるか」と考えたときに、あまりにできないことが多すぎると感じた。実践を通して、保護者に伝える際にもより具体的なことを話せるようになった。

Q：裏山の避難路を使った訓練は、今はどうなっているのか？

A：完成以来続けているが、もとは土だったところを上りにくいという子どもの声から、地元の建築業者の方でコンクリートになったり、手すりがついたりして改善されていっている。

そういう経緯も子どもたちが知ることで、自分たちが地域に思ってもらっていることに気づけた。

Q：子どもが自分の家にいるときにどう避難するのかは、どう理解しているのか？

A：家庭によって状況は違うので、それぞれシミュレーションをする時間をとった。

- ・子どもが地域の人々の思いを実感し、それに応えようとする子どもの姿に地域の人々がさらにそれを見て活動するという好循環が、地域のアイデンティティを形成していくのだと感じた。
- ・防災学習でも、他の行事でもそうだが、それをする事でどのような力を子どもの身につけさせるのかを明確にしないと、子どももやらされる学習になってしまう。
- ・教師の目的、熱い思いが大事なんだと思う。

第2回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2024 年 7 月 9 日（火）19 時～20 時 30 分

◇方法 Zoom によるオンライン方式

◇参加者 30 名

◇実践報告 福岡市立小呂小中学校 枝広隆志先生 ほかに小呂小中学校の先生方
「小呂小中学校における ESD」

【実践概要】

小呂島・・・周囲 3.5 km 人口 150 人 漁業が主要産業 病院なし 信号なし

警察、郵便局、コンビニもなし

福岡市姪浜港より船で 65 分 日に 1～2 往復の渡船も年間 170 日ほど欠航する

最近では漁業が不振、人口減少 → 島存続の危機

小呂小中学校・・・校地校舎一体型小中併設校 小学生 8 名、中学生 4 名、教職員 18 名

最盛期は 62 名 → 学校存続の危機

⇒ 小呂小中学校の使命

「小呂島の持続的発展を願い、その主体となり
行動する児童生徒を育成する教育」



小呂島を深く理解し、郷土小呂島を愛する

漁業の不振

気候の変動

漁獲量の減少

島の経済状況
の変化

人口の減少

島・学校の存続の危機

教育の質の確保

校長として、

- 1 年目－課題の把握 「課題解決の手段として ESD がふさわしい」
- 2 年目－ESD の推進を学校経営方針の中に位置付ける
- 3 年目－テーマ研究で ESD を研究していこう
- 4 年目－さらに組織的に ESD を推進

小呂島という地域を題材とした学習

- ・ 小学校では島のよさに着目した題材設定 5・6 年では小呂島の発展に貢献する人に着目
漁師カードを作成し、島の特産品の購入者に配布
- ・ 中学校では、島の課題に目を向け、それを解決する主体となるための取組
島の人の話から 「昔は魚もよう獲れたけんね」「俺たちが子どもの頃は子どももいっぱいおった」
島の代表者との意見交換会 島内清掃活動に参加 → ごみの多さに驚く
「私たちがポスターをつくり島民に呼びかけます！ いっしょに行動しましょう！」
離島振興に詳しい方に聞いてもらおう
「小呂島の発展のために、こんなことをしたらいいと思っていますが、どうでしょうか？」
「〇〇島でも同じような取組をしたけど、こんな問題点にぶつかったよ。」
「〇〇島では、そのときこんな工夫をしたらうまくいったよ。」

学習した内容を発信するとともに、他の取組を聞き交流することで考えを深める場

「離島学校サミット」3年目 他の離島での取組を知る 離島経済新聞社に協力を依頼

離島ならではの悩み、喜びを共有できる

気候も風土も産業構造も違う島の、多様な文化に寛容で柔軟な心を養う

4校に絞る・・・オンラインでも単発ではなく「顔の見える交流」にしたい

2022年—新潟県佐渡島、三重県神島、奄美大島の学校と交流

2023年—東京都利島、三重県神島、奄美大島の学校と交流

2024年—長崎県黒島、鹿児島県黒島、奄美大島の学校と交流

年間3回の交流 ①お互いの島を知ろう ②もっと仲良くなろう ③私たちの島のSDGs

この取組を持続可能なものにするには、

- ・参加希望の学校がすべて参加できる体制の確立
- ・専属事務局の開設
- ・すべての参加校が win-win の関係に

(今年度赴任してきた教員の話)

個人のESD推進では限界がある。学校経営方針にESDが位置づいていることで、学校全体でESDをやっていかうとしている。自分にとっての大きな刺激にもなっている。学校行事など様々な教育活動をSDGsの17の目標を位置付けている。

(小呂小中3年目の養護教諭の話)

健康な生活を送ることのサポートとして、毎月子供向けの保健だよりを発行している。

「誰一人取り残さない」ために、関係機関と一緒に支援

(研究主任の話)

子どもたちの学びや行動が持続可能な社会づくりに向けてどうつながっているかが見えるように、カリキュラムマネジメントの表を作成し、教科間のつながりなども見えるようにしている。

(中学部教頭先生の話)

離島学校サミットの取組を通して、1年目、中学生自ら「自分たちが小呂島のためにできることは何だろうか?」と考えるようになった。2年目、だれもが来たいと思える島にするための清掃活動を続けた。3年目、きれいな小呂島を汚さない、守っていくために島民への啓発活動を行っている。それをサミットで発信、交流することで、学びが深まっていると思われる。

【子どもの変容、職員の変容、島民の変容】

- ・3年前と比べて、子どもの発言の中に「小呂島が」というものが増えてきた。「小呂島と同じだ」「小呂島とは〇〇が違う」など。
- ・福岡市主催の英語スピーチコンテストで「小呂島の紹介」を積極的に行った。
- ・行事にSDGsを位置付けているので、ねらいが明確になり、職員間での共通理解が図られている。
- ・行事、授業そのものが持続可能なものなのか、子どもを中心に据えたものになっているかという職員間での話が増えた。
- ・漁業の不振により自信を無くしかけている島民は多いが、ゲストティーチャーなどで学校にいろんな人来てもらい、子どもたちと島の未来について一緒に話し合うことで、「島をよくしていこう」とする相乗効果が生まれているように感じる。

【質疑応答、意見交流】

Q.このような学校の取組、ESD の推進について、保護者や地域に対し、どのように伝えていったのか？

A.「小呂フェスタ」のような島民が多く集まるときに、子どもたちが学んだことを発信する場にしたり、考えたことを伝えたりする場にした。

Q.サミットは離島以外でも、また大規模校でもやってもいいのでは？

A.6年生では、北海道の離島ではない学校とも交流したりしている。

Q.「日本離島振興協議会」というのがあって、そことコラボしてもいいのではないだろうか？

宗像の社領でもあるというなら、歴史ガイドツアーなんかもできて、子どもの活躍の場にもなる。

A.わくわくできるような取組で、そういうものができるといい。

Q.卒業生など OB の方の話を聞く機会などはあるのか？

A.島には高校がないので、中学卒業と同時に島外の高校へ進学する子どもが大半。そんな卒業生に「ようこそ先輩」として様々な話を聞く機会をもっている。

○福岡では高校入試が変わってきていて、小呂小中学校が取り組んでいるような、探究的な学びの中で自分の確たる考えをもったり、プレゼンしたりする能力が求められている。学力の捉えが変わってきていると言える。その意味でも、小呂小中のような取組は今後大事になってくると思われる。

○学校全体で、チームでいろんなことができるということ自体がうらやましく感じる。

Q.中学校、小学校5・6年以外の取組を教えてください。

A.3・4年生は、市内4校と毎週金曜日の朝の会でオンライン交流をしている。

Q.「自分事にする」ポイントを授業のどこに置いているか？

A.たとえば、毎時間の振り返りに SDGs と絡めて、今日学んだことはこれと関係があるということを明確にさせたりすることを繰り返し行っている。

○学校存続の危機、地域コミュニティの存続という視点で ESD を進めているというところに、大きな価値と可能性が見える。この取組は、子どもたちのこれからの人生においても、とても大きな足跡になるはず。そんな島で育ったという財産になると思う。

○ESD は子どもの変容がいちばん問われるので、どこがどう変わったのか、なぜ変わったのかなど、しっかりとしたデータをもとに分析することで、この取組がより確かなものになると思う。その蓄積を図られてはどうか。

第3回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2024 年 9 月 17 日（火）19 時～20 時 30 分

◇方法 Zoom によるオンライン方式

◇参加者 18 名

◇実践報告 山形大学附属特別支援学校 阿部友幸先生

「食べ物で困っている人のためにできることを考えよう」

【実践概要】

知的障害のある児童・生徒 小学部 16 名、中学部 17 名、高等部 20 名 計 53 名

総合的な探究の時間の 4 グループのうち一つのグループ 5 名（高等部 2 年 3 名、3 年 2 名）での実践

これまで総合的な探究の時間では、地域の高校の福祉科の生徒と後期に 2 回交流するだけだった
年間を通した SDGs に関わるグループでの探究活動をしたいと考えた

生徒の関心から、SDG 2「飢餓」について探究することに 5 月に学習開始

飢餓・・・空腹（お腹ペコペコ）

5 名のうち、いちばんできる子で小学校 5 年生程度と考えられる

この時点では、「食べ残しをしない」など、自分の行動のみに注目し。問題が分かっていない

→ 世界の状況について調べ学習 9～10 人に 1 人が、食べ物がなくて困っている

栄養が足りないと病気になりやすい 大きくなれない 死んでしまう人もいる

なぜ食べ物が無いのか？ 災害、貧困、戦争・・・

日本にも困っている人はいるのか？

フードドライブをしている「やまがた福わたし」 山形のスーパーでは食べ物を入れる箱が置いてある

企業や個人から食べ物や日用品を寄付してもらい、要支援者へ届ける

生徒から「やまがた福わたし」に連絡をとり研修をお願いする（なかなか自分で電話する機会がない）

→ オンライン交流 あとから小分けした動画を見直して理解する

その後、教師自身がフードドライブの研修に参加

「お福分けプロジェクト」をやりたい！ 家で余っている食べ物を困っている人に届けたい！

→ まず自分たちがやって、他の人にも協力してもらおう！

10 月 家で余ったものを持ち寄る（缶詰、いただき物）

「うちは母が使い切る分しか買わないから余り物がない」

マックスバリュに見学 「福わたし」の「お福わけ BOX」が設置されている 食品を入れてみた

「なぜ箱を置いているのか？」店長より話を聞く 「なんとか協力したかったから」

「1 日 100 円しか使えない人」 実際に 100 円で買ってみる・・・お菓子ぐらいしか買えない

↓

学校でもフードドライブをやってみよう！ 福わたしに相談してみよう！

→（福わたし）「県庁なら話をしてもらえる」「県庁に電話してほしいしょう！」

12 月 県庁でフードドライブについて説明を聞く

フードドライブの準備（チラシ作成、配布）

1月 フードドライブ実施 4日間、朝の時間、生徒昇降口で 地元テレビ局の取材
食品の種類に分け、コンテナに整理 数ではなく重さでチェック
贈呈式・・・福わたし代表の伊藤さんに初めて出会う

伊藤さんから、要支援者からの声を直接伝えてもらう

食べ物で困っている人がどんな思いでいるのか、どう助かるのか実感する

(生徒の振り返りから)

- ・「初めて困っている人を助けることができました。」 自分が課題解決に貢献したことの実感
- ・「山形にも食べ物に困っている人がいることが分かりました。」 地域の課題への気づき
「やまがた福わたしさんみたいに、困っている人を助けている人がいることが分かりました。」
- ・「これからも食べ物の寄付を続けたい。」
- ・「困っている人を助ける他の方法について知りたい。」
「買い物をするときに、余らないように上手に買うようにしたい。」
「食べ物を無駄にしないように努力したい。」

【意見交流】

- ・助けてもらうことが多い特別支援の子どもが、「初めて困っている人を助けることができました。」と実感していることが、この実践の大きな価値だと感じる。
- ・この取組をいかに継続していくかが大事だと思うが、特別支援学校ではなかなかハードルが高い。学年単独では難しいので、学校全体の取組になっていけばいいと思うのだが。
 - 文化祭などのイベントとくっつけてできないか。
夏休みのボランティアなどでできないか
1学期だけなど期間限定でボランティアを募ってやるのが現実的かも。
保護者や地域巻も巻き込むといい。
小学校であれば継続できそうな感じもする。
- ・「社会とつながる」実践になっていて素晴らしいと思う。
- ・自分の学校ではフードドライブの取組をやってはいるが、行事化されてしまってその意味について深く考えるような取組にはなっていない。「何のために」やっているのかをしっかりと学ばせたい。
- ・特別支援の子どもたちがいかに社会とつながるか、社会の役に立てるかを、このように意図的にかつ生徒主導で活動できるようにされていることが素晴らしいと思う。
- ・自分たちで今後の方向性を生み出していくことが大事なんだと感じた。
- ・ESDの研修に参加して、ゲストティーチャーとの出会わせ方や、単元構想図の大切さが分かり、この実践でも非常に役立った。
- ・高等部として、作業所ですのような仕事と関連させてフードドライブをやってみると、卒業後の進路にも関わっていいかもしれない。
- ・特別支援だからできた、できないではなく、根底にあるのは「誰一人取り残さない教育」と考えたら、これはまさにESDだと思う。
- ・「社会の役に立つ」経験が、学びの深まりにつながっている。こういう社会参画こそが学びの中で体現されれば、ESDとしての価値も大きくなると思う。

第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2024 年 11 月 19 日（火）19 時～20 時 30 分

◇方法 Zoom によるオンライン方式

◇参加者 23 名

◇実践報告 延暦寺学園 比叡山中学・高等学校 伊藤由季先生

「ESDと家庭科 ― 中学・高校の実践報告 ―」

【実践概要】

1) 「風呂敷から考える持続可能な未来」(高校2年) 全10時間

目標：風呂敷を入口にして自らの価値観とライフスタイルの変革を促す

風呂敷を入口にして脱炭素社会を実現するための社会変革を先導する人材を育成する
滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの方と单元構想の段階から協働

授業づくりのポイントとして、

- ・発問中心の応答的な授業展開
- ・体験的な学習活動の重視
- ・協働的、主体的な学習の実践

(みつめる)

「あなたが一つだけ携帯できるとしたら、どれを選びますか？」レジ袋・紙袋・エコバッグ・風呂敷
体験・・・それぞれにいろいろなものを入れてみよう → 風呂敷の融通性（長所と短所）に気づく

(しらべる)

「風呂敷にできることって何だろう？ 動詞で表現してみよう。」

遊ぶ、運ぶ、包む、洗う、背負う、飾る、敷く、拭く、被る、覆う、贈る、収納する・・・

紙袋やエコバッグではできないことも、風呂敷はどれもできる → 風呂敷の汎用性

風呂敷に限らず、日本の生活文化の共通性を知る（箸、畳文化など）

(ふかめる)

センターの方をGTに、風呂敷の活用方法や結び方などを学ぶ

体験と講義 「災害時の風呂敷の活用方法」「なぜ今風呂敷なのか？」・・・

脱炭素について結びついていく過程

(ひろげる)

グループごとに「風呂敷×脱炭素」をテーマにした5分間のプレゼン

- ・ゲームの運営者になって世界中のプレイヤーに風呂敷を広める
- ・「風呂敷ロックフェス」を開催する（知事に開催要望の手紙） など

ろうけつ染めでオリジナルの風呂敷を作成する

風呂敷を使ってみようキャンペーン（修学旅行に持参、活用）

学校と拠点が連携することでより質の高いESDが可能となる

互いの熱量をもって、時間をかけてねらいと思いを共有することが大事

2)「ふなずしから考える持続可能な郷土の未来」(中学2年) 全16時間

目標：郷土食の本質(その土地の産物をその土地に伝わる調理法でつくるといえばおいしく、健康づくりにもつながる)に気づく

環境保全と社会貢献の具体的手段を自分事として検討する

現代人の「食べる」という営みを批判的に考察する

夏休みの自由研究「滋賀の郷土料理」

それらの郷土食がどのようにして郷土食になり得たのか

湖魚の現状と課題について調べ、考える

(調理実習)湖魚を使った調理実習…滋賀県水産課の方をGTに

アメノイオ(ピワマス)炊き込みごはん、コアユの佃煮、シジミ汁

湖魚の有用性ととも抱える課題を実感する

(出前授業①)「ふなずしという食文化とその未来」…鮎寿し魚治さん(湖里庵)

ふなずしの試食

(出前授業②)「琵琶湖の環境と生態系」…滋賀県水産課

ニゴロブナの漁獲量の低下 「漁獲量が上がればふなずしは継承されるのか？」

(出前授業③)「食と農を明日へつなぐ」…針江のんきいふあーむ

無化学肥料無農薬栽培に取り組まれている 「いのちのゆりかご」と称される田んぼ

琵琶湖とつながる田んぼは「環境にやさしい農業」であるべき

様々なGTを通して社会のリアルを知ることができる 学習が精緻化され深まる

MLGs(Mother Lake Goals)美しく豊かな琵琶湖を次世代に残すための13のゴール

→ 中学生の自分たちができることは何かを考え発信、行動

郷土を守り愛する心情をよりどころにして、自らと社会の変容を目指す生徒を育てたい

【意見交流】

- ・ 構想段階から拠点といっしょに授業づくりをしていくことのメリットや大変さについて
 - 時間はかかるが、こちらのねらいと相手側の思いをすり合わせていいものにできる。
 - 飛び込みで行っても、受けてもらえることは多い。教師の熱と思いは重要。
- ・ 風呂敷は韓国にも同じ文化があり、共同研究ができておもしろい実践になりそう。
- ・ 琵琶湖の水がどこから来てどこへ流れていくのかなど、水の循環について学んでいるのか？
 - 滋賀県の小学生は5年生で「琵琶湖フローティングスクール」で学んでいる。
- ・ 使い終わった布を使って風呂敷にアップサイクルするというプレゼンをしたグループもあった。QRコードを付けて、包み方や結び方の動画へアクセスできるおまけも。
- ・ 風呂敷を使ったラッピングコンテストなんかだったら校内でもできて面白いかも。
 - SNSにはいろんな風呂敷の使い方が出ている。
- ・ 風呂敷の汎用性や融通性については、小学生でも授業でやったら気づけるいい問いだと感じた。
- ・ 問いの立て方、目標の持ち方で大事にしていることは？
 - まずは目標を明確にする。問いづくりは時間をかけてかなりいっしょうけんめい仲間と考える。
 - 絶対授業を面白くしてやる！ そのための題材との出会い
- ・ 継続して学校として取り組んでいくうえで大切なことは？
 - 学校全体でやっていこうという雰囲気はなかなか生まれてこない。

自分が他の先生の授業を見に行く、自分の授業もいつでも見に来てもらうことをやっている。

拠点等から依頼された仕事はできるだけ断らない。 信頼関係は大事。

- ・伊藤先生のように、大変だけど楽しそうに授業づくりに向き合っていると、特に若い先生たちはその様子を見てついてきてくれるのでは。
- ・「つまらない授業をするとストレスがたまる」というのはその通りだと思う。だから、絶対授業は面白くしてやるというところに、ESD の真髄があるかもしれない。
- ・風呂敷に代わるものって何かな？ 滋賀はふなずし、自分の地域だったら何かな？ この実践は汎用性があると感じる。



第5回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2025 年 1 月 28 日（火）19 時～20 時 30 分

◇方法 Zoom によるオンライン方式

◇参加者 23 名

◇実践報告 福岡市立内浜小学校 床田知子先生

「なんでこんなことしなくちゃいけないの？ 日本の学校」

— 外国にルーツをもつ児童へのアプローチ —

【実践概要】

35 年間担任をしていたが日本語指導に関わって 3 年目

1) 外国にルーツをもつ児童への日本語指導とは？（福岡市の場合）

他の小学校から週に一度拠点校に 90 分授業を受けるため通級

自分の学校で別の日本語指導員から最大 96 時間の日本語指導が受けられる

現在 20 名担当している（中国、香港、アフガニスタン、ミャンマー、バングラディシュなど）

日本語の授業に加え、保護者や担任、管理職、市教委などとの連絡が大変

2) 日本の学校文化を教えようという考えが根本から間違っていた

外国にルーツをもつ子どもにとっての大きな壁になるもの

→「だれかのための行動」をあたり前のように強いられる（掃除、当番活動、給食、係活動など）

だれかのために働くことは満足感が得られることを、教え諭そうとしていた これが失敗

単元「みんなのためにできること」を実施

働くことはみんなのために役立つという喜びに気付くことができる ESD と関連させて

人権・文化の尊重・・・多様な文化のあり方に目を向ける

（授業の流れ）

- ・日本の学校についてアンケート

「日本の学校に来ておどろいたことはなんですか。」

「日本の学校でいいなと思うことはなんですか。」

「日本の学校でいやだなと思うことはなんですか。」 否定的な意見はほとんどなかった

- ・道徳「みんなのために」を読み、みんなのアンケート見ながら自分の考えと比べる

すすんで働くということについて考える

児童・生徒が掃除を行う国・・・34.3% それぞれちゃんとした理由がある

- ・「みんなのためにはたらく」について自分の考えを絵や文章にまとめる

自分の国では学校でそうじをしない そうじをしたら気持ちがいい。

自分がしたことが周囲を幸せにする 自分のできることがふえた気がする。

言葉もわからない中で学校生活を送っている子どもたちへのアンケートだったが、想像していたより子どもたちは日本の学校生活（そうじ・給食の配膳・係の仕事）に良さを感じていることが伝わってきた。

「みんなのために」という観念が外国にルーツを持っているから違和感があるであろうという仮説自体が偏見だったのではないかという考えにいたった。子どもたちは、もともとそうじや給食配膳など個々の活動に違和感があるのではなく、はじめての活動だから違和感があったということが伝わ

てきた。

「そうじについて（中国から男子5年生）」

4年生のとき、日本にきて、ぼくはそうじがいやだった。せんせいがこくばんのまえのほうきをしてねといったので、ほうきもったけど、そうじはしていなかった。もんくをいわれてけんかになったこともある。せんせいは、ぼくがなれるまでかんたんなまどふきをしてといった。それもしなかった。そうじをしないでかくれていたこともある。せんせいは、中国では学校でそうじをしないところもあるとみんなにいつてくれた。それはほんとうです。でも、いまはそうじをしている。まいにちみんなしているし、やってみてなれてきた。おかあさんは、それならいえでもそうじをなささいというけれど、いえではしていない。ぼくは、そうじはあまりじょうずではないけれど、みんなでそうじをすることはいいとおもう。ただ、ぼくよりもそうじをしていないともだちもいる。いいことだから、みんなでそうじをしていこう。

にほんの学校について、ともだちとけんかをするけれど、それいがい、わるいところはない。

にほんの学校は、こどもにやさしいとおもう。

「やすみじかんとかかりのしごとについて（中国男子6年生）」

にほんのがっこうで、いちばんいいところは、ひるやすみ、そとであそぶことができることです。まえ、ぼくたちは、ひる、かならず30ふんひるねをしなければだめでした。ともだちとはなしをすると、せんせいにおこられました。それをいうと、にほんごのせんせいから「ひるねは、あたまにいいからしていたのよ。にほんのがっこうでもしたらいいね。」といったけど、ぜったいにやめてほしい。そとで45ふん、あそべるなんてしあわせです。ひるねよりあそびです。

みんなは、やすみじかんにあそべるから、たのしくなかよくあそぼう。

しかし、たのしいやすみじかんをとられるのが、いいんかいかつどうです。ぼくは、しいくいんかいです。うさぎのふんをとる、そうじ、みずやり、えさやりはたいへんです。でも、わすれたらうさぎがかわいそうです。さいしょは、「あそべない。いやだー。」とおもっていたけど、あついとき、さむいとき、うさぎのことがとてもきになります。あそびはすきだけど、うさぎのこともきになります。いまは、ともだちといっしょにはやくそうじをして、あそびかんをながくしています。

かかりのしごとについて（アフガニスタン女子4年生）

わたしはおてつだいがすきです。だからせんせいのおてつだいかかりをしています。せんせいヘルパーです。プリントをはこぶと、せんせいが「ありがとう。たすかります。」といってくれます。いえでもしています。わたしは、まえ（アフガニスタン）では、がっこうにいていなかったの、にほんのがっこうがだいすきです。べんきょうをがんばって、せんせいになりたいです。

がっこうでみんなとあそぶのがだいすきです。べんきょうもだいすきです。

3) 子ども、保護者からのメッセージ 「日本の先生ありがとう！」（保護者アンケートより）

「日本の学校に来て驚いたことは何ですか？」

- ・非常に歓迎してくれたこと
- ・運動場も広く、様々な活動ができる。
- ・日本語を基礎から教えてくれた
- ・先生やスタッフは家族のように接してくれる
- ・掃除や給食の配膳を子どもがすること
- ・毎日宿題が出て、それを先生がしっかりチェックしている
- 先生方の労力はいかばかりか、かなりの長時間労働をしていると思われる

「日本の学校でいいなと思うところは？」

- ・たくさんの教科、スケジュールがある
- ・とても清潔で広々している
- ・友好的
- ・多様性を学べること
- ・先生方がとても親切
- ・クラスメイトも親切
- ・運動会などの学校行事ときに親切に、また配慮もしてもらった

「日本の学校でいやだなと思うことは？」

- ・ありません
- ・日本の保護者は、先生への要求が高く、先生がどれだけ長時間働いても当たり前だと思っているのではないか。忍耐強く、寛大で、いつも助けてくれるのが当たり前だと思っているのではないか。
- 「日本の先生ありがとう！」…将来、先生になりたい

(子どもへのアンケート結果)

1. 日本の学校に来て おどろいたことは 何ですか。

- ・第1位 先生がやさしい。(10名)
- ・第2位 べんぎょうのしゅるいが たくさんある。(9名)
- ・(体育・音楽・図工・家庭科など)
- ・第3位 どうしがある。(9名)
- ・第4位 りょうやピクニック(えんぞく)がある(6名)
- ・第5位 しゃうしゅくがある。じぶんたちでくぼる。(5名)
- ・第6位 あるいてこないどいけない。しゃくだいがすくない(3名ずつ)
- ・第7位 かんしする人がすくない(2名)
- ・第8位 かかりのしごとがある おやのおくむかえがない(1名ずつ)

2. 日本の学校で いいなと 思うところは 何ですか。

- ・第1位 せんせいがやさしい。(おこるとこわいけど)(9名)
- ・第2位 あどびのじかんがある。(やすみじかんがある。)(8名)
- ・第3位 音楽・体育・図工・家庭科がある。(7名)
- ・第4位 しゃうしゅくがある。おいしい。(5名)
- ・第5位 しゃくだいが すくない(3名)
- ・第6位 ともだちがやさしい。めんどろをみてくれる。(3名)
- ・第7位 べんぎょうじかんが すくない。(多くの国は1、2年生でも7時間授業。)(2名)
- ・第8位 いろいろな活動があり、全て子どもに役立つ(1名)

3. 日本の学校で いやだなと 思うところは 何ですか。

- ・第1位 いやなことはない。せんぶオッキー。(14名)
- ・第2位 なまえや かみのかいなどで いやなことをいわれた。(でも、せんせいかもものすごくおこってくれた。)(1名)
- ・おんなのこと なかよくしていたらアラアラといわれる(1名)
- ・じぶんだけ かかりのしごとをしないといわれ いわれて とてもいやだった。(1名)
- ・グループかつどうのとき、いっしょのグループになったら「あーあ」といわれた。(1名)
- ・アイスかノーかははっきりしない。なんて思っているかわからない。(1名)

【意見交流】

○ESD の視点を入れたことで、これまでの指導と変わったところは？

→ きちんと学習のゴールを見据え、そこに ESD の視点が入ったことでブレなくなった。

○「やさしい日本語」を使うことの大切さを教えてほしい。

→ 学校で使う日本語は特殊なものが多く、翻訳アプリで訳しても意味が伝わらないことがよくある。

通知表の所見、「○○をご遠慮ください」「取り組む」

一見乱暴な表現も、その方が相手には正しく伝わる。 短文で。

○外国にルーツをもつ生徒に限らず、全生徒の育ちのルーツにも目を向けることの大切さに気付かされた。

○学校に日本語指導の先生が来ても、担任との意思疎通を図る時間がとれていないのが現状。

→ 連絡ノートを活用している。メール、電話。

「学級担任のための外国人児童指導ハンドブック」(菊池聡 著)の必携を勧めます。

○「みんなのためにすすんで働く」というのは外国人児童だけでなく、どの学級でも大事な指導になる。

○外国人の子どもたちの成長が、周りの日本人の子どもたちの成長にもつながっていると思う。

○日本語指導をやって見えてきた学校文化は？

→ じっくりと考える時間が与えられていない。 先生自身が幸せにならないと。

日本の先生は本当にすごい！

○自分の常識がみんなの常識と考えてしまっていることが多いのではないかな。

まさにクリティカルシンキングの重要性

○人と人とのつながりがあってこそその「幸福」ではないか。それをつくっていくのが ESD だと思う。

ESDティーチャープログラム（山形会場）フォローアップ研修会 開催要項

1. 目的

2020 年度、2021 年度と 2 年間にわたって ESD ティーチャープログラムを山形市で開催し、その後奈良 ESD 連続セミナーに継続して参加することで、山形から **2 名** のスペシャリスト、9 名の ESD マスター、17 名の ESD ティーチャーを認定してきた。さらに、受講者を中心に、「やまがた SDGs・ESD 研究会」が結成され、自主的な研修が継続されている。今年度は、新たにスペシャリスト 1 名が加わる予定である。また、森と水の源流館授業づくりセミナー、フォローアップセミナーにも研究会メンバーが数名参加し、実践発表や学習指導案を作成している。そこで、研究会員が一堂に会し、実践交流や研究会同士で学校間交流を検討する機会を設け、これまでの ESD ティーチャープログラムのフォローアップとする。

2. 日時 2025 年 3 月 8 日（土）9：30～15：00

3. 会場 食糧会館（山形市旅籠町三丁目 1 番 4 号）

4. 内容 ESD 実践交流会

司会進行：新宮済氏

AM：本年度セミナー受講者による実践・研究報告

- ・阿部友幸（山形大学付属附属特別支援学校）ESD スペシャリスト受講
- ・阿部大輔（山形市立千歳小学校）ESD スペシャリスト
- ・佐藤 亨樹（山形市立大曾根小学校）ESD マスター

ESD スペシャリスト認定書授与式

- ・スペシャリスト認定者 阿部友幸

PM：オンライン全国 ESD 研究会 成果報告会

司会進行：新宮済氏

やまがた ESD 研究会	佐藤亨樹氏（山形市立大曾根小学校）ESD マスター
福岡 ESD 研究会	遠入哲司氏（福岡市立原小学校）ESD スペシャリスト
鹿児島 ESD 研究会	福留忠洋氏（鹿児島市立広木小学校）ESD ティーチャー
	菊永美樹氏（薩摩川内市立市比野小学校）ESD マスター
沖縄 ESD 研究会	屋良真弓氏（南風原町立南風原小学校）ESD スペシャリスト
愛媛会場	西原睦美氏（宇和島市立遊子小学校）ESD スペシャリスト
奈良会場	西田有壱氏（生駒市立俵口小学校）ESD マスター

5. 担当者（指導助言者）

中澤静男、大西浩明、新宮済（奈良女子高等学校）

6. その他

令和6（2024）年度 奈良ESD連続セミナー開催要項

1. 目的

学習指導要領が改訂され、前文や総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された新学習指導要領が、幼稚園では2018年度より、小学校は2020年度、中学校は2021年度から全面実施、高等学校では2022年度より実施されている。新学習指導要領が求める教育を実施するためには、教育内容の捉え方の見直しや教育方法の改善が必須であり、ESDを適切に指導する資質能力の育成が、教員養成及び現職教員研修にとって喫緊の課題であることは間違いない。そこでESDの指導者として求められる資質能力を育成することを目的に、本連続セミナーを開催する。

2. 開催日時 【時間はいずれも19時～21時】

- ① 5月 7日（火）：SDGsの理解促進（1）
- ② 6月 4日（火）：SDGsの理解促進（2）
- ③ 7月 2日（火）：ESDの理論研修
- ④ 7月23日（火）：優良実践事例の検討
- ⑤ 8月27日（火）：単元構想案の相互検討（1）
- ⑥ 9月24日（火）：単元構想案の相互検討（2）
- ⑦ 10月 8日（火）：単元構想案の相互検討（3）【学生】
- ⑧ 11月 5日（火）：学習指導案の相互検討（1）
- ⑨ 12月 3日（火）：学習指導案の相互検討（2）
- ⑩ 1月21日（火）：学習指導案の相互検討（3）【学生】
- ⑪ 2月 4日（火）：研修の振り返り

研修（6）（7）は、これ以外に実施予定

3. 方法 基本的にはZoomを用いたオンラインで実施

4. 研修内容

- （1）持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解
- （2）ESDの学習理論
- （3）優良実践事例の分析と単元構想案の作成について
- （4）ESD単元構想案の相互検討とESD学習指導案・実践報告の作成
- （5）ESD学習指導案・実践報告の相互検討
- （6）ESDカリキュラムマネジメント
- （7）ESDカリキュラム案の作成・相互検討

5. プログラムのレベルと研修

(1) ESD ティーチャーコース

- ①ESD 連続セミナーへの 5 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、1 月末日までに提出

(2) ESD マスターコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④研修（6・7）への参加

(3) ESD スペシャリストコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出
- ⑤研修（6・7）への参加

※3 月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証が授与されます。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載します。

第1回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日時：2024年5月7日（木）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：54名

◇内容：「SDGsの基礎的理解（1） ～持続可能な開発目標（SDGs）の目指すもの～」

奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

1. SDGsが提案された背景（グローバル・イシュー）

絶え間ない紛争と対立

顕在化する環境問題

苛烈化する自然災害

グローバル化と自国主義

経済的格差の拡大

科学技術の進歩と社会構造の変革

人口格差

感染症の拡大

世界の暴力や差別

- ・約2800万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる（2015年）
 - ・推定1億5200万人の子どもたちが働かされている（2017年）
 - ・15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5000万人（2014年） など
- ウクライナ侵攻とパレスチナ戦争

子どもの貧困と不平等

年間520万人の子どもが5歳前に死亡（6秒に1人）

極度の貧困状態下の7億1000万人のうち、子どもが3億5600万人

5900万人の小学校就学年齢の子どもたちが学校に通えていない

気候変動と災害、環境問題

大気中の温室効果ガスが増え続け、温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えている

気候変動により世界で災害が多発・甚大化している

山林火災や干ばつが増え、動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費（パーム油）

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失、土地の劣化、山林火災の多発

海洋プラスチック問題

2050年には海の魚の量を超える？

分解されず、細かく碎ける → マイクロプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海の食物連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

2. SDGsの特徴とめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の3つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠

3つが調和しないと持続可能な社会にはならない（バランス重視）

SDGsのウェディングケーキモデル

1992年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8ゴール21ターゲット）からSDGs（17ゴール169ターゲット）へ

途上国に向けた目標

すべての国の目標

SDGsはすべての国の目標であり、包括的で互いに関連している

SDGsの枠組みと特徴

①MDGsの深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする

すべてが関連しているので、1対1対応、個別対応ではいけない 総合的に取り組むことが必要

幅広く野心的であり、「誰も置き去りにしてはならない」ことを強調

SDGsがめざす世界像

①すべての人生が栄える、貧困・飢餓・病気および欠乏から自由な世界

②人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等および差別のないことに対して普遍的な尊重がなされる世界

③すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界

→ 「誰一人取り残さない」世界の実現

持続不可能な社会の現出 ～身近に迫るリスク～

能登地震 東日本大震災

自然災害の多発化・激甚化・広域化（災害列島日本）

4つのプレートに浮かんだ災害列島日本

津波は水深が深いところほど速くなる 水深5000mで時速800km

陸地に近づいてきて、時速36kmぐらい

能登半島の実地検分から

実際に現地で見聞すると伝え方が違ってくる

だれもいない被災地（ボランティアも入っていないところも）

海岸の隆起 2m～4m 港が使えない状況

南海トラフ地震迫りくるリスク

30 年で 70～80%の発生確率

被害想定 死者約 231000 人 負傷者 525000 人 全壊・焼失棟 1512000 棟

地球温暖化から地球沸騰化の時代へ

世界全体の CO2 排出量 中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで日本（3.2%）は 5 番目

身近に迫る気象災害の脅威

気候変動による森林火災の増加

進む砂漠化

異常気象

海面水温の上昇 → 土地の水没、台風の発生、魚種の変化、生物多様性の喪失 など

問題なのは、グリーンランドやアラスカなどの氷河が溶けること

被害を受けているのは CO2 を出していない途上国

加害者は先進国の排出している CO2

→ この不条理こそが学ぶポイント

データをもとに学ぶことがこれからの ESD では大事ではないか 「データ ESD」

ESD を進めるのであれば、今何が持続不可能なのか、なぜそうなのかをデータをもとにしてきっちりと学ぶことが大事。 → そのために、まず教員がしっかりと学ぶこと！

第2回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年6月4日(火) 19時～21時
◇方法 ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数 61名
◇内容 SDGsの基礎的理解②
「持続可能な開発目標(SDGs)の達成に資する、持続可能な開発のための教育(ESD)」
及川幸彦准教授

SDGsの達成に資するESDの教育的価値

- ①ESDに取り組むことによって「教育の質が向上する」 ESDのE=教育を重視する視点
②「持続可能な社会づくりに貢献する」 SD=持続可能な社会の創造を強調する視点
この両輪の連結こそがESDを特徴づけるものであり、ESDの価値を示すもの

ESDとSDGsの策定経緯

- 1992 リオデジャネイロ地球サミット「アジェンダ21」 ESD
2000 国連ミレニアム・サミット MDGs
2002 ヨハネスブルグ・サミット 日本がESDを提案¹⁾
2005 DESD国際実施計画を策定 DESD
2009 ESD世界会議 ボン宣言の採択
2014 ESDに関するユネスコ世界会議(名古屋・岡山)²⁾ GAP
2015 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択 SDGs
2019 「ESD:Towards achieving the SDGs」の採択 ESD for 2030

- ¹⁾ 日本政府が2005年～2014年を「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」とすることを提案。その年の国連総会で「国連ESDの10年」が満場一致で決議される。その推進機関としてユネスコを指名。ESD国際実施計画を策定する。

それを受けて、日本国内では・・・

- 2005 内閣官房に関係省庁連絡会議を設置
2006 国連ESDの10年国内実施計画を策定
2011 国連ESDの10年国内実施計画を改訂

我が国におけるESDの基本的な考え方

「人格の発達や自律心、判断力、責任力などの人間性を育むこと」

「個々が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと」

後半5年は、生物多様性・気候変動・防災が大きなテーマとして挙げられる



- ²⁾ 世界会議における成果

「あいい・なごや宣言」 「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」

「ユース・ステートメント」 「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム共同宣言」
後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP) ³⁾ 開始
「ユネスコ/日本 ESD 賞」の創設

³⁾ グローバル・アクション・プログラム」(GAP)

5つの優先行動分野

- ・政策的支援
- ・機関包括型アプローチ
- ・教育者
- ・ユース
- ・ローカル・コミュニティ

ESD の危機

UNESCO ウィーク 2017 (オタワ会議) 「GAP の5年間のあとをどうするか」

ESD とグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) を二大テーマに 21 世紀の教育の在り方について
議論 → 韓国の推す GCED (ESD を包括するのが GCED?)

GCED は、日本では〇〇教育のように ESD が包括する様々なテーマの一つという捉え

「2015 年に SDGs が世界中に発信された、まさに今こそ ESD ではないのか」

「GCED で SDGs の掲げる様々な地球的課題は解決できないのではないか」

→ ESD for 2030 (SDGs)

SDGs の達成に資する ESD



教育はすべての SDGs の実現のカギである

SDGs に向けた教育を推進することが、人材育成を通じて SDGs 達成につながる

第2期 ESD 国内実施計画の策定

SDGs への多角的・連関的アプローチ

様々な課題、目標同士のつながりを意識した学びの構築

SDGs の一つの目標を解決しようと思えば、他の課題について考えなければならない

動画「SDGsについて考え行動しよう」（光村図書 HP：及川先生監修）を視聴

【質疑応答】

○オタワ会議で ESD が消えかかるとなった要因はどこにあるのか？

→ 国連の「～の 10 年」というキャンペーンは成功した例が少ない。10 年が過ぎたら終わりという感覚があったのではないだろうか。

SDGs と ESD を混同する人が多かった。SDGs が出てきたから ESD はもういいという見方。

国家間（日韓）の利害関係、思惑もあったのは確か。（どちらが主流になるのかという駆け引き）

○地域において ESD を進めたいと思っているが、それについて学べる場がなかなかない。一人で頑張っている状況なのでアドバイスをほしい。

→ 仲間、知り合いをとにかく増やすこと。勉強会に参加して同じ志を持つ人と関われば元気が出る。このセミナーもそうだろうし、山形の ESD 研究会もそうなのではないだろうか。

○動画でマイクロプラスチックが取り上げられていたが、その中でまだ実害が出ていないのにその問題に気付いたのはいつ？ そのような先見の明をもてるようにするには？

→ 科学的根拠がやはり大事になるだろう。様々な研究結果、データをもとにすると同時に、プラスチックのことだけを考えるのではなく、食物連鎖や生物濃縮など様々なことがらと関連付けてトータルに考えることが大事ではないか。公害病のように、実害が出てから動き出しているようではだめ。それを日本は経験したのだから。

【受講者と指導する先生のマッチング】（6 月 4 日現在）

学生ティーチャー受講 17 名

現職教員 スペシャリスト受講 3 名

マスター受講 6 名

ティーチャー受講 11 名

第3回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年7月2日(火) 19時～21時
◇方法 ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数 59名
◇内容 「ESDの学習理論」中澤静男教授
「ESDの授業づくり ～单元構想案の作成～」 大西浩明特任准教授

○「ESDの学習理論」

たとえば、環境を壊すのも人なら、修復するのも人

人々の行動の変革を促すには、どうすればいいのか？

「ひと・もの・こと」にcareできる人を育てなければならない 人間性

人間性を育てるために、実社会を教材に、説明―納得型ではなく問題解決型の学習を展開する

持続可能な社会の実現には、

- ・国際協力
- ・技術革新 ……トップダウン
- ・新しいシステム(制度)
- ・多くの市民の参加・協力……ボトムアップ → 教育によって

現行の学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手を育てる」ことが明文化された

そこで言われる3つの資質・能力とは？

- ①知識・技能 事実的知識(断片的知識)
- ②思考力・判断力・表現力 知識の構造化(概念的知識) 説明できる知識
覚えるより考えさせる授業を
- ③学びに向かう力・人間性 価値的・判断的知識
ESDでは、課題を自分事化し、自分ができるところを考え、行動化を促す

「主体的・対話的で深い学び」とは？

- ①「主体的」 子どもが自分から取り組むこと
学習内容が子どもにとって切実感・必要感があるもの、興味・関心があるもの
- ②「対話的」 一斉授業ではない 一問一答はだめ
対話の教育的価値
- ③「深い学び」 子どもの生き方や考え方、行動に影響を与えるような学び
知識+感動(発見・驚き・感動)のある学び 他の学習にも転移する汎用性のある学び

行動の変革を促すのは？

- ・合理的(論理的)意思決定論……認知的葛藤による意思の転換
- ・直感的意思決定論……ソマティックマーカーによる情動の発動
「変革をもたらす行動がどのように行われるか。それは個人的な信念、洞察、あるいは何が正し

いかという単なる感覚から生じることが最も多い。」

(ユネスコ持続可能な開発のための教育ロードマップより 2023)

ESD におけるソマティックマーカー仮説 (持続不可能な状況に「気づく」ために)

ソマティックマーカーは、生き残る確率を高めるためのもの

→ すべての動物に先天的に備わっている (ネガティブ信号、ポジティブ信号)

しかし、人間は経験や教育によってさらに鍛えることができる

生き残るために地域の社会文化に即したふるまい

行動を促すソマティックマーカー装置 など

→ あらゆる機会を活用して「持続可能性に気づく力」を育てる必要がある

☆ソマティックマーカーテスト

- ・「おかしい決め方」 なんか決め方がおかしいことに経験上気づくことができる
- ・「どちらの店で買う？」 われわれは咄嗟に単価を計算して安さを求めてしまう
- ・スーパーのチラシから 旬でないもの、フードマイレージ
- ・うなぎはどれを買う？ どうしても土用に絶滅危惧種の鰻を食べないといけないのか

☆見えていても気づけない脳の特徴

何が描かれているか？

脳は外界からの情報と記憶として蓄えられている情報から情報処理を行う

→ 意識化できる



意識することで認識できる 認識することで意識化できる

意識化を促すもの

- ・繰り返し学ぶ、繰り返し経験する、多様な場面で多様な方法で学ぶ (記憶の蓄積)
- ・仲間とともに学ぶ (対話・協働)
- ・感性を伴って学ぶ (現地見学、人から学ぶ、体験活動)

価値観を養うもの

- ①世代内・世代間において、自然環境や生態系の保全を重要視できる価値観
生き物探し、海ごみ、気候変動、水の恵みなど
- ②世代内・世代間において、人権・文化を尊重できる価値観
横の異文化・・・食文化、宗教、民族衣装、トイレなど
縦の異文化・・・生活習慣の移り変わり、歴史文化遺産、祭りなど
子どもにとって身近な素材の教材化

「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。」 幸福 (ウェルビーイング)

『幸せの四つ葉のクローバー』(前野隆司)

やってみよう因子、ありがとう因子、なんとかなる因子、あなたらしく因子

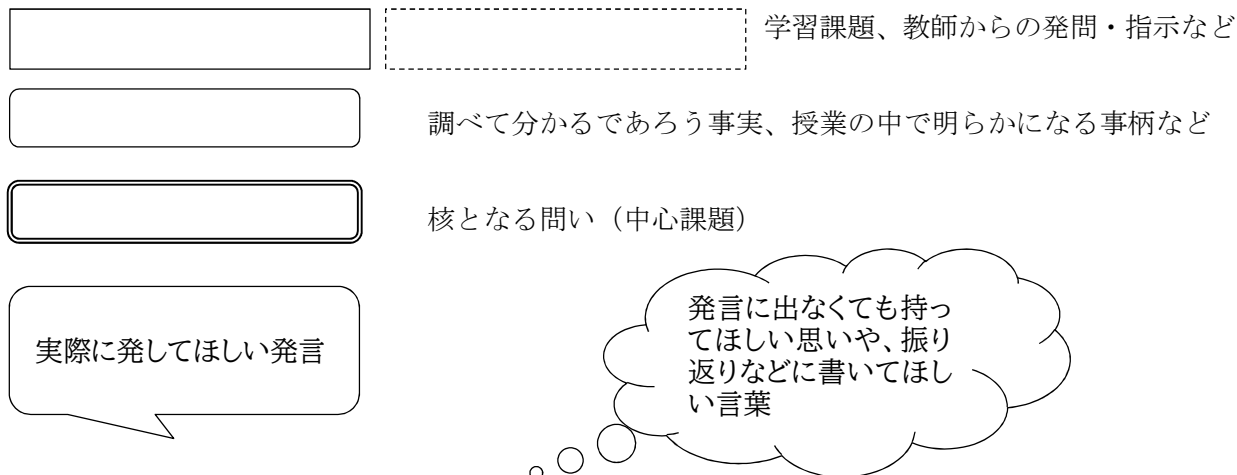
○「ESD の授業づくり ～単元構想案の作成～」

◆どれだけ具体的に授業をイメージできるか

子どもの反応（発言、疑問、思い、どう動くか・・・）をイメージしないと、具体的にはならない

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童・生徒が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの（1枚もので一目で見えるように）



◆問いの質を高める

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

- ・単元の目標につながるもの
 - ・単元の流れで必然性があるもの
 - ・答えがいくつあるもの
- 言葉やその使い方にこだわる

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

- ① 単元を通して核となる問い
- ② ①を深めるための問い
- ③ ①を発展的に考える問い

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、どの問いから考えてもいいと思います。

◆ESD の授業を構想する際には・・・

その題材（教材）を通して学習することで、

- ・どんな ESD の見方・考え方を働かせることができるのか
- ・どんな ESD の資質・能力を育てることができるのか
- ・どのように ESD の価値観を変革させようとするのか
- ・どのような ESD 的な行動化を求めようとするのか

視点、資質・能力、価値観については、項目だけを羅列するのではなく、学習内容に落とし込んで、その説明を書く。



SDG s の何を達成することに貢献するのか

こういったことは後付けでいい！

はじめから ESD の授業を作ろうと思わず、「主体的・対話的で深い学び」となるものとして、具体的な子どもの姿をイメージして考えること！

みつめる



どこだか分かる？

お寺みたいで奈良らしい！
これってもともと駅だった？

JR 奈良駅のところ！
中にスタバがある！

旧駅舎を見に行こう

- ・屋根が五重塔みたいになっている。(相輪・風鐸など)
- ・レンガ造りで古い感じがいい。
- ・柱の彫刻や窓の感じが外国っぽい。
- ・「近代化産業遺産」って書いている。



「吉野のシンボル」市民、保存運動へ

なぜJR奈良駅舎は残ったのだろう？

取り壊されるはずだった？

どのようにして残ったのか調べてみよう

しらべる

- ・1998年、JR奈良駅の高架化のため、旧駅舎の解体が決定したが市民の反対運動が起こる
- ・岩崎弘さんら20人余りが中心となって、「JR奈良駅舎を生かす会」が結成される
- ・粘り強い署名運動などにより、2002年に一転保存することが決定
- ・2003年、約4億円をかけてそのまま北東へ18m曳家方式で移動させる
- ・現在、総合観光案内所や商業施設が入って再利用されている

この間、岩崎さんたちはすべてボランティアで活動を進めた

奈良の人たちが
みんなの力で残
したんだ！

一度取り壊しが決
まっていたのに、県
や会社を動かすな
んてすごいこと！

保存運動ってすご
く大変だったんじ
ゃないかな？

岩崎さんたちは、そ
んな大変なことを
なぜそこまでした
のだろう？

なぜ岩崎さんたちはそこまでしたのだろう？

ふかめる

岩崎さんに話を聞こう

- ・「本当にいいもの」は残さないといけない
- ・壊してなくなってしまうと思い出を語るしかない
- ・だから、そこに残っていることが大事
- ・奈良の人たちは「いいものが何か」「どうやって残していけばいいか」を知っている
- ・だからみなさんもできるはず！

岩崎さんたちの運動がなかったら
駅舎は今はいなくなると考えたら、
行動することが大事なんだな。

奈良には「いいもの」がたくさん
あるから、それがなくならないよ
うに自分たちががんばらないと。

「いいものを残す」ために、わたしたちは何をしなければいけないだろう？

ひろげる

奈良の「いいもの」
をもっと知ること
から始めたい。

一人ではできない
ことも、みんなで協
力していけばでき
るはず。

岩崎さんのように
「いいものは残す」
という信念を持っ
ていたい。

第4回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年7月23日（火）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	40名
◇内容	「優良実践事例のESD分析」 沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校 高良直人先生

【実践報告】

前任校である那覇市立松島中学校における取組から

首里城のすぐ近く 生徒数 631 名 25 学級

沖縄県教委のSDGs研究指定校として2年間ESDに取り組む

「国際的視野をもち、持続可能な社会を切り拓く生徒」

→ 「自ら学び、主体的に課題を解決し、未来を切り拓く資質・能力を身につけた生徒の育成」

SDGs 達成のための教科等横断的なカリキュラムマネジメントを通して

→ ESD の視点を取り入れた指導の充実を図る 一人一授業

週1回の教科部会

「SDGs 新聞」の発行 「SDGs パスポート」の活用

・環境保全教育

コーヒー豆の麻袋を活用したプランター、グリーンカーテン（ゴーヤー）、地域クリーン活動

SDGs 委員会の活動として、隔週でボランティア活動を行う

・平和学習

2年生の遠足でひめゆり平和祈念資料館見学

修学旅行は長崎へ 長崎の中学生と平和学習交流、被爆体験者からの聞き取り

・1年 末吉公園めぐり 「末吉公園の果てまで行ってQ」

様々な文化施設や自然が多くある

持続可能な憩いの場所としての末吉公園について考え、ポスターを作成

・2年「すい（首里）ま〜い」

自分たちの住む地域について深く知る学習

首里城再建に関する調査、研究

・3年 地域の伝統文化に触れる

紅型染め体験など

那覇ハーリー、旗頭、末吉町十五夜祭、綱引き大会などに参加

・「那覇市産業プログラム」 那覇市長からのミッション

→ 「10年後のよりよい那覇市」 いろいろな企業のSDGsの取組などに触れる

NAHAミライ City in school

県立武道館に15の企業を集めて、職業講話と体験

12の高等専修学校より講師を招き、職業体験を行う

NAHA子ども議会「10年後のよりよい那覇市を目指して」

- ・世界同時授業に参加

世界各地の日本人学校とのオンライン交流会

「世界へ発信 私たちが創る持続可能な社会」

成果

○SDGs や ESD への理解・関心が、生徒・教師ともに確実に高まっている

○ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度の育成について、共通理解が進んできた

○SDGs カレンダー、マトリックス、ESD 単元構想図を作成できた → 学級に掲示

○一人一授業の中に、「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度の育成」を盛り込んだことで、教師の ESD に対する意識が高まってきた

○周りの学校からの評価が高い 授業参観に来てくれる

課題

●各部会で定例の部会を持つことが厳しい

●新しく赴任された先生との意識の差

●一人一授業の参観者が少ない授業もあり、十分な意見交流ができていない

【質疑応答、意見交流】

Q. 隔週でのボランティア活動をするにあたって、どこで何をするか、どのように決めているのか？

A. 地域の自治会や公園管理事務所に聞いて、学校で優先事項を考え実施している。

Q. これらの取組に対する保護者の反応は？

A. 「SDGs 新聞」で子どもの活動を発信している。保護者も好意的で、いっしょにボランティアに参加してくれる方もいる。

Q. 那覇市長のミッションに対して、生徒がどのような提案をしたのか？

A. 「那覇市にない路面電車を走らせる（電車の上にソーラーパネルをのせて）」

「整備されていて、みんなが楽しめる那覇市に」「交通・公共通信サービスの改善」など

Q. 行政や企業へのアプローチは教師主導でやった？ それとも生徒？

A. 生徒から様々な意見を聞き取り、教師側でどんなことが学習としてできるかを考えた。それをもとに、教育委員会や知り合いなどに協力してもらってアプローチしていった。

Q. 様々な取組を通して、ESD 以外のことで生徒が変容したと思える点は？

A. 学力が目に見えて向上した。手を挙げて発表する子どもが増えた。学校全体が明るくなった。笑顔でのあいさつが飛び交うようになった。悩み事を相談してくる子どもが増えた。

Q. ティーチャープログラムに参加されたのは高良先生だけ？

A. 自分が研修で得たことを職員全体で共有できるように、教員向けの「SDGs 新聞」に掲載したりした。

(ブレイクアウトルームを経て)

- ・伝統文化は、なくなってしまうと当たり前なのがシステムを変えながら続いてきているという側面があると思う。そこも持続可能性を学べるポイントかと感じた。

→ ハーリーも昔は男性しか乗れなかったが、今は大会では男子の部・女子の部に分かれている。

旗頭も昔は男性しか担げなかった。20 年前ぐらいに初めて女性が持てるようになった。

Q. この学校全体の取組は何年計画？

A. とりあえず研究指定のあった2年間やったが、SDGs から ESD へと視点も変わってきたと思う。

Q. 企業と連携する一番の取っ掛かりはどうしたか？

A. 企業と学校をつないでくれる組織があり、そこを窓口にした。企業も学校とつながりたいと思っているというのを強く感じた。

Q. どのようにして職員全体を巻き込んでいったかをもう少し詳しく教えてほしい。

A. 新しいものをつくるのではなく、既存のものを ESD の視点で捉え直すことを重視した。

「子どもたちのために」を合言葉に、学年主任に中心になってもらった、担任の負担感を軽減するために、GT に任せてとにかく「子どもの方を見ておいてほしい」と伝えた。子どもが頑張っている姿や楽しそうにしている姿を見ると、教員はやはりうれしいもの。

Q. 先生たちの変容は？

A. 授業の形態が大きく変わって活気が出てきた。一斉授業ではなく、学び合いの場が多く見られるようになってきた。「分からない」「教えて」と言える子どもが増えたように思う。

Q. 生徒の学力が上がったというのはどこを見てそう言えるのか？

A. 全国学力・学習状況調査と県内における学力テストでいずれも数値が上がっている。進学先を見ても、以前と変わってきている。生徒の授業に対する態度が明らかに変わってきている。

Q. 週1回の教科会の役割は？

A. 授業の進捗状況を互いに確認することも大事だが、それぞれの悩みについて交流したり話し合ったりすることで同じ方向を向いて授業に取り組めるようになっている。

Q. 取組の主となる教科は？ ボランティアと ESD をどのように結びつけたのか？

A. 中学校でも総合的な学習の時間が中心となるが、それをいかに他教科とつないでいくかが大事だと思う。SDGs 委員会の活動がどんなことにつながっているかを考えさせると、自然と ESD の学びになっている。

Q. 職員を取りまとめていくときの苦労は？

A. いろんな取り組みをたくさんやっているように見えるかもしれないが、ほとんどは既にやっていたものばかり。それを ESD の視点で捉え直すことで、子どもの変容を求めていくという点で分かってもらえたのかと思う。

Q. 地域の受け止め方、変容は？

A. 生徒がどんどん地域に入っていくことで大変好意的に受け止めてもらっている。地域からも「学校に来やすくなった」という声があり、実際多く来ていただけるようになった。

第5回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年8月27日（火）19時～21時30分
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	51名
◇内容	単元構想案の相互検討①

【ルーム1】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1）藤岡晃宏先生（奈良市立三碓小学校） 小学校6年 総合的な学習の時間

「平和学習～平和のために自分たちができること～」

○実践のねらい：平和学習を通して、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを知ること。二度と同じ過ちを繰り返さないために活動している人々の思いに触れ、自分も「平和」を作っていく一員であると感じ、自ら考え行動しようとする気持ちを育てる。

- ・「戦争」を自分事にするにはどうすればいいのか悩んでいる
- ・子どもの疑問からスタートしたい
- ・自分たちと近い年代の人たちの活動＋修学旅行で一緒に回ってくださる語り部さんの想いをメインにしたい

意見交流から

- ・それぞれの活動の意味を考えてみてはどうか
- ・他者との関わりを通して、自分の中の気づきを大事にしたい
- ・自分が子どもの時には、なんとなく戦争ってあかんねんな～っていう認識
- ・地域によっては平和学習をしていないところもあるのが現状
- ・各教室で発表すると班によって真剣度・内容・質が違ってくる。ただの知識伝達で終わるのではなく、一緒に考える時間も設けてみてはどうか。
- ・小学生の時怖かった思い出がある。遠い昔の距離感を感じていた
- ・9才の子が英語でガイドをしている 関西テレビのニュースランナーを参考にしては
- ・高校生が原爆体験者の話を聞いて絵をかいて展示している

2）井上未来先生（松山市立維新中学校）

中学3年生 総合的な学習の時間 「愛媛といえばモザンビーク?! モザンビークといえば愛媛!？」

- ・昨年の実践をさらに深めたい
- ・自分には何ができるのか、本当に関わっていこうとする生徒を育みたい
- ・GT「四国グローバルネットワーク」竹内よしこさん
放置自転車を無償提供する活動をする
- ・あきらめない・自分で思ったことを行動する
- ・フェアトレードを通して持続可能な社会を考える
- ・「なぜ、愛媛といえばモザンビークなのか？」を導入に考える
- ・小学生の時にやってきた活動が今に結びついている
- ・カプラナを使って、生徒に活用してもらえないか「魚釣りゲーム」

- ・対等な一人の人間として向き合う気持ち（対等な関係性）
- ・幼保小中連携校になっているので、何かできるのではないかな
- ・食育の指定校でもある　どんな取り組み？
- ・知りたい→「広げたい」行動できる人になりたい

意見交流から

- ・具体的な授業数はどれくらい？
- ・調べる観点はこちらでしぼるか、自由に調べさせるか
- ・海外支援に目をもっていくのか地域を見つめる目をもつか
- ・千葉の高校で「フェアトレードコーヒー」を通して東ティモールの国の支援をしている
- ・広げる部分はモザンビークに限らなく、自由度があってもいいのでは
- ・品川区インターナショナルスクールでは、小学校4年生からフェアトレードを学習している
- ・調べる段階から目的（ゴール）が見えていないと、もっと主体的になると考える
- ・愛媛では、放置自転車だけでなく、衣服の提供もしている
- ・カプラナを使って幼保小の連携をするとおもしろいかも

3）加藤茉莉先生（品川インターナショナルスクール）

小学校5年生 保健「心身の健康と成長」

○私たちは何者なのか「人は身体的、感情的、社会的に変化する・成長する」考える

- ・ウェルビーイングノートを毎年作成・活用している
- ・地域の方との関りの中で関係性を作るにはどうすればいいか悩んでいる
- ・学校全体で ESD に取り組むにはどうすればいいか悩んでいる

意見交流から

- ・同じ学校内の先生に自信の成長をインタビューする・自分でアポを取ると主体的になりそう
- ・校内に関わってくれるボランティアさんとの交流　一緒に校区探検しながら説明してもらう
- ・品川区の小学校との連携　日本の子どもたちとの交流
- ・東京の学校間はずなぎりが薄いのが課題
- ・色んな人を各単元で招いている
- ・絵本「大きくなるっていうことは」を活用して子どもに、健やかについて考えてもらうのもいいのでは。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1）高司靖信先生：（天理市立福住小中学校） 中学校3年 数学科「相似な図形」

- ・世界遺産の建物の似ているところに気づき、その理由を考える。「人が造ったものには意味がある」という感覚を養い、身の周りの様々な建造物を捉え直す姿勢をはぐくむ。

意見交流から

- ・まず数学科の学習として成立している必要がある。その上で「発展的内容」として、ESDを考えるべきであろう。
- ・写真を見ただけでは相似であるかどうか判断できない（相似の条件がある）。設計図などを用意する必要があるだろう。



- ・授業時間が不足すると思われる。擬宝珠（ぎぼし）の観察などは、放課後に設定してはどうか。
- ・探究の要素を学習活動に明確に位置付ける。生徒が見つめてきた相似な建造物について、自ら説明する時間をとったり、作図する時間を設けたりしてはどうか。

2) 関澤将大先生（東京都豊島区立西巣鴨中学校）

中学校1年 総合的な学習の時間「バラロードはなぜ存在し、大切にされているのだろう」

- ・生徒にとって当たり前の存在になっているバラロードを見つめ直すことで、クリティカルシンキングを養う。
- ・設立の経緯：大塚駅周辺は、放置自転車や不法投棄が多くみられる地域であった。2008年に南大塚都電沿線協議会が沿線の整備を進めている途中で、バラの木が100株ほど発見される。25年ほど前に区の緑地計画で植えられたものであることがわかり、「このバラを中心にバラロードをつくろう」と協議会が取り組んだ。
- ・協議会会長の小山さんのバラロードに関する講演を聞き、生徒の活動意欲を高める。



意見交流から

- ・現状把握が重要。生徒が足を運び、聞き取り調査などを行う。「バラ見守り隊」だけでなく、市民のバラロードへの思いを聞き取る。バラの世話にはお金も時間も労働力も必要であるため、区の取り組みとして進められているはず。地方自治の学習内容として社会科公民的分野との連携が可能である。
- ・市民の声を聞き取ることで、課題も具体的になってくる。具体的に学習を進めることで、行動化が促される。

3) 宮崎博之先生（熊本県立菊池農業高等学校）

高校1年 総合的な探究の時間「日本の農業と食文化の在り方」

- ・日本の農業のイメージ：稲作、高齢化、後継ぎ問題、3K
- ・日本の食料自給率 カロリーベース・38%、生産額ベースだと70%
- ・日本で作られている農産物は野菜中心なためカロリーが低い
 - ・和食は健康的
- 農業高校生として、これからの日本の農業について、自分にできることを具体的に考えさせたい。

意見交流から

- ・和食の材料は国産の農産物が多い。
- ・日本の農業は、実は質のいい農産物を生産している。
- ・具体的な農業経営を考えるために、企業と連携した取り組みがあれば、探究の教材にしたい。
- ・学習を外とつなげたり、メディアを活用したりすることで、学びに対する生徒の自信も生まれ、それが次の探究的な学習への意欲につながる。

【ルーム3】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 三上凜矩先生（山形市立第三中学校）

中学校1年 音楽科「民謡」

民謡 最上川舟唄（世界三大舟唄）をテーマに音頭と唄（民謡）の違いを4つの例示から興味のある

ことを調べる。

これらは山形を代表する祭りや特産品ではないかという思考に至るであろう。

その後、最上川舟唄が世界三大舟唄に選ばれている理由を考える。

・歴史 ・歌詞 ・メロディーなどが意見として出るであろう。

ここでゲストティーチャーから話を聞けるようにしたい。最上川船下り義経ロマン観光が舟唄を活用しているということで運用したい。

そこから、最上川が大切な運河であったこと、船頭の呼吸を合わせる掛け声のもとになってできたことなどを話していただきたい。

また、NHK からの依頼で渡辺、後藤という作曲者の熱い思いなども、資料として準備している。

音楽的なよさ、伝統の重みなども感じられるようにしたい。

学んだことを振り返りを活動の中に入れて、人々の生活と音楽の密接な関係、熱い思いなどを押さえたい。

行動化としては、オリジナル民謡づくりをしていきたいが、発表の形や人数など、これでいいのだろうか。SDGs 11, 多面的、他者と協力、つながり、多様性、連携性

意見交流から

- ・行動化としての音楽づくりはおもしろいかも
- ・音楽科としての授業としては、音やリズムを楽しみながら感性を重要視して、そこにちょっとした動画を見たり、実際の声を聞いたりといった流れがいいのでは？
- ・掛け声から音楽に派生していく流れを感じられるといいなあ
- ・小学校でも民謡には触れている そういったものを切り口に導入に
- ・現代の音楽（インスタ・TIKTOK など）と比べたりするのも導入にはいいかも。さらに発信もそういった SNS の利用も考えられる。
- ・ほかの地域の民謡にもふれて広げることで、改めて山形の民謡の良さを感じられるのではないか。

2) 菊池甲余子先生（姫路市立水上小学校）

特別支援 自立活動「いきいき野菜を作っていこう」

育てる野菜に愛着を持ってほしいというのが指導側の願いである。

流れとしては、夏野菜を育てる → 大事なことは何だろう → 水・日光・栄養・土 → 畑を見に行く → トマトが成長しすぎて倒れたり、ほかの野菜に日光に当たらなかったり → 全部の野菜が元気に育つために

伸びすぎたトマトを切ろう VS 切ったらかわいそう というジレンマからクリティカルシンキングができるのではないか。

そして、どちらの意見も大切に方向で、切った枝や葉を腐葉土にしようという流れに持っていく。五感を大切にして、トマトやその他の作物の枝や葉のにおいを感じたり、感触なども大切にしたい。虫や汚れることへの拒否感が強い児童もいるので、軍手など配慮してみんなに体感させたい。

できた腐葉土で冬野菜や収穫までが短い作物などを作って、腐葉土の良さを感じさせたい。 → また来年度の夏野菜へ継続していけるサイクル

相互性、有限性、責任性、クリティカルシンキング、コミュニケーション、他者と協力、進んで参加、生態系の保全、幸福感（達成感、自己肯定感）、SDGs 12, 1

意見交流から

- ・生態系の保全について、野菜を育てた後の土を腐葉土として復活させるといった、畑の土の持続可能性のような意味合いもあると思う
- ・自分が育てた野菜を大事にしたいという想いを活かしているところが素敵
- ・腐葉土作って、特別支援の児童なので忘れないうちに、冬野菜やすぐ育つ野菜を育てるのがいい
- ・今回の夏野菜を作るときに腐葉土を入れていると思うので、それが実は買ってきた腐葉土だという話もできそう。
- ・先生の支援と児童同士の関わりがよく考えられていると感じた。
- ・体験・五感を大事にしているところがいい
- ・特別支援学級だけでなく通常級との交流もできたらいいのではないかな。

3) 中川朋美先生（福岡市立平尾小学校）

小学校5年 家庭科「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」

SDGs を1学期にカルタで体験し SDGs の自分が気になる番号について調べてまとめる学習をしている1学期に学習したことをもとに「持続可能な社会のために物やお金を上手に使えているだろうか？」という主発問ですすめていく。

調べ学習 → 買い物体験、ICT を利用したシュミレーション

相談したいこと

- ・「ひろげる」が上手な買い物やお金の使い方としてカードにまとめていくつもりであるが、買い物シュミレーションから飛躍していないか
- ・買い物シュミレーションがICTのみでいいのか？ 実物も混ぜてのほうがいいか？

意見交流から

- ・「ひろげる」の部分で、すごろく作りなどで行動化していくと、違うグループのもので見方や考え方の多様性を感じられたり、下の学年に発信できたりするかもしれない。
- ・発問で「どのようにものに関わって生活しているのだろう」の「どのように」って児童にとって難しい先生と児童でズレは生まれないか
- ・「物やお金を上手に使える」という部分も、何をもって上手なのかといった視点を絞ってあげたほうがいい。
- ・先生のどんなことを学ばせたいか、感じさせたいかという思いにフォーカスしてすすめていった方がいいのでは？
- ・1学期に調べた SDGs に関して、考える・気づくといった活動ならおもしろいかもしれない
- ・具体的な買い物について考えるのはどうか？

【ルーム4】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 臼井達也さん（NPO 法人わかやま環境ネットワーク）

高校 総合的な探究の時間「地域活性」

- ・地域の活性化、生徒の立場でどう進められるかを考える単元。特に空き家問題について取り組むグループについての単元構想。まずどうしてそうなったのかを、歴史的経緯を調べたり年配の方に尋ねたりしながら理解していく。そのうえで、自分たちに何ができるだろうということを考えていく。空き店舗を有効活用しようとしている人と出合わせ、ほかのチームと共同的にできることを考える

ようにする。

- ・遠方から通っている生徒がどのように自分ごとにしていくのかが悩みどころ。
- ・卒業後社会人になっていく生徒も多いので、実社会で生きて働く学びとしたい。

意見交流から

- 昨年度の課題としてはどのようなものがあったのか？

⇒リノベーションまではいかなかった。今年度は、ぜひ実際に手を動かすというところまでやってみたい。

- 「空き家をどうするか」だけではなく、「このまちをどうするのか」というより大きな視点をもって考えていけたらいいのではないか。地域の中には空き家だけではなく様々な課題がある。そういう課題と結び付けられたらいい。

⇒ほかのテーマを扱うグループもあり、それらと共同的につながっていくことができればよい。

- 学校以外の団体との共同はどうか。

⇒社会人としての学び、先々まで考えていくことも学校に求められているミッションとしてある。文化祭での発信の場もあるので、外部の講師のもつ専門性と子どもの学びをつないでいくことで、一つの成果が生まれるのではないかと考えている。

- 歴史的な経緯から空き家を見つめることができるという発想が面白い。出ていく人がいるとすれば、集まるのはどこか。比較してみるのはいかがでしょうか。

- 「意外とこうしたらいいんじゃない？」というアイデアが出てくることがある。アイデアが出たときにそれを実現できるかもしれないと思うと動機も高まるので良いと思った。

⇒どんな声掛け、手立てがあれば、動機付けがすすむのだろうか？

⇒大人の人と関わるといのが、かなりあるのではないか。授業としてやっているのではなく、ここでやっていることが実際の社会に生きるということがわかれば、リアルな文脈を感じさせることができればいいのではないか。

- 教員の立場からは、個の取組においてどのような力を身に付ければよいのか、ということが気になっていると思う。学校の先生としての思いをしっかりとすり合わせていくことが必要だと思う。

2) 西田有孝先生（生駒市立俵口小学校） 小学校5年 社会科・総合「食料生産」

- ・生駒市が遊休地を使って、畑をしていることを知り、これを題材として授業ができないかと考えた。
- ・また地産地消に取り組んでパン屋さんを営んでいる人もいる。身近なところから考えることができればと思っている。保護者や地域の人、生駒市の取組をインタビューしながら、耕作放棄地の問題に気付かせたり、遊休地を活用したりすることの意味などを考えさせていきたい。
- ・前半は遊休地活用の話をしているが、地産地消の話になっているので、前半と後半の話が結びついていない。これをどう結び付ければよいかを考えている。
- ・子供の実態として環境問題について興味はある。しかし、どこか他人事でもあるという様子がある。

意見交流から

- ハンバーガー一つを輸入の牛肉なのか、国産の牛肉なのか、それが届くまでの距離を地球儀上で測ることで、子どもたちにもわかりやすくマイレージが感じられる。「見える化」していくというのは一つの手立て。

- 香川県では、近くの田んぼで田植えをさせてもらう。自分でポン貸しにして食べた記憶がある。自分で体験するという学びは印象深いのではないか。

- 無償で遊休地を貸し出しているというのは初めて聞いた。なぜ生駒市が無償で貸し出すのか、無償で貸し出す意義を考えさせるというのではないか。
- 問題解決型の学習として、子どもたち自身が「まずいな」と感じるポイントを作ることが大切だと考えている。地産地消が進められなかったらどんな問題が浮かぶのだろうということを考えていくというのではないか。
- 社会科の授業として、まずは地産地消に結びつけるとよいと思う。食料自給率も含めて、問題に気付いたうえで、どうすればよいかという問題解決の結果が地産地消につながるように展開していく。地産地消について学んだうえで、フードマイレージ0でやる事例として、遊休地の活用事例を出していくというのではないか。
- 終末として、遊休地の活用は子どもたちにはできないが、子どもたちなりできることを考えさせたい。例えば、地産地消をやっている人を応援するというやり方がある。より近いところで買おうとするなど、そういう取組は子どもたちにもできる。
 - ⇒実際に応援する方法として「あおぞらマーケット」というものがあることを市役所の方に聞いてきた。
 - ⇒こどもたちがマーケットにでていく、チラシを作成するなどして、マーケットに関わっていくことができれば面白いのではないか。

【ルーム5】ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1) 阿部友幸先生（山形大学附属特別支援学校）

高校 作業学習

- ・作業学習：「各教科等を合わせた指導」の指導形態の一つ
- ・アビリンピック：障害者が日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会の一般の人々に障害のある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的としている。
- ・アビリンピックに参加した。→ハートクリーンで構内で身につけた清掃技術を生かして、園児と関わりながら清掃している。
- ・山形特有の掃除文化が何かないか？→あったけれどどこに位置付けるべきかが難しい。
- ・何度も同じ場所に訪れることによって互いの認識ができたり、信頼関係が生まれたりしてくる。

意見交流から

- ・どのタイミングで幸福感を感じさせるか。
 - フィードバックは大事で、感想を書かせながら
- ・コミュニティセンターの清掃をセンターの人などと協力してできないのか。
 - サークル清掃の機会があるため、地域の人と関わりながらできるという。
- ・利他的な行動をすることで、幸福感を高められる。
- ・ゲストティーチャーと出会わせたり、インパクトのある導入時の発問はないか？
- ・アビリンピックが強い、子供達から交流して学ぶことはできないか

2) 栗谷正樹先生（大阪市立今川小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「新紙幣を起点としたノダフジ」

- ・5000 円札の裏面にノダフジが描かれている。

- ・お札に描かれた花を比較することで、他の地域とも比較できるかもしれない。
- ・ノダフジがどのように守られたり、失われたりといった持続性に着目する。
- ・自分だけのノダフジマップを作成し、子供たち同士で共有させる。

意見交流から

- ・紙幣が身近ではないから、紙幣を身近に感じさせられるような導入にしなければならない。
- ・6年生が低学年に伝えるような活動があればいいかも。
- ・別の方法でノダフジを伝えていけないか。
- ・ノダフジが、なぜ、新5千円札の図柄に採用されたのかを調べたりするなかで、ノダフジに関心を高めていく。ローカルのが全国に広がっているという普遍性

【ルーム6】ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1) 高良直人先生（沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校）

中学校 総合的な学習の時間「地域活性」

見つめる：小中連携して郷土愛を育む

村長の講演会 伝統文化学習

豊かな自然、環境に

豊年祭 児童生徒の参加 エイサー 三線

地域から学ぶ「三線教室、エイサー、太鼓」

自分で選ぶ 次回で第6回目

観光業 養殖業が盛ん 稲作が昔から

体験学習 地場産業に目を向ける

調べる：月に一度 27項目 舞台での練習

触れる 地域への興味関心を育むねらい

深める：毎朝のボランティア活動（あいさつ、清掃活動）

てるぼん？ てるしの？ 太陽が光輝く意味？

落ち葉などが海へ流れてしまう

月に1回は地域の人も活動

伊平屋村が思う「残したい原風景」

地域学習が原風景に生かされていく

漁業の方にインタビュー

ミニ運動会など地域行事に参加する

広げる：発表する

意見交流から

- ・うちの学校で何ができるのだろうか？
- ・特色、強みをどのように見つけられるか？
→生徒に聞いてみると新しい発見が
- ・小中連携も含めて低学年はどのような関わりがありますか？
→地域子ども会 キャンプ、星空観賞など
- ・バレー部 小学校は離れている
- ・自発的に行うポイントは？

2) 原田龍ノ助先生（奈良市立朱雀小学校） 小学校4年 社会科「防災」

災害をもっと自分ごととして考えてほしい

風水害が取り上げられている

能登半島地震の時は、観光しているときに

朱雀防災マップの作成者に話を聞く

「なぜ奈良市のハザードマップでは、安全なのに

地域で防災マップ」を作ったのだろうか

具体的な行動

意見交流から

- ・ 守る人たちの取り組みをもっと取り上げては？
- ・ 社会科と総合的な学習の時間の整理をしよう
- ・ 避難所での過ごし方 自分たちにできることを考えてみる
- ・ 実際に被災した人の体験談を聞いてみては？

第6回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年9月24日（火）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	43名
◇内容	単元構想案の相互検討②

【ルーム1】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1）岸下哲史先生（奈良市立ならやま小中学校）

7年 総合的な学習の時間 「総合学習PLANシート」

夏休み中の個人探究学習：自分の興味のあるものを調べ、CANVAを用いて表現する。（デザインにこだわる）

道徳とのカリキュラム・マネジメント ガーナで持続可能な社会づくりに取り組んでいる長坂さんの取り組みにふれる

→長坂さんのように持続可能な社会を目指して頑張っている人や企業、取組を紹介しよう。

→知ることからスタートする【奈良の伝統的な産業を知る】

吉田蚊帳、春日庵、古梅園、奈良漬け山崎、漢国神社、元興寺 を調べる

どれも長く続いてきている → 継続にとって大切なことを考察

→ならやま小中学校校区 ニュータウン

人間としての継続：健康でない人が増えているような気がする

赤道（日本で一番長い歩行者専用道路）をつかった健康づくり

地域の人々のウェルビーイングを高める

意見交流から

- ・6つの調査活動と6つのゼミ

提案をまとめ、協力者を探すことで、アントレプレナーシップを育む。

- ・コンテンツではなく学び方にフォーカスし、小中を学び方でつなぐ

2）三好偉雄太先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校1年 生活科 「おうじ すてき はっけん！」

◎自分たちの生活が地域の様々なものにつながっていることに気づくことから、町を自分事としてとらえる力をつける。



導入：蒸気機関車の置かれている公園（船戸児童公園）

王寺町観光協会HP：「ゆきまる」に教えてもらおう

自分たちの住んでいる町をもっと知ろう

ふかめる：王寺町役場の岡島さんに話を聞こう

- ・王寺町は「鉄道のまち」と言われていた

「鉄道のまち」のいいところは何だろう？

- ・ほかにも王寺町のすてきなところを知りたいな。家族にも伝えたい。

意見交流から

- ・子どもたちは現状のまちが「当たり前」だと感じて暮らしている。
古い写真をつかってまちのクイズをすることで、知りたい気持ちを高める。
- ・船戸公園は「舟渡」だった。渡し舟が使われていた。→ 驚きが関心を高める
- ・平城遷都 1300 年記念出版 NARASIA 日本と東アジアの潮流 これナラ本に大和川の舟運についての論文があったと思うので、参考にしてください。

3) 三笠日向先生（大阪市立新森小路小学校）

小学校6年 社会科・道徳・総合的な学習の時間「知行合一～大塩平八郎から学ぶ～」

大塩平八郎の乱 背景：1833年～1839年天保の大飢饉

檄文を配り、蔵書を売り払って賛同者を集める

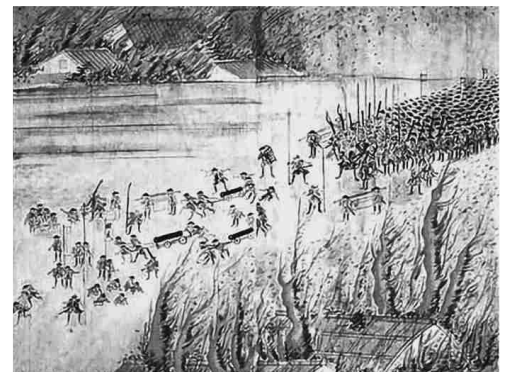
大塩平八郎一件書留：森小路村 医師 文哉さんにも乱に加わるよう手紙を書いている

※なぜ、地域の先人たちは大塩平八郎に賛同したのだろう
賛同すると死刑になるとわかっていたにも関わらず、立ち上がった人たちがいた

大塩事件研究会の薮田さんに話を聞く

陽明学：知識を得たら、行動していかなければいけない

「知行合一」「知っていても何もしないと変わらない」



意見交流から

- ・ユニクロの服のカプロジェクトに協力するのもいいけれど、先人のように地域課題に対して自分に何ができるかを考え、行動化したほうが良いのではないかな。
- ・地域でのボランティア活動を促したい。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 駿河徳子先生：（奈良学園小学校） 小学校2年 生活科・特別活動「えがおで JAMP！」

10月末に吉野合宿（1泊2日）を予定している。「一休さん体験」（修行）で座禅・サイレントウォーク、護摩焚きなどをして自分たちを磨き、心を強く持つということをねらいとしている。これを単元の中心に据えてどんな学習ができるのかを考えている。導入は、町探検からつなぐことが自然だと考えたが、私立であり居住地もバラバラであるため難しく、道徳の授業を導入に生かすこととした。この1泊2日を通して自分がどう変わったのかを確かめ、広げる段階において「カッコいい2年生になれたかな？」「カッコいい3年生になるためにどんなことをすればいいのかな」と自身の成長を確かめていく。

意見交流から

目指す最終の子供の姿、特に「カッコいい2年生」像をどう捉え、ひろげる段階につなげていくことがポイントになると意見が出た。子どもたちの内面の現代的諸課題に結びつくものではないかもしれないが、人とかかわり方など ESD で育む見方・考え方・または資質・能力に関わるものも多く、持続可能な社会の担い手の素地となると考えられる。直接学校が目指している「助け合える子、ねばりづよい子、話が聞ける子」などの目指す姿は、中学校の生徒にとっても、共通の課題でもあるとの意見も出た。子どもたちの自信につながるということがとても大切であるとの意見が出た。

2) 中川純一先生（生駒市立俵口小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間

「未来の環境のためにわたしたちにできること：四日市ぜんそくに関わった人たちの思いにはせる」

四日市のきれいな夜景を導入として扱い、工業地帯として発展した四日市市に着目させる。当時の日本の様子を知るとともに、当事者の思いに気づかせるよう「しらべる」段階を設定していく。当時の状況を知る資料としては、「グリコのおもちゃ」を題材として扱い、日本全体が豊かな暮らしを目指していたことに気づかせたい。そのうえで、「日本の発展のために石油コンビナートをつくることはどのように思いますか」という問いを設定し、自分なりの考えを持たせようとした。

意見交流から

被害者側の視点で学ぶだけでなく、企業や国の視点も取り入れていることの良さについて、必ずしも企業を悪と位置付けてしまうのではなく、考えさせるような学びになっているというコメントがあった。「ふかめる」段階の課題「コンビナートを創ることについてどう思うか」という問いについては、子どもにとってどちらかを選ぶことが難しいのではないかとの意見が出た。単元の構成として、最初の導入の写真を最後にも見せて変化が起こったのかを見取るようにしたいというアイデアが出された。子どもの夜景についてのとらえ方がどう変わったのかを考えやすく、自身の変化に気づくことができる手立てであると考えられる。

3) 赤嶺英幸先生（沖縄県豊見城市立上田小学校）

小学校6年 社会科「大昔の暮らしの様子を調べてみよう」

縄文時代と、弥生時代について学ぶ社会科の授業実践の報告であった。調べる過程では、自由進度学習を取り入れ、指導の個別化をはかっている。なぜコメ作りが日本中に広がったのか、という問いからSDGsとの関連が見られることが報告された。また「どちらの時代に住みたいか？」という問いを設定し、その理由をSDGsと関連付けて答えさせるという、パフォーマンス評価を行った。さらに「住みたくない理由」を考えさせ、どうすれば自分が課題と感じられることを解決できるのか考えさせた。

意見交流から

実践はすでに終了しており、事前事後にとったアンケートをもとに、自分の考えを他者とのやり取りを通して変わったこと、SDGsの認知などはプラスの変化があったことが報告された。課題としては批判的思考をもっと活用させる必要があると報告された。歴史学習の中でESDをどのように取り入れるかという点で参加者からの意見がいくつか出された。「その時代から学べることを取り入れる」「歴史を学ぶのではなく歴史から学ぶ」ということを大切にすることで、ESDらしくなるのではないかと話があった。

【ルーム3】ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1) 山川丈二先生（奈良学園小学校） 小学校4年 社会科「特色ある地域のくらし」

『和紙が1300年も続いた秘密を探そう』

・テーマ：伝統伝承には思いと工夫と支えが大切であることを感じてほしい。

GTの思いや願いのつらい部分や葛藤で児童を揺さぶりたい。

・動機：将来の夢に関してお金を稼ぐことが1つの価値観 ⇒ 多様な価値観に触れてほしい

・手すき和紙：2年生で手すき和紙の体験はするが、人の思いなどに触れる機会がなかった

・ポスター（手すき和紙）にある言葉を導入に、触るなどの五感を通じて、和紙と洋紙の比較や違いの発見

- ・歴史・自然条件などを整理しながら、子どもの疑問からグループごとに調べ学習⇒発表・交流
- ・調べられないこと：職人さんの苦勞・喜び・思い

⇒zoomでGTの職人さんと観光協会の方に話を聞く

和紙の課題を踏まえた上で、手すき和紙の魅力を話し合う

⇒再度上記のGTに登場してもらい、職人さんから魅力や苦勞、思い支えの必要性のお話

支える側の立場として観光協会の方のお話

手すき和紙をもう一度、体験⇒自分で書いた和紙に自分の将来の夢を書いて発表する

意見交流から

- ・2年で一度触れているので、子どもから思いなどは出やすい。
- ・職人さんから思いを聞くだけでなく、伝統産業を支える側の人も来てくれるのが面白い。
- ・ESD社会科として人々の協力で和紙を使いながら町を活性化する取り組みなどもあってもよい？
- ・衰退などのリアルなものを語ってもらうと、「こんないいものなのに…」というふうになるのでは？
- ・吉野で和紙が守られるシステムなどに気付いたら、持続可能性に気づく展開にもっていけるのでは？
- ・2年で作成した和紙が今も大切に手元にあり愛着もあると、児童はのっかってくるのでは？

2) 澤田悠先生（奈良市立三碓小学校）

小学校3年 総合的な学習の時間「習字で使った固形墨はどこで作られたか？」

- ・3年生：奈良に伝統工芸の墨を知ってもらう⇒ほかにもあるかな？もっと調べたい

墨を『他の人にも知ってほしい』と思ってほしくて作成

- ・動機：実際に固形墨をすって授業している。⇒身近な存在から学びにつなげたい

固形墨の使いにくさを知っている → なぜそれでも続いているの？などの疑問を引き出したい
どこで作られている？⇒奈良が90%⇒驚き・発見

- ・なんで奈良で？ いつから？ どうやって？手間や工夫は？ ← 調べ学習・製造工手の動画の活用
- ・歴史を知る → かみ砕いたクイズで学ぶ（3年生に歴史は難しい）

墨で書かれていた、寺社が多い、昔、都だったので墨が必要

GTの活用（墨会社のにぎり墨体験のワークショップなど）

⇒固形墨のよさに気付いてもらう＋引き継いできた思い・固形墨の魅力を語ってもらう

⇒便利だから墨汁という子どもたちに、固形墨のよさに気付いてほしい

伝統工芸品を知ってもらおう（児童の気づき：墨の深堀、筆について、他の工芸品、近くの県では？）

意見交流から

- ・3年総合は調べ方や学び方の初めの1歩なので、『これ調べたい』に対してのサポートが必要
保護者や地域の方などの伴走者をつけてあげてもよいのでは？
調べて楽しい、誰かにアクセスして楽しいと感じてもらえたらよいのでは？
- ・地域素材の教材化…生に触れる、比較対象を用意する、人に触れるが大切
- ・導入でいかに自分事にさせるか。面白かったと帰って家族を巻き込む形にしたい。となると導入が弱い気がする。
- ・書道パフォーマンスなどを扱うと作品作りなどにもつなげられるのでは？
- ・固形墨の良さとして、墨汁とは違う匂い以外にサラサラで伸びもいいが、専門的にしているからこそ感じられる良さであり3年生が匂い以外のよさや魅力に気付けるか難しさがあるように感じた。
- ・人の部分が弱いので、企業の方の生き方や思いなどを大切にして、出会わせると『ひろげる』の答え

が出てくるのでは？

3) 屋良真弓先生（沖縄県南風原町立南風原小学校）

小学校6年 社会科「平和で豊かなくらしをめざして」

素材：ハイオ南風原織と平和学習

動機：6年生の戦後復興の単元にどうやって教材化するか

- ・沖縄の戦後復興は教科書で学べないので、人々の生き方から自分たちの生き方の糧にしてほしい
- ・戦後女性のたくましさ、したたかさ、チャンプルー文化(多様な文化)を伝えたい
- ・戦後の米軍統治時代の人々から学べることもあるのでは？

⇒人びとの目線から、どんな願いや思いから社会を立て直したのかを学ばせたい

沖縄の戦後復興は教科書で学べないので、人々の生き方から自分たちの生き方の糧にしてほしい

- ・中央史（を踏まえて）→ 沖縄史と行ったり来たりして歴史を教えたいと考えている

南風原村：当時 8,000 人の 40%が戦死、米軍払下げテントで小屋作り

払下げの落下傘から布を編みなおす、戦前の技術を生かして織物で戦後復興

ハイオ南風原織：アメリカから来た神父が戦後孤児のために織物工場、アメリカから取り寄せた冊子をもとに作成したため、柄が伝統的ではなく西洋っぽい

単元構想案

- ①教科書の問いを使いながら本土の中央史を知る

教科書の『日本の復興には時差がある』の1文を起点に

本土と沖縄の年表比較する

- ②田本さんをキーパーソンに女性の戦後復興を知る

- ③戦後沖縄の生き方を調べる

- ④戦後沖縄復興の4コマ漫画を描く

意見交流から

- ・沖縄にしながら、本土と比較しながら作成されている点がおもしろい（時間切れのためここまで）

【ルーム4】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1) 高橋百合香先生（鹿児島県屋久島町立小瀬田小学校）

小学校6年 外国語科「We live together ～私たちは一緒に暮らしている～」

単元のゴール 動物の気持ちを伝えるために、ポスターを作ろう！

- ・動物を入り口に、レッドリストに注目させる
- ・レッドリストの動物について調べる

意見交流から

- ・外国語としてのセンテンスとのすり合わせはOK。
- ・小学校6年生を対象にしている。8人の児童。
- ・屋久島の動物 ヤクシカ、ふくろう、ウミガメ、ヤクザルなど。獣害も課題になっている
- ・ヤクシカはふえすぎて困っている。駆除され焼肉にもなっている。
「ヤクシカと共生するためにどのような暮らしをしてきたのだろうか。」を視点に展開するのもいいのではないかな。
- ・屋久島の中でレッドリストの動物に絞ってみてはどうか。

- ・共存は守るだけではない
- ・外国語活動の中だけでやるには、時数が厳しい。守るか、注意喚起か、どちらかに焦点を絞った方がいいのでは。
- ・ウミガメを守っている他校との交流も考えられる。
- ・ウミガメの孵化の様子は感動する。その感動を共有し、児童の行動化の意欲につなげてほしい。

2) 山口雅史先生（天理市立福住小中学校） 中学校3年 総合的な学習の時間「価値観をぶっ壊せ」

- 地雷について焦点をあてていく。
- 世界には6000万～7000万の地雷が埋まっている。
- 撤去することがむずかしい。でも撤去しないわけにはいかない。
- 二学期の最初に実施したい。

意見交流から

- ・ひろげる部分でもつ、生徒の変容はどんなイメージをもつか。
→ 最後は世界の課題ではなく、地域に視点をもどすのもあり。
- ・安易に消してしまう子どもたちに、しっかり考えられる姿勢をもつ。
- ・発信者を育てる人材を育てたい。発信者になるためには「対話」が大切であることに気付かせたい。
- ・「できる」ためにはどうすればいいかをスタートに考える
- ・「相手を知らず」として「争い」が起きる。
- ・実態から、書くのも消すのも、時間がかかりそう。「知る」ことがまずは第一歩である。「知る」ことをやめなければ、平和が世の中になるのではないか。
- ・実際に発信者になっている人に会わせる。
- ・身近な問題を扱い、実際に何ができるか考えさせる。地雷だけでなく、他の紹介も用意しておく。
- ・ESDはどれだけ課題を自分事にするか。今のひろげるでは、自分事になるか。福住で学んだことをふくめて、自分たちに何ができるかを具体的に考えてみてほしい。

【ルーム5】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 神前竜太先生（大阪市立加美北小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間「推しの工場」

校区には大小含めた工場が多数あり、社会の工業生産の学習の後に、校区の工場を調べるフィールドワークを行い、働く人の思いや地域の道路の広さなどの工夫などを調べていく活動をメインとする。

「深める」ではグループでのポスター作りで、それぞれの「推しの工場」を紹介していく。調べる中で、それぞれの「推せる」ポイントを紹介できるような活動にしたい。

「ひろげる」の部分に悩み→「加美北の工場はどうなっていくのだろう」という問いでいいのだろうか？各工場との話の中で、どこも「廃材利用」に課題を抱えているようなので、一緒に考えるとかもしれないと考えている。

管理職からのトップダウンで、大阪万博絡みのパプアニューギニア（PNG）との交流があって、どのようにからめていったらいいのかも悩んでいる。

意見交流から

- ・PNG側がどんな学びをしているのか？そもそも、学習につながるか？
→ 交流は別で考えて、指導案には入れなくてもいいのでは。
- ・PNGとの交流のめあては？

→自分たちの地域を紹介しあうことなのですが、現地はごみ問題とかの問題よりも生きること自体に課題があるようだ。

- ・推しの工場を推し活をするみたいなイメージ。「推し」という言葉がとてもいいので、もっと推していきましょう。推しの工場を選ぶときに、一極集中にならないようにしたい。
- ・中学校での職業体験につながるいい活動になるのではないかな。
- ・廃材利用と一緒に考えるのは面白いと思うので、学校でそういったものを利用していくとか、学校で利用できるものを考えていくとかの方向になるとおもしろそうですね。

2) 吉岡真志先生(奈良学園小学校) 小学校6年 理科「月と太陽」

月の写真を撮ろうと、1カ月くらい撮影の期間を設けて、見比べて考える活動。

メインの発問は、「学校にいる時間に満月はみられるだろうか？」として、月と太陽の関係などの指導要領上のことを押さえるようにする。見えたら「お月見大会」をしようと餌にして、意欲的に取り組ませる。

「ひろげる」の活動では、月がウサギに見えると日本では言われていることを取り上げ、海外では違う見方をしていることも調べたあとに、自分たちは何に見えるのかと想像し、それぞれのストーリーを考える展開にする。

意見交流から

- ・斬新なアイデアであるがESDとの関連が難しい。「お月見大会」にからめて何かできないか？
→実際には見えない。塾などに行く児童もゆさぶりたい思いでの問いである。
- ・中秋の名月といった文化を楽しめる価値観を持たせることで、ESDとして成立するのではないかな。
- ・スーパームーンやストロベリームーンなど、「○○ムーン」みたいなものがなぜ見えるのだろうといった活動があってもいいのではないかな？
- ・月の暗い部分で想像し、自分たちでストーリーを考える活動がとてもいいので自分でもやってみたい。
- ・「月見○○」といった商品戦略が最近は多くみられるように思うので、そういったことを導入に使えないかな？

第7回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年10月8日（火）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	41名
◇内容	単元構想案の相互検討③

【ルーム1】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1）高山翔伍先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校5年 社会科「行ってみたいな！！ 観光の町、王寺」

- ・情報の活かし方、情報の活用の仕方の能力を育てる

①情報の活かし方

王寺町の観光情報について

- ・観光リーフレット
- ・観光ボランティアに関する情報
- ・Facebook、Instagram、ホームページでの紹介
- ・インバウンド向けのYouTubeでの発信

②情報の内容について

- ・王寺町観光協会、観光ボランティアさんにインタビュー
- ・観光客のために発信する情報とは「観光客にとってうれしい情報」

達磨寺は県指定有形文化財 おまつり、紅葉、観光ルート 駐車場情報、

マスコットキャラクター・雪まるに関する情報（ゆるきゃらランキング全国12位）

③さらに観光の町として発展するために

- ・どんな取り組みが必要かを考える

小学生ガイド、ミルキーウェイのような大きなイベント

意見交流から

- ・パンフレットを作成し、観光協会や道の駅に届ける。それを手に取った人からのフィードバックが得られるよう、QRコードを付けておく
- ・二次元の成果物よりも動画のほうが、今の子どもたちにとっては作りやすいし、効果も大きい。
- ・行政だけが観光化に取り組むのではなく、多くの市民が参加・協力することで、町を盛り上げていこうというのが、ESDで子どもたちに伝えたいこと。

2）八尾有紗さん（書道教育専修3回生） 小学校6年 総合的な学習の時間「自分たちの町のごはん」

地元で榎塚味噌を作っている野田味噌工場の教材化

導入：3年生の国語教材「すがたを変える大豆」

給食で食べている味噌汁にも榎塚味噌が使われている

味噌づくり体験を行い、関心をもたせる

野田味噌工場について調べる

昭和3年創業 愛知県の大豆や米を使用した味噌

速醸ではなく天然醸造にこだわっている 15蔵あり、役00本の巨大な木桶が並んでいる
問い：どうやって今の野田味噌工場になったんだろう

野田味噌工場さんへの聞き取り

野田味噌は時代の流れに左右されることなく、古来の方法を守り続けている。

問い：地元の伝統的な食材をこの先も大切にしていくためにはどうしたらいいんだろう？

意見交流から

- ・まず食べてみるのが大事。そのことで野田味噌工場に対する関心が高まり、自分たちで何かお手伝いしたいという思いにつながっていく。
- ・野田味噌工場さんへのインタビュー時には、ぜひ職人さんへもインタビューしてほしい。
野田味噌づくりの対する誇りのようなものが聞けるのではないかな。
- ・ひろげる場面について
味噌を使った商品開発・レシピ
栄養面など、味噌の価値を小さなお手紙にして商品につけてもらう。

3) 澤井咲樹さん(英語教育専修3回生) 中学校3年 総合的な学習の時間「Lively GOJO city!」

導入：英語の教科書に掲載されている徳島県上勝町の葉っぱビジネス

消滅可能性の町、上勝町には若者が戻ってきた

実は五條市も消滅可能性である。五條市の活性化がテーマ

五條市の魅力は何だろう？

柿の葉寿司、柿、吉野川祭り、近所のつながり、人のあたたかさ

自分たちで調べるテーマを決めて調べる：どうして〇〇が有名なのだろう

〇〇を使った五條市活性化プロジェクトを考える

- ①ビジネスの目的を決める…移住者の増加、観光客の増加
- ②対象者を決める…若者、〇〇に興味がある人
- ③ビジネスの内容を決める

プロジェクトを発表し、協力者を探す

意見交流から

- ・地に足のついた学習にする必要がある。五條市の総合政策課の方に来ていただき、五條市として取り組んでいることを聞き、それをもとに考える。中学生として協力できること、もっといいアイデアを考える学習展開にする。
- ・五條市の課題についても、市の職員にインタビューする形で聞き出し、課題解決法を考え学習展開も考えられる。
- ・プロジェクトの発表も五條市の職員に発表し、講評をもらう。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也(大分大学)

1) 藤原萌さん(音楽教育専修3回生)

中学校1年 音楽科「郷土に伝わる民謡『八木節』を知ろう」

地域(足利市)に伝わる民謡「八木節」を教材化した実践を構想した。

地域では、夏祭りや運動会などで踊ったり演奏されており、これからも伝えていくために、私たちにできることは何かを考えさせたり、自分たちで演奏させたりして理解を深めていく。

意見交流から

- ・演奏するという活動と、伝えるという活動とが、どのように関連するのか。
- ・八木節は、足利市らしさを感じることができる教材として評価されていた。
- ・演奏することを通してどのように深めていくことができるか
- ・八木節そのものを残すことを考えながらも、それを育んできた町のコミュニティが続いていくことを生徒に大切に感じてもらいたい。

2) 島田望希さん（社会科教育専修3回生）

中学校2年 総合的な学習の時間「生野区の空き地を減らそう」

生野区の空き家が増えていることに着目し、どのようにすれば減らすことができるのか考える授業を構想した。

当初は、空き家を活用する方法を考える单元設計にしていたが、セミナー参加者から「実際に中学生が活用するプロジェクトにするのはどうか」という意見が出され、この点についていろいろな意見を出し合う時間とした。

→ 例えば、文化祭の行事として催し物をする場、地域の人と中学生の交流の場、美術部の展示会場、吹奏楽部の演奏会場など。

実際に活用することで、暗いイメージがある空き家のイメージを変えることができる。

3) 神吉優利奈さん（特別支援教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「かき氷の秘密を探れ」

奈良県のかき氷は郷土料理として位置付けられていることに着目し、構想した。

かき氷の由来や、奈良とかき氷の関係について調べ、氷室神社の人のお話を聞いたりして、ふかめていく。

- ・一見、郷土料理には見えないかき氷の秘密を探っていくという点で、とても面白い教材だと思う。
- ・一方、一般的な郷土料理にみられる特徴、例えば地域の固有性や受け継ぐことの難しさなどの課題とは異なるものであり、どのように郷土料理としての教材の良さを引き出していくかが重要である。

【ルーム3】ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1) 東瑞さん（美術教育専修3回生） 小学校5年 総合的な学習の時間「奈良のお宝・春日山原始林」

（みつめる）春日山原始林の魅力について

（しらべる）春日山原始林がおかしい。困っていることを調べる → 若木が育たない

（ふかめる）これからも春日山原始林を残していくにはどうすればよいだろうか？

（ひろげる）もっと多くの人に春日山のことを知ってもらおう！ 原始林の魅力・課題・保全の視点

意見交流から

- ・好奇心と必要性をどのように育むか。必要性を高めることが大事ではないのだろうか。
- ・春日山原始林は、古都奈良の文化遺産なので、世界文化遺産。もっと春日山原始林の魅力や児童の気持ちに寄り添って、やわらかく考えてみよう。
- ・「ひろげる」でグループ別に分かれと活動が行き詰ってしまうのではないだろうか。

2) 無量井夏音さん(国語教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「世界平和を目指す6-1サミット」

(みつめる)『世界の現状を知ろう』戦争の写真から考える → 戦争は過去のできごとではない

(しらべる)『テーマについて調べ、班で話し合おう』→交流に向けて世界平和に向けての日本の取組

(ひろげる)『班ごとに意見を出し、交流しよう』→どのような意見やテーマが出てきたらよいのか?

(みつめなおす)学校の平和を考える→けんかやいじめをしないなど

意見交流から

- ・他者理解をどのように進めるのか?
- ・日本で平和に向けての取り組みをしている人に聞いてみてはどうか?
- ・世界から身近に焦点化していくのが良い

3) 田中愛花さん(国語教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「奈良につづくおもてなしの文化を探ろう」

奈良市立朱雀小学校の児童を想定(茶道体験をしたことがある) 全6~8時間

発問① 「おもてなし」って何?

発問② 奈良ではどんなおもてなしがあるかな? → 茶道がひとつの例

発問③ 私たちも人を「おもてなし」することができるかな?

意見交流から

- ・ピュアな児童でなければ、はまらないかもしれない。
- ・奈良のおもてなしとは何だろう?
- ・授業者が描くゴール、児童がどのように変わってほしいのかをもっと明確にしてもいいのでは?
- ・あいさつとおもてなしが結びつけばいいと思う。
- ・伝統文化であるお茶に焦点をもっとあててもいいのでは?など。

【ルーム4】ファシリテーター: 圓山裕史(奈良市立伏見小学校)

1) 吉岡優来さん(国語教育専修3回生) 小学校4年 総合的な学習の時間「地域と災害」

国語科「もしものときにそなえよう」(光村図書)の学習で自然災害への備えについて調べ学習をした後に、校区(京都市)ではどのように備えているのかを調べたり、話を聞いたりして、防災意識を高める学習である。

自然災害の被害を目の当たりにしたことがない児童に対して、導入では嵐山桂川の氾濫、大阪北部地震の京都市での被害を例に、自分事として捉えられるようにする。

京都市で起こるであろう「地震」「大雨・台風」のどちらかを選んで調べ学習をする設定だが、児童の調べ学習のテーマを絞ることにに関して、意見を頂きたい。

大まかな流れは、ハザードマップの確認→困りごとなどを予想→実際に校区を歩いてみて(保護者や地域の方と)、教えてもらったりしながら、マップに書き加える。その活動の中で、自分ができること・地域でできることやしてほしいことを考えるようにする。実際にどのような防災活動があるかを調べたり、防災の取り組みをしている人から話を聞いたりする機会も設ける。その後、改めて「マイ防災マップ」を作成する。

クラス内で発表することで、他の班の調べ学習と比べたり、調べていない方の発表を聞いたりして学習を深め、他学年や関わってくれた人たちに向けて発信することで学習を拡げるねらいである。

意見交流から

- ・国語から総合の流れが導入としていい。学習のめあてとしても国語科の調べる・発信するのめあてと連動するといい。
- ・外向きの発信時には、学習に関わってくれた防災意識の高い人だけでなく、幅広い対象へ広げられたらいいのではないかと？実際に町にどんな人（老人、障がいのある方など）が住んでいて、そういった人たちの存在を意識した防災マップを作ったり、知ってもらったりするような意識付けがあったらいい。
- ・児童とともに活動する姿がいい。逆に1次、2次あたりで自分事にするしかけがもう少しあってもいいのではないかと。→防災センターへの見学など
- ・4年生の社会が県の学習なので、京都府での特徴的な取り組みを導入にしてもいいのかもしれない。木津川の上津屋橋は災害対策の知恵が施された流れ橋として日本最大級であり、地域住民にも愛着があり、面白い導入になるのではないかと。
- ・もし浸水が起きたらと考える際にVR体験などでもいいのではないかと。奈良NHK放送局は、VR体験授業として市内の小学校でも実践例があるし、NHKはVR/ARコンテンツとして災害や伝統行事をVRゴーグルなしで手軽に見られるものもある。
- ・京都市南部はくわいの産地であり、京都のくわいには豊臣秀吉が京の都を災害や敵から守るために周囲に御土居を築き、できた低湿地を利用したといったエピソードがある。また関東でも江戸時代に大水害が起き、稲作が大打撃を受けた際に高く売れて農家を救ったという話もあり、災害と関連のある野菜である。
- ・調べ学習のテーマを絞ることについては、絞っている方が具体的な活動になる。また4年生という学齢的にも自由に調べてテーマから外れることを防ぐためにも絞っていいのではないかと。

2) 木幡美幸さん（社会科教育専修3回生） 中学校2年 総合的な学習の時間「防災DAY in 大瀬」

生駒市の総合防災マップを読み取り、災害に対しての市の準備、課題などを調べる。市役所の取り組みなども聞かせてもらうことを想定している。

生駒市では消防団の減少などが災害に対しての課題に挙げられている。また、中学生にできることとして、過去の災害で中学生がどんな活躍をしていたかも調べたり、知ったりすることで、生駒市の現状・過去の災害での中学生の活躍から、自分たちにできることを考えるようにする。

→避難所運営体験や総合防災イベントの企画、消防団の職場体験などが想定される。

1月17日が阪神淡路大震災をきっかけに制定された防災とボランティアの日に「防災DAY in 大瀬」と称して総合防災イベントを企画する。

「調べる」の段階で市役所のインタビューだけでなく、防災センターの見学や地域に出ていく活動は必要か？ということをお聞きしたい。

地域の人たちのことを考えていなかったが、吉岡さんの構想案検討でそこへの視点を持つべきだと感じた。

意見交流から

- ・地域に出ていく活動は、学習や活動の中心が何かによって必要性があるかどうかではないかと。
- ・その地域の方が、配られた防災マップを見ながらリスクの高いところを確認したり、想像したりして実際に確認することも大切だと感じた経験がある。しかし、防災マップの字が小さかったり、白黒でわかりにくかったりすることはよくあることで、実際に生駒市で配られているものもそうであるし、

読みにくい防災マップをアレンジして発信していく活動になったらいいのではないかな。そういった意味では、やはり地域に出ていく活動は必要なのかもしれない。

- ・地域に目を向けるのであれば、高齢の方や障害のある方、外国人などにもイベントに参加してもらえるようにしたい。
- ・企画するイベントに地域の様々な方が参加してもらえるのもいいが、高齢者や幼児が集まるような場に出向くこともいいのではないかな。
- ・実際に共働きの数が増え、高校生も県内の様々な地域に出ていると、昼間に災害が起きたとき、避難所の中心になるのは中学生だと思うし、中学生だからこそできる学習活動が考えられているのがいい。
- ・総合防災マップを市が出している意味を考えるといいかもしれない。生駒市の中学生としての防災意識を高めるような取り組みになるといいと思う。

【ルーム5】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1) 前川聖太さん（専門職学位課程学校教育マネジメントコース1年）

中学校2年 理科・総合的な学習の時間「バイオマスエネルギーについて考えよう」

ナタネを栽培しながら同時に様々な学習に紐づけていく 環境について考える学習

「バイオエネルギーって何だろう？」

ナタネから油を搾ってバイオ燃料にしよう 量のわりにはあまり油は取れない

いいことばかりではない 悪いところもある

GT・・・課題と現状について話してもらう

学校でも作れないのだろうか 刈草バイオマス 地域へも提案できれば

意見交流から

- ・中学2年生の段階では、目標としてどの部分にあたるのか。
- ・ゲストティーチャーが取り組んでいるのは、バイオマスだけでなく、廃油などを燃料に変える取り組みをしている。
- ・バイオマスの良いところ悪いところもあるのは事実。良いことに気付けない生徒に対してどのような手立てをすればいいか。→悪いこともあるが、使っていこうという姿勢はなぜかを考えさせたい。
- ・バイオマスエネルギーはわかりにくい部分がある。もう一つネタ（実際に使われている物）があれば、生徒の食いつきも変わるかもしれない。
- ・ナタネを実際に持ってきて、これも電気とつながっていることを実感させる。

2) 福田実莉さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年）

中学校1年 国語・総合的な学習の時間「手書きについて考えよう」

年賀状の比較（印刷したものと手書きのもの） 墨や筆で書くよさは何だろう

「墨や筆を使う文化はなくなってもいいのだろうか？」

墨や筆の会社で現状や課題について話してもらう

前衛的な書道作品を鑑賞 → 「自由に書いていいんだ」「きれいに書かなくても」 芸術作品

自分たちも筆で書いてみよう 相互鑑賞

これからわたしたちにできることは？

意見交流から

- ・自由に書いてもいいが、添削してしまうのはどうか。→字形でなく、

- ・最後に各文字のテーマについて悩んでいる。
- ・同じ字（テーマ）を書いて一人一人の個性を認め合えるようにしてもいいのでは。
- ・いつやるか時期的なものは考えていない。
- ・メッセージ性があるもの、相手を意識して書くことが大切。
- ・「ふかめる」→「ひろげる」の間に、生徒間で何か学びを深める時間があるのではないかな。
- ・墨や筆を使って書くことのよさについて振り返ることもできる。
- ・小学生が書いた書道を見せることでモデルにするのはどうか。
- ・ふだん下手な子がヒーローになれる。
- ・書体から同じ字でも感じ方が違う。

3) 太田遥さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年） 中学校3年 国語「方言と共通語」

方言ラジオ体操（津軽弁）を導入にする → 何を言っているのかよく分からない

方言について調べる 奈良の方言についても調べる

「方言はなくなっていい？」

「ありがとう日本地図」パズルを作成 → 地域性のかたよりも見ることができる

意見交流から

- ・「方言を守っていく」意識を育てるためには、方言が違っておもしろいなという意識を強めてみてはどうか。
- ・方言はなくなっていつているわけではない？ 残していこうという意識はあまりないのではないだろうか。
- ・方言が残っている理由を考えさせる。方言を親しむ。
- ・方言の本を朗読させる。違う方言を使わせることでお気に入りの方言を見つける。
- ・授業者自身が授業を通してどんな子どもの姿にしたいか、具体的に考える必要がある。

第8回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年11月5日(火) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	36名
◇内容	学習指導案の相互検討①・単元構想案の相互検討④(学生)

【ルーム1】ファシリテーター：圓山裕史(奈良市立伏見小学校)

1) 菊池甲余子先生(姫路市立水上小学校) 特別支援学級 自立活動「いきいき野菜を作っていこう」

自閉症、情緒障害の児童 自分で育てたい野菜に名前を付けて、苗を植える

おいしい野菜にするために必要なことを調べ、お世話をする

トマトの枝葉が広がって、他の野菜の成長を妨げている 「どうすればいい？」

「切った方がいい」「切られたら困る」 → みんなが納得するように切ることに

切った枝の活用方法を考える → 腐葉土をつくる → 次は冬野菜を作ろう

収穫しておでんパーティーをする(保護者を招待して) 「自産自消」

循環していくことの意味に気づかせたい

意見交流から

- ・野菜を育てながら「循環する」ことの大切さを感じられるのがいい。学びが連続する。
- ・クリティカルシンキング「トマトの育ちはいいが、他の作物が…」のところが印象的。
- ・外に出たくない子どもへの手立ては？ → 自分の野菜に名前を付けることで愛着をもたせた。
- ・自閉、情緒の子どもに見通しを持たせることは難しいと思うが。
→ もっと大きくしたい、今度は僕もトマトを育てたい
- ・5年生がSDGsの学習をしているので腐葉土の宣伝をしてみたら、野菜のくずなどを持ってきてくれた。自分たちで作った腐葉土を学年で使ってもらうなどの交流があればもっといい。
- ・「切る」「切らない」の対立のとき、「トマト博士」のようなプロに来てもらって話を聞くといいのでは。

2) 加藤茉莉先生(品川インターナショナルスクール)

小学校5年 総合的な学習の時間「心身の健康と成長」

国籍が多様な20名の学級 思春期にさしかかり、休み時間の会話にその類の話題も聞かれる

授業科目が公立学校とは違い、「保健」ではなく「探究」で取り扱う

小さいころからの自分の成長を、マインドマップに表す

健康を支える要因、ウェルビーイングについて調べ学習

自国の健康データ、日本との比較、健康チェックリスト作成

学校看護師、カウンセラーから話を聞く

異学年との交流(高校1・2年) 悩みを聞いてもらう

意見交流から

- ・最後のところでイメージするウェルビーイングとはどういう姿か？
→ 各自がマップや指標を用いて「今日の様子」を表現できればいいと考えている。
自分の「健康」の定義やイメージが広がればいい。

- ・異学年との交流をやりやすいのはうらやましい。特に、高校生と交流できるのがいい。
- ・最後の振り返りを書いたときに、導入で作成したマインドマップを見直してみるとよいのでは。
- ・グループワークのときにも、国籍の違った子どもにするなど、いろんな子どもがいた方がおもしろい。
- ・多様な国にルーツを持つ子どもが集まっているのだから、幸福度の尺度も食べ物や宗教、環境など価値観が違ってくると思う。その多様性を理解することにつながると思う。
- ・自分にとってのウェルビーイングの具体的な姿を、各自が言語化できるといい。さらに、個人としてのウェルビーイングを共有しながら、集団としてのウェルビーイングって何かを考えさせたい。

3) 横井琴音さん(社会科教育専修3回生)

中学校2年 総合的な学習の時間「古墳の“これから”を探ろう」

寝屋川には古墳が3基あるが、ほとんど知られていない もとはもっとたくさんあった

古墳、古墳の痕跡をフィールドワークで探してみる(地名に注目)

壊された古墳と壊されていない古墳があるのはなぜ? → 市の文化庁担当者にGTに来てもらう

「大切なもの」って何だろう? それらを守っていくためには?

意見交流から

- ・古墳は壊されてきたのが当然で、守られてきた方が珍しいと思う。太秦高塚古墳が、個人が大切に守ってこられたというのなら、そういうストーリーを学んでいくとよいのでは。
- ・地域の魅力を発信するには、「大切にしていかなければならない」と実感できることが重要だと思う。そのためには、ただFWとGTから話を聞くだけでは得られない。
- ・古墳のアプリもあるようなので、それで調べてみるのも面白いのでは。
- ・「大切」という言葉は、人によって捉え方が大きく違うので、全体で「大切」を共有するのはかえって難しいのではないかな。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也(大分大学)

1) 高良直人先生(沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校)

中学校 総合的な学習の時間「地域活性」

2) 西田有孝先生(生駒市立俵口小学校)

小学校5年 社会科・総合「食料生産」

3) 高橋百合香先生(鹿児島県屋久島町立小瀬田小学校)

小学校6年 外国語科「We live together ～私たちは一緒に暮らしている～」

4) 屋良真弓先生(沖縄県南風原町立南風原小学校)

小学校6年 社会科「平和で豊かな暮らしをめざして」

【ルーム3】ファシリテーター：中村友弥(奈良市立朱雀小学校)

1) 原田龍ノ助先生(奈良市立朱雀小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間「自然災害から人々を守る」

朱雀小の児童は、災害が比較的少ないと言われる地域に住んでいる。高台で近くに川もなく、地盤も

しっかりした地域である。だが、近くに断層があったり過去に南山城水害があったりなど決して油断できる地域ではない。児童は、防災は大事で準備もしているが、どこか他人事であり、真剣に取り組んでいないと感じたので、総合で授業に取り組んでいる。

学習のポイントは、地域が作成したハザードマップや作成者の自主防災の方々の話である。それらを通して、防災への意識を高めて行動できる児童の育成を目指した取り組みである。

※実践を進めているが、児童の学びで思うように高められていないのではないかと思います。終着点をどのようにすればよいか教えてほしい。

意見交流から

自助・共助・公助で整理して、ふりかえりをするのが大切。防災の学習は、最終的に自助が大切である。本当に起こったときに、自分の命や大切な人の命を守れるのかという問いをつらぬくことが大切。学習の原点に立ち返ってみる。時間で分ける。生きて家族に返すという教員の使命に立ち返る。バックヤードの視点。奈良市と木津川市との連携。

2) 栗谷正樹先生（大阪市立今川小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「新紙幣を起点としたノダフジの保存活動」

授業モデルの提案。ノダフジは、手入れをすることで花が咲いているが、高齢化の問題で担い手不足になっている。「吉野の桜、野田の藤、隆雄の紅葉」と呼ばれる。このままでは花を咲かせることができなくなってしまう。コロナ前までは、小学校とのつながりがあったが、今は途絶えてしまった。①新紙幣の導入→②まち探検（ノダフジ関連）→③ノダフジの会と出会う→ ④発問 →アンケート

※「ふかめる」、「ひろげる」の発問で迷っている。アドバイスいただきたい。

意見交流から

導入が大切だが、魅力ある教材で、新紙幣に採用されている事実はインパクトがある。ノダフジのような地域遺産はたくさんあって、私たちが気づかないうちに失われているのではと思う。行政としても今がチャンスなのでは？なぜ積極的ににならないのだろうか？

3) 才田優佳さん（特別支援教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「過去と未来をつなぐ武庫川」

【みつめる】小学校から武庫川が見える。なじみ深い武庫川。昔の武庫川を調べよう

【しらべる】昔の写真からわかること

【ふかめる】年表づくり → 昔の人の川の保全があって、今の武庫川がある

【ひろげる】他学年・地域へ ポスターづくり

※川に出かけてどのような活動ができるか。当たり前に気づくにはどうしたらいいのだろうか。

意見交流から

→当たり前に気づくには、もうワンステップが必要なのではないか。子どもたちに委ねてみるのはどうだろうか。委ねた意見から、学習が進むといいのでは？視点によって活動が変わる。武庫川を中心にまちづくりが進められているのではないだろうか。防災としても学習できる教材である。佐保川に愛着はあるのか？武庫川に愛着ある児童の育成がひとつの視点。自然と文化の森協会とつながることで、憩いの場としての魅力を感じられる。ゲストティーチャーは、深みと厚みをもたらしてくれる。電子基準点がある数少ない学校

【ルーム4】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 阿部友幸先生（山形大学附属特別支援学校） 作業学習 「みんなが喜ぶ仕事Ⅱ」

①目標

- ・使用する清掃用具の特性や扱い方及び地域を清掃することの意義を理解し、作業の確実性や持続性、巧緻性等を高める。
- ・清掃技術に込められた工夫や、自分たちが地域のためにできることについて考え、作業のやり方を工夫する。
- ・より良い地域社会への貢献に向けて、自分が清掃を通してできることを進んで実践しようとする。

②実践の概要

木工：ウッドグループ

布：クラフトグループ

清掃：クリーニンググループ

クリーンを第1希望とした生徒でグループを形成。クリーンで地域をよりよくしたい。

- ・山形市蔵王クリーンセンターにおいて、2か月に1回程度の定期的な地域清掃を行う。
- ・一般社団法人ビルクリーニング協会の協力を得て、清掃用具の使い方や清掃の意義を直接指導していただく。：乾式モップ、ほうき、タオル + 水モップ、掃除機の追加
- ・生徒自身が相手の存在を意識して自主的に活動できるようにしたい。
- ・喜んでくれる相手を意識できるようにしたい。
- ・7月に「アビリンピックやまがた2024」に参加し乾式モップなどの基本的な使い方は得とく。
- ・清掃を通して自分や周りの人にどのような影響があるのか具体的にイメージできていない。
- ・地域の方から清掃についてのアンケート調査に協力していただき、やり遂げることで、自らの清掃技術の向上や地域の人の喜びを実感させる。

意見交流から

- ・フィードバックをもらえるようにすると、生徒も喜んでもらえたという実感を持つことができるだろう。
- ・蔵王コミュニティセンター以外での清掃活動へと発展できないか。
→ 活動日が少ないため、発展は難しい。
- ・校内清掃にも影響はあるのか？
→ 校内清掃の時間がないので、不明。
- ・少なくとも清掃スキルを身につけることができる。今後、相手意識を持って活動することが大切だ。

2) 藤岡晃弘先生（奈良市立三碓小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「三碓平和学習 ～平和のために今から自分たちができること～」

①目標

- ・戦争を繰り返さないために活動されている語り部さんやゲストティーチャーの方の思いにふれ、平和の維持・実現のためにできることを考えることができる。
- ・平和を自分事とし、相手意識をもって、できることを表現することができる。
- ・平和の維持・実現のために行動しようという気持ちを持つことができる。

②実践の概要

- ・戦争当時の様子を語り部活動として伝えてもらう機会が少なくなっている。一方、戦争を経験

していない若い世代の中に平和のために活動している団体がある。カクカワ広島（核政策を知りたい広島若者有権者の会：2019年1月発足）と交流し、共同代表である田中氏から直接、話を聞く機会をもった。

- ・毎年、6年生から平和学習での学びを教えてもらってきているが、児童の記憶にはあまり残っていないように思われる。
 - ・日本がアメリカなどと戦争をしていたことを知らない児童が26.6%。
 - ・戦争や平和が児童にとって自分事になっていない。
 - ・ロシアによるウクライナ侵略やイスラエル・パレスチナ間の戦争の方はよく知っている。
- ☆平和の重要性に関わる言葉を表面的なもので終わらせたくない。向き合い続けた末に出てくる思いや考えを、個々の児童が言語化し、表現することを目標としたい。
- 修学旅行時に平和記念公園内を被爆者援護会の方々に班ごとにガイドをしていただく。
 - 核兵器禁止条約を取り上げ、日本と世界の今の核兵器問題について考えさせたい。
- カクカワの田中氏とのオンライン交流。自分と同じ若い世代の人が、行動していることを知り、行動化を促すきっかけとしたい。
- サーロー節子氏の「祈るだけでなく具体的に行動してください」という言葉と出会わせる。
- 平和集会では各教室を訪れ、発表する。また平和宣言として発表する。

○事前学習

- ・沖縄戦の新聞記事
- ・桃太郎のお話から「鬼退治システム」を学ぶ。
- ・なぜ戦争に向かっていったのか。国策
- ・広島風お好み焼きから戦中・戦後の人々の暮らしを考える。
- ・核兵器について関挙げる。
- ・カクカワとのオンライン交流

○事中の学習・修学旅行

○事後学習：下級生との交流会、平和宣言を発信する。

意見交流から

- ・事前学習が非常に丁寧に実施されており、カクカワとのオンライン交流で、若者が「行動」している事実を伝えたことは行動化に効果があった。
- ・下級生への伝え方だが、なぜ、これまでの平和集会が記憶に残っていなかったのかを検討する必要があるのでは。
- ・理性よりも感性にうったえかけることが重要。
- ・下級生に伝えることや平和宣言では、行動化としては弱い。行動化の段階を検討してほしい。

3) 福原望愛さん（美術教育専修3回生） 中学校2年 総合的な学習の時間「水道水」

①目標

- ・水質保全のためには水の循環が重要であることに気づく
- ・川にゴミがあると氾濫時に危険度が増すことに気づく
- ・自分たちに何ができるかを考え、実践する。

②実践概要

- ・水質汚染の現状を把握する。 世界中の水質汚染による問題の把握

- ・地域の川を調べる。「どうして飛鳥川はきれいな状態が保てているのだろうか」理科で水の循環について並行して学び、水の地球上での循環を理解する。
- ・水質保全と水の循環の関係性を理解する
- ・地域の川の保全活動をされている団体へのインタビュー
クリーンリバー飛鳥の代表の話を聞く（水質センターに代替の可能性）
- ・自分たちに何ができるかを考え、発表する。
生徒の意見予想
川のゴミ拾い、山への植林、川の生態を調べ図鑑にする、コンクリート道の撤去を提案する
- ・ゴミ拾い、清掃への参加

意見交流から

- ・学習のスタートは「世界の川」ではなく、「地元の飛鳥川」にすべき。そこで見つかった課題が、他の県・全国の川、世界の川の課題との共通点が見えてきた上で、SDGsにつなぐ。
- ・川環境の保全活動について、地元の方から話を聞いただけで終わっては、「お国自慢」の域を出ない。オンラインが広がっている今、オンラインで他府県の中学生とつながって、生徒同士の意見交流をした方がいいだろう。
- ・学校がしたいことを地域に提案するだけでは、地域にとって負担感が増すだけだ。地域がしてほしいと思っていることを教員が把握し、活動に参加することが、自分たちで活動する前段階になるだろう。

第9回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年12月3日（火）19時～21時30分
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	33名
◇内容	学習指導案の相互検討②

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1）山川丈二先生（奈良学園小学校）

小学校4年 社会科「奈良県の特徴ある地域の人々の暮らし」

吉野の手すき和紙を取り上げる（2年生時、吉野町で手すき体験をしている）

「伝統の技は途切れさせたらあかん。一つの技が消えたら、いくつもの技が消える。」職人の言葉

この言葉から学習課題をつくる 「和紙作りが1300年も続いてきたのはなぜだろう？」

和紙と洋紙の比較 調べ学習（和紙の歴史、製造過程、自然条件など）

職人さんへの聞き取り（苦労や工夫や喜び、課題など） 今は4件しか吉野にはない

「手すき和紙の魅力って何だろう？」 手すき和紙魅力ランキングをつくろう

観光協会の方に課題解決のための取組を話してもらう 「もっと和紙を使おう」

12月に手すき和紙体験 できた和紙に夢や願い、感謝の気持ちを書いて保護者や地域の人に渡す

意見交流から

- ・衰退していく伝統産業をブランド化させたりして、復興している例なども調べてみてはどうだろうか。
- ・「伝統は引き継ぐ」ということが前提になっているが、もっと他の視点があってもいいのではないかな。
→ 実状を言えば、手すき和紙は価値が高く、美術工芸品にも使われており、収入は高いようである。
決して思いだけで仕事をされているわけではない。
- ・当事者でない一般の人から見て、「これは残していくべきものなのか」と自分事にはなりにくい。
- ・和紙のもつ魅力を最大限生かせるような、新たな使い道や提案ができるといいのではないかな。
- ・「応援する」のは、具体的にどう応援するかを子どもなりに現実的なことを考えられたらいいと思う。

2）岡田源紀先生（愛媛県新居浜市立中萩中学校）

中学校 生徒会活動「地域を知り、地域に知ってもらうために」

まず地域のボランティア活動に参加する 自分たちのできることやしたいことを見つけていく

地域行事で出るごみの削減 → 学校行事とつなげることで中学校のことを知ってもらえないか

→ 伝統的に続いている空き缶壁画アートとのコラボ

運動会のときに空き缶回収ボックスを設置、祭りのときに公民館に回収ボックスを置く など

空き缶壁画アート制作 3年生が中心となって、1・2年生もいっしょになって

各公民館にお礼状（作品の写真を添えて）

意見交流から

- ・校区だけでなく、もっと広く知ってもらう工夫があってもいいのではないかな
- ・生徒会の呼びかけでうまくいったのだが、そんな生徒会の頑張りや動きが校内で共有できていない。
- ・空き缶アートが伝統として続いているのが、このままでいいのかという視点が必要だと思う。

- ・「学校生活に役立つ」「地域のためにもなる」活動に空き缶アートになっていればいいのだが。
- ・空き缶アートが、生徒たちにとってワクワクしながら取り組めるものにしたい。
地域の人たちに困っていることを、アンケートをとって聞いてみるというのでは。
それを出発点にして、うまく空き缶アートがつながっていけば。

3) 春園彩奈先生（愛媛県新居浜市立中萩中学校）

中学校1年 総合的な学習の時間「新居浜太鼓祭り和新居浜市のこれから」

毎年10月に開催される新居浜太鼓祭り（約400年の歴史）

祭りがあるのが当たり前と思っているが、そうなのだろうか？ 「なぜ長い間続いているのだろうか？」

学校も休みになる大きな祭りであるが、子どもたちの興味が少し離れてきているように感じる

青年団、かき夫などにインタビュー → 次の世代がいらない、資金不足、かき夫不足などの課題

→ 自分たちにできることはないだろうか 祭りの継承、新居浜市の未来について考える

異学年への発表、小学生への発表

意見交流から

- ・祭りの継承に、なかなか表立って見えないところに気づくところに意味がある。
- ・中学生でも何か祭りの手伝いが実際にできないのだろうか。
→ かき夫は子どもはできないし、祭り自体に直接関わることはできない（女子禁制）
「子ども太鼓」というのが別にある。学校に太鼓が巡ってきて触れる機会もある。
- ・小中学生ならば「応援する」ことにつながれば。子どもから「提案する」ことがあってもいい。
- ・異学年や小学生に伝えるだけのゴールでいいだろうか。行政や運営の方向けの提案がいい。
- ・実際に縁の下での力持ち的なところでいいので、やはり祭に参画できたという実感がほしい。
それで発信するから説得力が生まれて、本当に伝えたいことも見えてくるのではないか。

4) 下津慶一先生（鹿児島県徳之島町立母間小学校）

小学校5・6年 総合的な学習の時間「母間に伝わる母間魂について学ぼう」

1816年「母間騒動」厳しい藩からの圧迫に意見して投獄された「喜久山」を救出するために、母間村の630人余りが代官所を襲撃した一揆 その後、薩摩藩へ出向き直訴する

「母間魂」仲間を思い正義を貫く 「母間正直」として今も母間に伝わっている

校訓「できないということと言わぬ 最後まで本気でやり通す」 母間魂につながっている

2014年に「母間騒動の碑」が校区振興会によって建てられた

まず、母間騒動について知る活動 なぜ200年経ってから碑ができたのだろうか？

校区振興会の方に聞き取り 10年前から「母間騒動劇」を島口（方言）でやっている

意見交流から

- ・社会のルールでも「おかしい」と感じたことを変えていこうとする原動力を学ぶことができる。
→ 当時の人たちの思いに少しでも近づけさせたい。そんな劇にしたいと考えている。
- ・学んだことをもとに「母間魂」について捉え直したことをいろんな人に伝えられるように。
- ・劇の前に日常のことを批判的に考える場面があると、より「自分事」になるのではないだろうか。
- ・保護者や地域の人にアンケートをとって、「母間魂」について今どうなのかを聞いてみるのもいい。
- ・自分事として探究するために、今の自分を考えて「母間魂」が発揮されているところとそうでないところを具体的に考えることで、劇のセリフも変わってきてより真実味のある劇になるのでは。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 駿河徳子先生（奈良学園小学校）

小学校2年 生活科・特別活動「えがおで JAMP！」

なまけたい気持ちに負けずに頑張る心を育むことをねらいとした道徳教材「へこたれ虫」を題材として、最後までやり遂げることを学び、吉野山での宿泊学習「一休さん体験（4つの修業、校外学習）」につなぐ展開。吉野山について学び、サイレントウォーク、ごま焚き体験や座禅などを体験するほか、和紙作りなどの人の営みも学ぶ。ESDの要素として、相互性（いろいろな人の支えがあって、楽しく過ごせていること）、や責任性などがあげられるが、それ以外にも、無言で歩くこと等を通して自然を直接感じ取ったり、食材のありがたさや人とのぬくもりなどを感じたりしている様子もあった。こうした経験は、最近の子ども達に乏しいと言われる原体験を積むという意味で、意義深いと思われる。また、自分に自信を持ち自己効力感を向上することは、社会に対して働きかける自分を見受けだすという点でも意義深いとの感想があった。こうした学びを踏まえると、コミュニケーション能力の向上や文化多様性の価値観などの形成にもつながっていく可能性がある。今後は、学年を貫く学びをどう実現していくかというカリキュラムマネジメントをどのように実現していくかという点が課題。

2) 三笠日向先生（大阪市立新森小路小学校）

小学校6年 社会科・道徳・総合的な学習の時間「知行合一～大塩平八郎から学ぶ～」

江戸時代後期の新しい国造りについて学ぶ単元として、社会科の教科書に大塩平八郎が取り上げられている。地域の祖先が大塩平八郎の乱に参加していることに気づかせ、平八郎が座右の銘としていた「知行合一」（本当の知は実践を伴わなければならない）について学ぶことで、持続可能な社会の担い手として行動していくことの大切さを学ぶ単元。地域教材の開発という、教材研究が素晴らしいとの感想があった。知行合一という考え方を学んだことで、社会科ではない他の単元について学んだあとに、この考え方を思い出して、行動化を促すことができるのではないかとこの感想があった。また、江戸時代の学習というより明治時代（新たな社会を創っていく時期）の学習として扱うとともに、それほど高い身分ではなかった大塩平八郎が社会の課題を真剣に受け止め、行動したという姿は、持続可能な社会の担い手としてのロールモデルにもなる。人の生き方に学ぶこと、社会課題との向き合い方を学ぶという社会科としてのESDの在り方が見える実践だという感想があった。

3) 中川純一先生（生駒市立俵口小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間

「未来の環境のためにわたしたちにできること：四日市ぜんそくに関わった人たちの思いにはせる」

四日市ぜんそくを題材として単元を作成した。被害者の立場にたつだけでなく、社会の様子、工場の立場、被害者、行政など多様な立場を学びながら複雑な社会構造について学ぶ単元とした。観光地にもなっている、四日市の夜景を最初と最後に見せることで、変容を子ども自身に感じさせる単元構想になっており、またマイノリティのつらさに気づいたり、子ども達のアンテナを育てる授業実践になっている。谷川俊太郎さんが作詞したある四日市市内の高校の校歌について、学生から情報提供があった。当初コンビナートの様子を歌う歌詞があったが、公害が広がったことを理由に3番の歌詞を一部変更したことがあった。新たな教材研究の視点として活用できるものと思われる。

【ルーム3】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 三好偉雄太先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校1年 生活科 「おうじ すてき はっけん！」

ボランティアガイドさんや町役場の方に話を聞いたり、実際に訪れたりして、校区の「すてき」を感じられるような活動にする。

達磨寺・・・聖徳太子ゆかり、船戸児童公園・・・蒸気機関車、畠田公園・・・秋みつけ

どんなところがすてき？（校内の研究授業、本時）

アイスブレイク「おうじちょう じゃんけんゲーム」は、上記3箇所の様々な写真を用意し、例えば達磨寺はグーなどと設定して、引いた写真がどこの写真かでグー、チョキ、パーでじゃんけんになるようにしている。

メインの活動は、3箇所の「すてき」を伝え合う活動。

「広げる」の段階では、保護者や地域の方など第三者への発信を想定している。

ESD との関連に関してアドバイスをいただきたい。また、子ども主体ですすめたかったがどのようにすればできたか。

意見交流から

- ・1年生としては、達磨寺などは特に、その価値などを感じるのが難しいのではないかな。

→地域との関わりや児童の感性で感じられるような活動にしたい。

（例1）公園を維持している地域、行政 （例2）達磨寺でも歴史的な価値というより季節や自然を感じられるように

- ・子ども主体でしたかった

→1年生であるし、学習の流れを作るのは教師主導でいいと思う

- ・SL が傷んできていて、文化財に登録したという次世代に残していこう（世代間の公正）という流れがある。そういったことであれば1年生でも感じられるかも。

- ・コミュニケーション力を1年生の時点で重視することは、学年が上がっても学びの質を高めるものになるのでいいと思う。

- ・本時の中にあつた「おうじちょう じゃんけんゲーム」が良かった

→この活動を児童主体のものとして、友達と話し合ったり、グー・チョキ・パーの割り当てを決めたりしていくのもおもしろいかも。

2) 高山翔伍先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校5年 社会科「情報を生かして発展する産業 ～行ってみたい観光のまち 王寺～」

王寺町が観光に力を入れていて、社会科の情報産業を絡めつつ、総合的な学習の時間につなげていく流れ。

情報を生かしながら王寺町がどのように観光業に力を入れているのかを、地域観光課やボランティアガイドさんなどをゲストティーチャーとして使いながらすすめる。

「残していきたい」人の想いを中心に学習をすすめていく。

ESD との関連

相互性、公平性、責任性 コミュニケーション力、つながり、他者と協力

意見交流から

- ・ゲストティーチャーの活用は、教員だけでない視点なども感じられて授業に深みがでるのでいいと思

う。

・達磨寺が持続不可能になってきて、一度拝観中止になったが、クラウドファンディングで再開するようになった経緯がある。

→なぜ続けられなくなった？ 大変だったことは？ などの視点で話が聞けたらいいと思う。

・ガイドさんの生の声を聞くのは言いと思う。その中でガイドさんの困り感などが聞けると、持続可能性を考えることになり、「子どもガイド」をやろうといった発展もあるかも？

3) 神前竜太先生（大阪市立加美北小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間「推しの工場」

まず、校区内の調べたい工場を考える。方法としては、フィールドワークとインターネットでの検索次に自分たちの「推しの工場」へインタビューと工場見学に行く。インタビューを考える際には、検索すればわかることなどはしないように注意。働く人の想いや工場の「押しポイント」を増やせるように。

そうして調べたことをまとめてポスター作成をし、学級内で発表しあう。

たくさんの「推しの工場」がある加美北のこれからについて考え、行動化していくが、この「広げる」の段階の活動がまだフワッとしていてアドバイスが頂きたい。

ESD との関連

連携性、相互性、責任性 システムズ、コミュ 世代間

意見交流から

・工場の課題に対してできることは、児童にはなかなか難しい。まさに「押し活」として、働いている人や工場自体を応援するような活動がいいのではないかな。

・保護者や地域の人に知ってもらえるような発信がいいのでは？保護者や地域の方に向けて発信するマップの中に、その工場で作られた部品がどんな製品に使われているか示されているといい。実際に工場で働く方と触れ合うような機会にもできたらどうか。

→地域の自治連合会長も工場経営者であるし、年に1度の地域のイベントで協力してもらえそうである。

・それぞれの工場で出る廃材で、学校で使えるものを一緒に考えて実際に作れたら面白いと思う。

・中小工場の技術力やその製品に対するプライドに触れるいい機会になる活動だと思う。

・インタビュー内容を事前にしっかりとしていたことが、充実したインタビュー活動になったのだろう。

【ルーム4】ファシリテーター：阿部友幸（山形大学附属特別支援学校）

1) 吉岡真志先生（奈良学園小学校） 小学校6年 理科「月と太陽」

児童の実態：上位層、下位層いるが、入試の点数はとれるが本質的な理解まではできていない。

9月10月にお月見しよう！ 月の写真を分類分け

満月見たい。いつがいい？ → 満月の写真を探し出す

月と太陽の位置関係からモデル実験をする（自分たちで実験方法も考える）

月にウサギが見えると言われているが、本当？→ 調べ学習→自分のストーリーを作る。

【実践中の変更】

・写真の撮り方にこだわる子が出てきた

→「月の満ち欠けする条件はなに？」と問い掛けするようにした

・様々な意見を自由にノートに書く

・どの立場から月を見ているか？ 視点を統一（自分が地球にいるときの月と太陽の位置関係など）

意見交流から

- ・全部で何時間？ → 13時間。標準時数より多い
- ・そのときの子どもの疑問から問い掛けを工夫し、一つ一つ自分の考えを伝え合っているのがよかった。
- ・SDGsは該当なしではなく、4でよいのでは？謙遜されているが、実際に質の高い教育ができている。
- ・価値観は多様性も入る？ 世代間の公正も入る？
- ・指導案と、実際の展開を変えていたが、最終的な指導案はどちらにする？
→ 最初に考えていた指導案。そちらの学習展開の方が、子供の議論が深まると思う。
- ・ICTをフル活用し、子どもたちが活発に意見交換していることが伝わった。
- ・子どもたちは新しい知識も得ながら考えを深めていた。

2) 赤嶺英幸先生(沖縄県豊見城市立上田小学校) 小学校6年 社会科「国づくりへの歩み」

縄文時代と弥生時代、古墳時代の暮らしの違い → 何があったのか？ 調べてみよう

自由進度学習 ワークシートを準備して自分たちで進める 速い子にはスペシャル問題

「どの時代が住みやすかったか？」「どちらの時代に住みたい？住みたくない？」考えを伝え合う

【ESDとの関連】

公平性 連携性 責任性

批判 多面 コミュニケーション

世代間の公正 人権・文化

SDGs 10 11 16

意見交流から

- ・子供の自由な意見を取り入れていて、子供が学習に意欲的に取り組んでいた。
- ・指導者が想定した理想の子どもの姿はあるか？
→自分の考えを書く根拠をどこまで書けるかを重要視した。
- ・自由に調べさせたいが、なかなか難しい。指導者間でも評価で意見が分かれそう。
- ・SDGsのロゴを使っていたようだが、子どもたちは理解しているか？普段使用しているか？
→ ロゴについては掲示しているにとどまっていたが、まずはSDGsの各目標について、各学級でクイズ形式で事前学習を行った。(SDGs開き)
- ・「住みたくない」理由の課題解決方法が考えられない子供がいたことが課題と話があったが、過去の出来事と現在自分たちが生きている時代を比べる視点をもてば、自分事になるのではないか。今日の自分たちの関わりを考えることが、歴史を学ぶ意味にもなる。
- ・教科書によっては、「縄文時代の人から知恵をもらおう」のようなコーナーがあり、現代人が過去の人から学ぶことについてきっかけになる箇所もある。
- ・今と昔をつなぐ一歩になる学習。今と向き合って行動変容につながるような指導案になるとよい。
- ・子供たちが「住みたい」「住みたくない」と選ぶ理由についてはバラつきがあったか？
→似通ったものが多かったが、SDGsとの関連では、様々な意見が出て面白かった。

3) 鈴木郁香先生(千葉県柏市立高柳小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「ぼくも、わたしも、あったかやなぎ」

対話的な学びを重視 地域の方々の協力体制がよい

この授業実践をきっかけに、学校で総合をしっかりさせる問題提起もしたい

「あったかやなぎ」というキーワードは地区でみんな使っているが、認識は様々。

「あったかやなぎ」に関わる人、かかわる行為、活動などについて考える

知らないことや分からないことに疑問を挙げる。

インタビューやアンケートを実施する。

自分たちにできることはないか考える

第二次では、学校で決まっている福祉体験を行う。

第三次では、自分たちが取り組みたいことを考えてやってみる（感謝状、標語作りなど）

意見交流から

- ・インタビューやアンケートから、「自分たちにできることはないか？」の展開が飛んでいるように感じたが、子供の反応はどうだったか？
 - 教師主導で、「子どもたちにできるようになってほしいことは？」ということも加えていたので、それを参考に考えていた。
 - 大人が望むことをかなえるという視点ではなく、子ども発信で「あの人みたいになりたい！」「あの人のために、～したい」などと考えられたら良い。
- ・中心は自分たちであることが分かるような板書になると、思考も具体化されるか。
- ・インタビューした方にもう一度会えたらどうか？身近な人から自分たちが感じたことを伝えていく。
- ・話し合いのグループ分けの工夫は？
 - 子供のこれまでの学習や生活の様子から、意見を出しやすいグループにしたい。また、学級と学校生活を敢えて分けた。
- ・あったかやなぎという言葉の定義がはっきり決まっていなかったのであれば、それを自分で考えて一言で表せるとよい。そしてそれを毎年積み重ね、キャリアパスポートのようなファイルに蓄積するなどすると、自己変容を捉えられて面白いのでは。
- ・人を中心に行っている実践というところがよい。わが学校と地域の人が思っている地域でうらやましい。
- ・異学年交流をするのもよいと思う。

第10回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2025年1月21日（火）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	40名
◇内容	学習指導案の相互検討③

【ルーム1】ファシリテーター：島俊彦（福岡市立七隈小学校）

1）木幡美幸さん（社会科教育専修3回生）

中学校1年 総合的な学習の時間「みんなにやさしい防災って何だろう」

- ・生駒市の防災意識の低さに対する危機感から実践を構想。
- ・実践を通して、助けられる側から助ける側へと中学生が変容することを期待している。
- ・未災地である生駒だからこそ実施可能な防災教育を展開したい。

意見交流から

- ・東日本大震災の事例から導入して、どのように生駒での実践に繋げるのか？
→陸前高田や気仙沼を訪れた経験から、東日本大震災を扱いたいと思った。被災地の震災前の状況と、現在の生駒市の共通点を見出させたい。
- ・市民への調査では、世代や立場によって回答や困り感が異なるのでは？
→高齢者や子育て世代などを想定している。
- ・地震に付随して起こり得るリスクへの対処は？
→地震に焦点化していたが、地滑りなどもある。
- ・生駒市で発生した過去の災害は？
→石碑などから過去の震災を辿っても良い。
- ・単元末は、市役所職員へのプレゼンで良いのか？
→地域への発信など、実際的な行動までも求めていきたい。

2）田中愛花さん（国語教育専修3回生）小学校6年 総合的な学習の時間

「地域の人に癒しをどうぞ～奈良で生まれた茶の湯（茶道）を通して～」

- ・郷土学習の中で、地域貢献活動を展開したい。想定は教育大周辺地域の小学校。
- ・茶の湯の心である「和敬清寂」の精神性を児童に育みたい。

意見交流から

- ・実践のゴールや、授業者の願いは？
→「和敬清寂」の精神性を味わってほしい。この言葉を、どのタイミングで児童と出会わせるかが重要。「和敬清寂」については、道徳でじっくり扱うことも良いのではないかな。
- ・社会科で室町文化を学んだ後に行う実践なのか？ →そのつもりである。（カリマネの意識）
- ・現代人の癒しは、お茶じゃないのでは？
→お茶が人々に与える安らぎを、文化継承の視点から追究する展開も考えられる。
- ・現代人の疲れの原因や、その疲れに対して、お茶にはどのような効果が期待できるか。
→お茶を飲んだ人の心がホッとするようなアプローチを考えたい。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 才田優佳さん（特別支援教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「過去と未来をつなぐ 武庫川

【単元展開の概要】

- ①武庫川について知っていることの共有
- ②写真資料を基に昔の武庫川について知る
- ③武庫川を守るための昔の人の苦労や思いを想像する。
- ④昔の武庫川について地域の方々にインタビューする 年表づくり
- ⑤昔の人々が武庫川を守ったように、日常生活を支えてくれている人に感謝し行動化する。

意見交流から

・現在の武庫川の良さは何だろう？

市民の憩いの場、サイクリングロード、ハイキングコース

すべての児童が関わった経験がある武庫川を教材化するのは、学習意欲を高めることになると思われる。

- ・時間軸を入れることで、目の前の武庫川の姿が「当たり前ではない」ことに気づかせているので、「育てたい資質・能力」にクリティカル・シンキングを追加したほうがいい。
- ・当たりの前を見直し、「当たり前でない」ことに気づかせるのはいい。この単元の展開だと、普通、「武庫川を守るために自分たちができることを考え実行する」という展開になる。しかし、この学習では生活全体が「当たり前でない」ことに気づくことから、活動範囲を広くしているのが面白い。

2) 高司靖信先生（天理市立福住小中学校） 中学校3年 数学科「相似」

【学習展開の概要】

- ①相似の意味理解、三角形の相似条件、相似な三角形の面積比
- ②三角形と比の定理、平行線と線分の比の定理、中点連結定理、角の二等分線、三角形の面積比
- ③相似な図形の面積比、相似な立体の表面積比、体積比
- ④世界の建造物の比 作図

意見交流から

- ・写真だけでは相似であるかどうか判断できないのではないかな。
- ・タブレットを使用しても、世界の建造物から相似な図形を見つけるのは困難だろう。いくつか教員の方で用意し、選択させる方がいいだろう。
- ・古墳なら、測量図があるので、取り組みやすいのではないかな。

3) 神吉優利奈さん（特別支援教育専修3回生） 小学校6年 総合的な学習の時間

「かき氷の秘密を探れーなぜ奈良県でかき氷を売る店が増えているのか？ー」

【単元展開の概要】

- ①奈良県でかき氷を売る店が増えていることについて、知っていることを話し合う。
- ②東向商店街をフィールドワーク。
- ③資料で調べる。
- ④かき氷に関わっている人の話を聞く。 氷室神社・大宮守人さん

ひむろしらゆき祭にボランティアで関わっている人

⑤これまでの学習を振り返り、自分たちが地域を盛り上げるためにできることを考える。

意見交流から

- ・ひむろしらゆき祭は 2014 年に始まった新しい祭り。なぜ始めたのか？その理由を考えることで、ウェルビーイングの社会実装について学ぶことができる。
- ・奈良のかき氷の氷は、家庭で作る氷とは違う。かき氷店に氷を提供している工場を見学したり、インタビューしたりするのもいいだろう。
- ・「自分が奈良県に訪れる観光客なら食べたいと思うかき氷を提案する」のではなく、観光客に奈良の良さを知ってもらおうという目的で、新しいかき氷を考える。

【ルーム 3】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1) 福田実莉さん（伝統文化教育・国際理解教育専修 1 年）

高等学校 1 年 芸術・総合的な探究の時間「手書き文化について考えよう」

書道に触れる人口が年々減少 墨・筆産業の衰退

手書きと印刷の年賀状の比較 在日外国人書道学習から見た書道への評価（GT）

墨工場、筆工場への見学、聞き取り

「〇〇へ、感謝」筆と墨で表現させる 手書き文化継承のために自分たちにできることは？

意見交流から

- ・学校教育における書道教育の課題とは？
→小学校では書写としてやっているものの、中学校ではほとんど行われていない。
- ・なぜ外国人に出会わせるのか？
→外国人から見る書道は、使用する道具なども含め賞賛されている。書道そのものの価値を感じさせたい。
- ・そうであれば、最後は継承も大事だが、書道文化や手書き文化のよさを発信させたい。
- ・手書き文化がなくなれば、墨や筆というものもなくなり、職人さんもいなくなるという事の重大さを感じさせたい。

2) 太田遥さん（伝統文化教育・国際理解教育専修 1 年） 中学校 2 年 国語「方言と共通語」

方言ラジオ体操（アイヌ語、琉球弁、関西弁）を聞く 何を言っているのか分からない

方言について調べる 考える（大和弁を例に）

共通語と TP0 に合わせて使い分けることの大切さ

方言がなくなりつつある現状をどう考えるか

「ありがとう」を例に地域によってどう違うか、日本地図に表し「ありがとうパズル」作成

意見交流から

- ・アイヌ語は方言ではなく、違う言語として捉えるべきではないか。津軽弁でどうか。
- ・同じ県でも地域によって結構違う。かなり細かく分かれているのではないだろうか。
- ・最終的に子どもたちの方言に対する思いはどうなることを考えているのか？
→「守る」ではなく、「大切にすることや、共通語も大事だということを感じさせたい。
- ・方言を使う人の暮らしに迫ることが大事なのではないか。GTでお話を聞くことも大事。
- ・自分をありのままに表現できるのが方言だから、そんなところが文化と関わってくると思う。

3) 犬塚良子先生（天理市立福住小中学校）

中学校1～3年 総合的な学習の時間「ヤマトサンショウウオも人も住みやすい里山保全をめざして」

2年前に生物部が絶滅寸前のヤマトサンショウウオを発見したことから取組が始まる

「福住学」ヤマトサンショウウオが住みやすい環境は人も住みやすいことに気付かせたい

そのために必要なことがらを5つのグループに分かれて取組を進める

（トラップ調査、炭づくり、堆肥、木工、植樹） さらに分かれて各班4人

それぞれに専門の講師を呼んで協力してもらいながら進めている

意見交流から

- ・なかなかうまくいかないことが多いということだが、それが大事だと思う。試行錯誤しながら手作りでやっているのがいい。
- ・最後の活動が発信だけではもったいない。
→ 学校間交流（同じように里山保全に取り組む学校は多い）、学校HPの工夫
- ・発信するにしても、それに対するフィードバックが重要で、その機会があるかないかで学びの深まりが違ってくると思う。

【ルーム4】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 澤井咲樹さん（英語教育専修3回生） 中学校3年 総合的な学習の時間「Lively GOJO City！」

五條市の状況や魅力を理解し、活性化させるためのビジネスプランを考えさせる授業を発表した。英語科の「Lively town in Japan」という単元に上勝町で行われた活性化の事例が載っており、その学習と関連させる教科横断的な取組を構想した。柿や柿の葉寿司といった特産品や、消滅可能性都市に位置付けられていることを題材にして、活性化についての課題意識を持たせようとした。

子どもの様子がよくイメージできており、現実味のある指導案になっている。子ども達に魅力をたくさん出させることがその後の授業展開に大きな影響を与えると思われる。

作成者が懸念していることとして、子ども達に調べるテーマを選ばせると、人数の偏りが生まれてしまい、グループ学習がしづらくなるのではないかとあるが、「授業者がテーマを絞ってしまうと学習のまとめの段階で偏りが生まれてしまう可能性がある」「子ども達が自分で選んでいくことが大切ではないか」という意見が出された。現職の先生のご意見として、「それまでの授業の中で子どもがどこに興味を持つかが見えてくるので、あまり心配しなくても大丈夫」との助言もあった。

2) 無量井夏音さん（国語教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「世界平和を目指す6－1サミット」

平和学習の授業実践として、修学旅行の事後学習において、身近な平和の大切さを考える授業を構想した。動画「もし『桃太郎』の主人公が鬼だったら」を視聴し、見方が変わると考え方が変わることによって気づかせ、「戦争をなくすにはどうすればよいか」という問いに向き合わせたいと考えている。この問いは、非常に難しい問いであるが、友達と一緒に考えあうことで、対話の重要性や様々な見方に気づくことの大切さに気づかせていきたい。

過去の戦争についてのイメージがどんどん子ども達の中でうすくなっていつの間にか消えている状況がある中で、重要な学修だという感想が多く出された。一方で、平和学習を実践することの難しさも、特に現職の先生方は感じておられ、どのように子ども達が考えられる問いにしていこうかという点について意見が出された。他教科（道徳や社会科など）でも関連する学習は多くあるので、うまく関連さ

せながら、また過去の戦争だけでなく国際理解や人権とも関連付けながら学ばせるとよい、という助言があった。

3) 澤田悠先生（奈良市立三碓小学校）

小学校3年 総合的な学習の時間「奈良県の伝統工芸品『奈良墨』」

なぜ奈良墨がながく受け継がれてきたのだろう、という問いを主として、授業を設計した。子ども達にとって、授業でも墨は使うが磨るのがめんどくさい、液体墨の方が楽、という印象を持っていることが多い。その子供の感覚を生かして、「なぜ楽なのに固形墨が使われている理由は何か」を探究させていく。墨の魅力に気付かせるために、墨を使ったお香をたいたり、ゲストティーチャーに出合わせたり、クイズや動画などを用いるなどして、様々な出会い方を設定している。また最後には、墨以外にも、様々な伝統文化を調べる授業にしていきたい。

子どもの素直な感覚（めんどくさい）を生かすことが、墨の魅力に気付かせるための布石としてとても効果的だと思われる。見つけ出した魅力については、4年生が「奈良県の特色ある地域」の学習をしているので、紹介させるなどして発表の機会を作るのもよいのではないかとの意見が出た。

調べ学習については、子ども達に自由に調べさせると、難しい言葉が多く、WEB上の言葉をコピペしていく作業で終わってしまうことが話題となった。子どもの経験知を生かすような調べ方をさせること、または墨で学んだことをカテゴリー化して、それを生かして他の伝統文化に目を向けるような手立てを講じると、視点を明確にして調べられるのではないかとの意見があった。

【ルーム5】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1) 前田扶美先生（熊本県菊池市立旭志中学校）

中学校3年 英語科「Be Prepared and Work Together」

- ・新しく赴任したALTの先生に対して旭志中学校の避難所計画について外国人支援や子ども支援、高齢者支援のことを配慮しながら情報を整理し、伝える生徒（単元のゴール）
- ・校内の芝生広場を避難所にしよう
- ・校内にいる防災士の先生の話聞いて防災の視点を学ぶ
- ・調べる段階から意欲的に取り組んでいる様子だった。
- ・自分たちで実際に現地に行き活動している様子が見られたことから自分事になっているような感じだった。

意見交流から

- ・子どもが活動の中で困っていたところは？
 - 防災という幅広い分野でどれを伝えるか選ぶことに苦戦していたので、ALTの先生に直接聞くようにした。
 - 「優しい日本語」を取り入れたことは生徒も伝えやすかったと思う。
- ・翻訳アプリなどは利用した？
 - 本当に伝えたいことかどうか確認させてから利用させるようにした。基礎の大切さも感じた。
- ・自分たちにとって身近な人に伝えたいことを伝えることができたことは、生徒にとっても生後の実用性を感じる。
- ・今までの積み上げがあって、生徒が今まで習った英語を使って伝えようとしていた。
- ・パンフレットなどを作成して市役所などに置くとしたら、という視点でもう一度自分たちで作った英

語を振り返ることができる。

2) 福原望愛さん（美術教育専修3回生） 中学校2年 総合的な学習の時間「飛鳥川セイバー」

- ・飛鳥川を清掃している構成メンバーの高齢化が問題。若い世代の参加を求めている。
- ・川の清掃などに積極的に参加できない児童に対してどのように働きかけるか。
- ・1月にゴミ袋2～3袋のごみが出る。
- ・地域の川じゃないので、意欲が出にくいのではないかな。
- ・活動に参加した生徒と、していない生徒がいるのはどうだろうか。
- ・任意で参加させるのではなく、体験的な活動を入れることでより生徒は自分事として学習に取り組むのではないかな。

3) 八尾有紗さん（書道教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「わたしたちの『ますづかみそ』！」

- ・昭和3年に創業した野田味噌商店の教材化 伝統的な作り方でできた「杓塚味噌」
- ・自分たちの生活にあるものをもう一度見直す良い実践だと思う。
- ・味噌が食べたくなる授業。
- ・総合だけでなく、いろいろな教科と関連付けながら進めることができる教材。
- ・フィードバックをもらうことも自分たちの行動を見返すことができる。
- ・身近にあるからこそ、児童がこだわりを感じて、地域、未来の人に残してきたいというような発言が出てきたら嬉しい。

【ルーム6】ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1) 吉岡優来さん（国語教育専修3回生） 小学校4年 総合的な学習の時間「地域と災害」

- ・国語科・社会科で防災を学ぶ → 総合へつなげる
- ・ハザードマップを教材として扱う。〇〇町ハザードマップを自作する
- ・現在のハザードマップでは、不十分なのではないか？避難できるのだろうか？
- ・鴨川が氾濫する危険性 歴史から考える。
- ・自作のハザードマップは、どのような視点でつくったらよいのか？
どのように広めることができるのか？
- ・京都市の過去に起きた自然災害について知る
- ・京都市南区の災害について調べる
- ・「まるごとまちごとハザードマップ」について知る
- ・市役所の方に話を聞くなど、情報を集め、自作のハザードマップに追加する
- ・自作のハザードマップを発表する

意見交流から

- ・鴨川が、環境・景観の保全、生態調査など様々な切り口から取り組める教材である。
災害の視点だけでなく、総合を軸にして学校全体で取り組むことができる。
- ・導入で視覚に訴える内容があってもいいかもしれない。
- ・まずは、4年生自身が分かりやすい自作のハザードマップになればよいと思う。
- ・映像を見るときは、話し合い活動等主体的に取り組むための工夫とセットで行うと良い。

- ・自分ならこのように逃げると宣言を書きこんだふりかえりも良い。

2) 前田佳代先生（天理市立福住小中学校）

中学校1年 家庭科「私たちの住まい～古民家再生を通して探る、地域の魅力」

- ・目標 古民家の歴史、伝統を重んじつつ地域の魅力につながるような再生を目指す
- ・住居の機能的な大切さを学んだ上で取り組む
- ・持続可能な住まいのあり方を問いたい
- ・福住の現状を把握し、課題を共有する
- ・古民家マップを作成する
- ・なぜ古民家を再生するの？
- ・移住してきた人の話を聞く
- ・古民家再生のアイデアを考え、伝える

意見交流から

- ・都祁に住んでいる私は人口減少を切に感じる。福住は、氷まつりを活用できる。
- ・増築した部分の方が、先に朽ちてしまうぐらい、昔の技術はすごい。
- ・福住だからこそその古民家の凄さや魅力を掘り出したい。
- ・京都市も空き家問題、所有者が亡くなって管理問題がある。古民家をリノベーションして居住以外で活用する方法も良い。
- ・福住の地域を見つめなおし、各教科の視点から新しい価値や学びを創造しているすばらしい取り組みのひとつになるので、実現させてほしい。コミュニティでの共生が課題。
- ・福住を、移住者を含めてポジティブにとらえている生徒たちがすばらしい。その価値観を高めて開かれた福住につながってほしい。（古民家や空き家を活用しにくいネガティブな意見に対して）

3) 東瑞さん（美術教育専修3回生） 小学校5年 総合的な学習の時間「奈良のお宝・春日山原始林」

- ・春日山原始林が抱える3つ課題 奈良のシカの問題 外来種の問題 ナラ枯れの問題
- ・次世代の木々が育たない 育つのは、外来種のナンキンハゼやナギ。
- ・春日山原始林を未来へつなぐ会との出会い
- ・発信は、保全と原始林の明るい未来を願いながら俳句をつくり、吟ずる。

みつめる 視覚に訴える教材を活用

しらべる 現地学習 未来へつなぐ会の方と出会う

ふかめる 俳句づくり 吟ずる

ひろげる 参観や地域の人に発信する

意見交流から

- ・吟詠や詩吟は、指導者の個性を生かした強みがある。
- ・俳句は、年配の方の心にささる可能性大。
- ・原始林を知らない児童への配慮が良い。
- ・5年生の国語科で固有種の話があり、からめることができる。
- ・原始林と児童をつなぐための工夫が大切。
- ・ナンキンハゼを活用する取り組みもあるので、つながることができるのではないか。

第11回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2025年2月4日(火) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 32名
- ◇内容 学習指導案の検討(1名)、カリキュラムマネジメント案の検討(1名)
「ユネスコ新教育勧告」について

1) 島田望季さん(社会科教育専修3回生) 学習指導案検討

中学校2年 総合的な学習の時間「生野区の空き家を減らそう」

大阪市生野区は、市内でも最も空き家の多い区のひとつ

下町情緒あふれる地域 道が狭く長屋が多い 建て替えが困難な状況

生徒にとっては空き家が当たり前の風景になっている

- ①生野区の空き家の現状を知る 空き家を与える影響を考える
- ②空き家を減らすための取組について調べる 区役所の人に聞く
- ③空き家の活用方法を考える
- ④考えた活用方法をプレゼンする

意見交流から

- 「下町のよさ」とは何? 子どもの予想をしっかりと想定しておく必要がある
 - 細い道の両側に木造の長屋が多く、そこに住む昔ながらの人の息遣いを感じられる。
 - コリアタウンもあり国際色豊かな地域だが、シングルマザーや高齢者も多い。
- 「空き家活用からまちづくり」と考えたときに、区役所のどの部署の人から、どんな話をしてもらうか、それによっても方向性が変わってくる。指導者側の意図をしっかりと持っておくことが大事。それによっても、区役所でなくても、自治会長なんかでもいいはず。
- 空き家を探究する課題として自分事にする導入は?
 - 通学路の写真を見せる予定だが、自分でも弱さを感じている。
- 最後にプレゼンするのは、活用方法を考えたことだけを発信するのか?
 - 地域の人や区役所の人を想定しているが、考えた活用方法をどう捉えてもらえるか。
- 行動変容を促す取り組みにするためには、自分事化させるところがポイントになる。そういう展開にすることが必要ではないか。「自分たちには何ができるか」を考えさせたい。
- 中学生でもできることはあるはず。「自分たちだったらどう活用するか」を提案させたい。

2) 高橋百合香先生(屋久島町立小瀬田小学校) カリキュラムマネジメント案の検討

小学校6年 外国語科「We live together ～私たちは一緒に暮らしている～」

「We are all connected」(僕らはみんなつながっている)の歌 動物や住処を表す単語
いろいろな動物について英語で紹介する

屋久島の絶滅危惧種の動物について知る(中学年ですでに学習) 動物の気持ちを考える

外国人ALTにそれぞれの国での取組や課題について話を聞く

「自分が動物だったら～」(I ～)文章を考え、ポスターにする

学校間交流 外国人観光客に伝える活動

担任の先生に協力してもらって、総合的な学習の時間で調べたりポスターをつくったり

3学期には、道徳「地球があぶない」、理科「地球に生きる」に関連

意見交流から

○屋久島だけでなく、全国どこでも活用できる普遍性のある実践であると思う。

○ALTの先生の活用など、身近な人に話を聞くことで子どもが意欲的になったと思う。

○英文を考えるのも注意喚起になりがちだが、ウミガメを育てた経験があるからか、「I love」から始まっているように子どもの愛着が感じられていいと思う。

○環境面を考えると同時に、国際交流という面も大事にしたい。鹿児島本土に住む外国人に対してアピールすることもよいのでは。

3)「ユネスコ新教育勧告」について (河野晋也先生：大分大学)

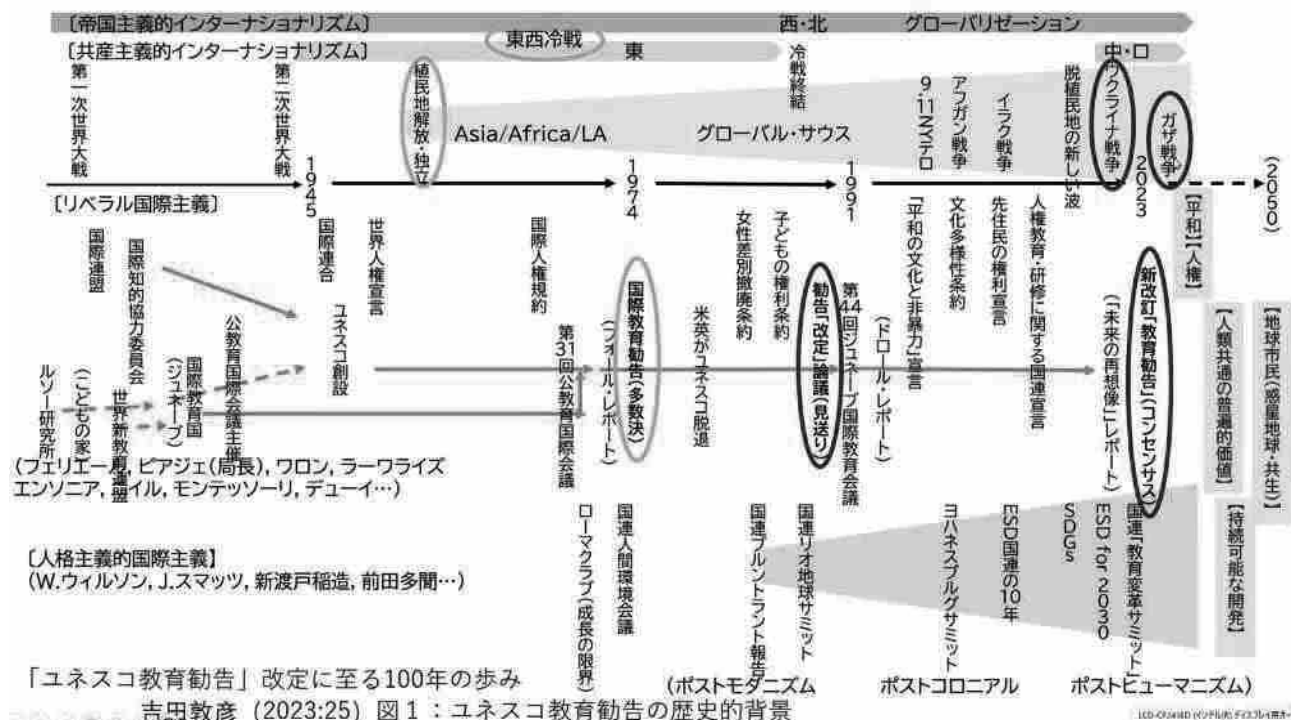
「平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シチズンシップ及び持続可能な開発のための教育に関する勧告」(2023年11月20日 第42回ユネスコ総会採択)

194か国のコンセンサス

国際教育勧告(1974年)との比較から

国際理解、国際協力、国際平和、人権及び基本的自由の尊重を増進し、国際憲章、ユネスコ憲章、世界人権宣言等で掲げられた目的を、教育を通じて達成することを目的。

- ・教育政策の主導原則が7点+α (改訂版は14原則)
- ・多数決で採択されている
- ・東西冷戦(核戦争の危機)、アジア・アフリカでの植民地解放などの国際環境



- ・環境問題のクローズアップ
- ・各地での紛争、戦争の増加

今回の採択の経緯

- ・ 14 の指導原則を通じて、永続的な平和をもたらし、人間開発を促進するために教育をどのように活用すべきかを示した 唯一の世界的な基準設定文書。
- ・ 人間以外の生命に対して世界中の国々が尊重することを求めた希少な合意文書。

①世界の共通課題 現代社会特有の地球規模の課題への対応

②国境を超えた「定義」の共有

③「目的」

④着目すべき概念

- ・ 地球/惑星の限界（プラネタリー・バウンダリー）

他の生命と自然そのもののニーズや権利を尊重することが世界共通の目標

- ・ 共生

普遍的概念＝「共生」「調和」「いたわり」「分かち合い」といった概念を強調

普遍的価値と文化多様性とのよりよいバランスを見出す必要性

- ・ 「人格の全体性」と「変容」

「知識獲得の学び」から「知識創造の学び」へ

知っている者が知らない者へ一方的に教えるという一斉授業のスタイルからの脱却

14 の主導原則と 12 の学習成果を見て、日本の教育、自分の授業を見直してみるとよいのでは。

意見交流から

- 日本の教育の課題も強みも明らかにできる。
- 学級経営にも生かせる部分が多い。
- E S Dの推進はまさにここにあてはまる。
- 人間の尊厳、多様性の尊重を重視していると受け取れる。
- 教育は「当たり前だと思っても変わっていくもの」。教師も学び続けないと。
- 時間に迫われて教師主導になる授業のときもある。
- こういうことが現場に下りてこない。何か一つでも小さなことでも誰もが取り組んでいくべき。
- 人間が自然のことを考えていないのはその通り。授業で具現化するのは・・・。
- まずは原文を自分で読んでみよう。読めば見えてくるもの、考えられるものもある。
- E S Dを学んでいる我々は、このトップランナーでありたい。

令和6（2024）年度 近畿ESDコンソーシアム・奈良県立万葉文化館
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

ESDを指導できる教員の資質・能力の向上には、継続的な研修を実施する必要がある。近畿ESDコンソーシアム活動の一環として、奈良県立万葉文化館と連携し、「万葉集・明日香村」を中心とした国語科・社会科や総合的な学習の時間等での授業づくりを中心とした連続セミナーを開催する。研究員による万葉集の内容や時代背景等に関する情報提供、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員および学生が指導案を作成し、授業実践を行うことで、教員としての資質・能力の向上を目的とする。

2. 主催 奈良教育大学 ESD・SDGs センター・近畿ESDコンソーシアム

3. 協力 奈良県立万葉文化館

4. 会場 奈良県立万葉文化館

5. 実施日

- ①令和6年 5月25日(土) 近隣のフィールドワーク
- ②令和6年 7月13日(土) 万葉集についての話題提供、館内見学
- ③令和6年10月26日(土) 授業構想案の検討
- ④令和6年12月 7日(土) 学習指導案の検討①
- ⑤令和7年 1月25日(土) 学習指導案の検討②

※ いずれも10時～12時

6. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の学部生・大学院生・教職大学院生
奈良万葉文化館 企画・研究係長 井上さやか氏
奈良万葉文化館 主任研究員 阪口由佳氏
奈良万葉文化館 研究員 中本和氏
奈良教育大学 教授 中澤静男
奈良教育大学 特任教授 加藤久雄
奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究部員 米田猛
奈良教育大学 特任准教授 大西浩明

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2024 年 5 月 25 日（土）10：00～12：00
◇場 所 県立万葉文化館周辺
◇参加者 【学生】東、田中
【院生】伊藤
【万葉文化館】井上、阪口、中本
【大学教員】加藤、米田、大西 計 9 名

◇内 容 明日香村内のフィールドワーク

水落遺跡 → 石神遺跡 → 明日香村埋蔵文化財展示室 → 甘樫丘 → 弥勒石 →
→ 飛鳥京跡苑池 → 飛鳥宮跡 → 酒船石遺跡

1. 水落遺跡

齊明天皇 6 年の時、皇太子であった中大兄皇子が作ったと伝えられる「漏刻」台の跡であることが想定されている。「漏刻」台が築かれた背景として、当時の中国的な政治理念にもとづいた「時の支配」の観念が存在したことが考えられている。出土した土器の検討から 650 年～660 年代の間に造営され廃絶したと推定されている。



基壇の遺構

2. 石神遺跡



石神遺跡の案内板

大きく齊明朝、天武朝、藤原宮期の三時期の遺構が明らかとなっている。中でも齊明朝の建物群は当時、蝦夷や外国人使節をもてなし、服属儀礼や饗宴を行う飛鳥の迎賓館であったと考えられる。噴水機能をもつ須弥山石や石人像といった石造物が遺跡の一角から掘り出されている。「古代の迎賓館」として名前は少し聞いたことはあったが、詳しい説明は初めて聞いた。

3. 明日香村埋蔵文化財展示室

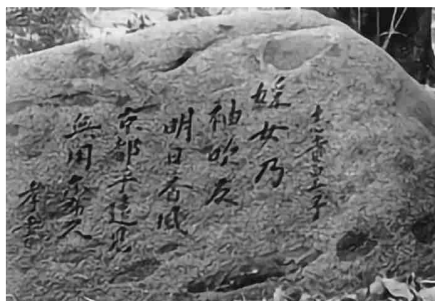
恥ずかしながら存在すら知らなかったが、明日香村文化財課が発掘調査を行ってきた遺跡の出土品を中心に展示されている。土・日・祝日は解説員の方もおられ、復元された八角形の牽牛子塚古墳の墳丘について説明していただいた。飛鳥の古代寺院に使われている、「花組」「星組」「雪組」と呼ばれる高句麗系の軒丸瓦の展示が興味を引いた。飛鳥の寺院と朝鮮半島との強い関わりを示すものとして興味深かった。



明日香村埋蔵文化財展示室にて
手前が牽牛子塚古墳の墳丘模型

4. 甘樫丘

采女の 袖吹き返す 明日香風 都を遠み いたづらに吹く



甘樫丘の中腹にある志貴皇子の歌碑は、昭和 42 年に建立された。揮毫は万葉学者の犬養孝による。当時、ここに 8 階建てのホテルを建てるという計画が持ち上がり、何とか阻止しようと村が犬養に揮毫を頼んだところ、犬養はしぶしぶ揮毫したという。歌碑が建立された途端、ホテル建設計画がなくなった。万葉歌碑が開発の防波堤になるということで全国各地で歌碑が建てられ、犬養が揮毫した万葉歌碑は全国に 141 基あるという。

今回は、展望台へ上がる道が工事のため上がることができなかったため、写真は以前撮影したものである。

5. 弥勒石

石柱状の巨石で、石には仏顔面はほとんどないが、わずかに目と口と見られる部分が細工されている。これは後の時代にだれかが付け加えたものかもしれないとのこと。弥勒石を拝むと腰や足など下半身の病気が治るという言い伝えがあり、今も地元や周辺の人々の信仰を集めるとともに、「ミロクさん」と呼ばれている。毎年 8 月 15 日には、飛鳥大字がお祭りをやっている。



弥勒石

6. 飛鳥京跡苑池、飛鳥宮跡



苑池の説明を聞く



飛鳥宮跡にて

近年の発掘調査により、
I 期：飛鳥岡本宮
II 期：飛鳥板蓋宮
III-A 期：後飛鳥岡本宮
III-B 期：飛鳥浄御原宮
の 3 時期の宮殿遺構が重複して存在していることが判

明している。苑池は南池と北池それぞれに役割がちがっていたのではないかと考えられている。

7. 酒船石遺跡

酒船石がある丘陵は、天理市で産出する砂岩で石垣が築かれており、その北側の谷底には亀形石槽の導水施設を配する石敷き広場が設けられるなど、水に関わる天皇の祭祀空間と朝鮮半島の高度な石工技術との融合を示す遺跡である。これらの構造物は、『日本書紀』が記す「両槻宮」と「石の山丘」ではないかと考えられている。当時の石垣がそのまま見られること自体が貴重である。酒船石そのものを見に行くことはあるが、この石垣を見ることは少ない。



当時の石垣の一部

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2024年7月13日(土) 10:00~12:00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【学生】東、田中、坂本
 【院生】伊藤
 【現職教員】平井
 【万葉文化館】井上、阪口、中本
 【大学教員】米田、大西 計10名

- ◇内 容 万葉文化館の展示物の解説、万葉集に関する情報提供

エントランスには、陶板画で「飛ぶ鳥のあすか」と詠まれることにちなんだ白鳥の飛翔の様子や、古代の国際交流を象徴する遣唐使船の姿が表現されている。

今回は、研究員の方々から、展示物に関する詳しい説明をしていただきながら、「万葉集とは何か?」という基本的な問いに答える形で進められた。



・万葉劇場 「万葉のヒロイン 額田王」

飛鳥の時代、大海人皇子、天智天皇兄弟に愛された額田王を主人公に演じられる。

あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る (額田王)

紫草の にはへる妹を 憎くあらば 人妻ゆゑに われ恋ひめやも (大海人皇子)

君待つと わが恋ひをれば わが屋戸の すだれ動かし 秋の風吹く (額田王)

などの歌が取り上げられている。一人の女性をめぐる兄弟の葛藤、皇位争い、そして古代史上最大の戦い「壬申の乱」と、大きく揺れ動く歴史の中を、運命に翻弄されながらも珠玉の歌を詠み続けた額田王が、晩年どのようなことを感じていたのだろうかと考えさせられる。

・歌垣



市のように人が多く集まる場所では、楽器を持って集まった人たちによって歌垣(歌の掛け合い)が行われ、男女が恋歌のやりとりをした。

声に出し、節をつけてうたう「うた」こそが、万葉集の歌であり、今の私たちがリズムやメロディーにのせた言葉を身近に感じることと同じである。

・古代発音の復元を聞く

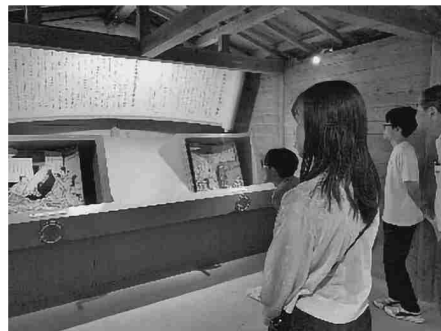
あしひきの 山のしづくに 妹待つと わが立ち濡れし 山のしづくに (大津皇子)

この歌を6通りの歌い方(古代発音、古代発音にメロディーをつけて、ラップ調、フォークソング調

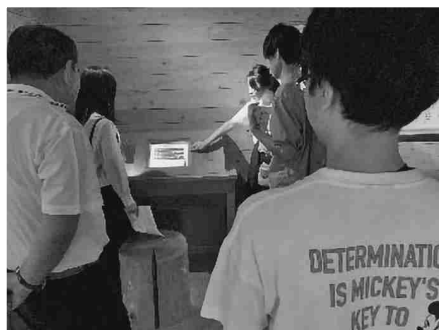
など）で聞くことができる。実際の歌い方（メロディー）は不明だが高低はあったようで、今よりも音の種類が多く、言葉の発音が今とは異なっていたことが推定される。

・手回し絵本で万葉集の浦島を読む

万葉集には、「浦島子（うらのしまこ/うらしまのこ）」のように、歌自体が長大な伝説になっているものもある。誰もがよく知る「浦島太郎」のように、亀も出てこないし、最後が「命死にける」とあるように衝撃的である。万葉集には、歌の前に置かれる題詞が長い説明になっているものもある。



・タッチパネルで万葉集の表記を知る



万葉集はすべて漢字で書かれてあり、意味のある漢字（山）や万葉仮名（夜麻）だけでなく、書き方には様々な工夫がされていた。

例：「寒過（ふゆすぎて）暖来良思（はるきたるらし）」

外国語の文字だった漢字を使って、なんとか自分たちの言葉を書き表そうとした試みに、当時の日本人の発想の豊かさを感じる。

万葉集・・・全 20 巻 約 4500 首

雑歌（公的な儀式の歌、旅の歌など）、相聞（恋の歌など）、挽歌（死に関する歌）など

短歌（5・7・5・7・7・）、長歌（5・7・5・7・……・7・7）、旋頭歌（5・7・7・5・7・7）など

歴代天皇や貴族、役人や兵士、農民など様々な人の歌

現在の宮城県から鹿児島県までの地名が詠まれている

男性も女性も歌を詠んで残しているのは、当時としては世界的に見ても珍しい

半分の約 2000 首に植物が詠まれている

奈良時代に書かれた原本は残っていない。いろいろな人が写した「写本」によって伝わり、江戸時代に印刷され（版本）今に至る。 など

・飛鳥池工房遺跡

南地区の工房跡（7世紀後半）と北地区の飛鳥寺関連の施設跡に分けられる。南地区からは工房で使われた原料、製品、廃棄物、工具などが多数出土した。日本最古の鑄造貨幣「富本銭」がこの工房で生産されていたことが分かる。また、ガラス玉やメノウ・コハクなどの宝石類も取り扱っていて、ガラス玉は原料となる石英も発見されているため、ここで原料から製品まで一貫して作っていたようである。



第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

◇日 時 2024 年 10 月 26 日（土）10：00～12：00

◇場 所 県立万葉文化館

◇参加者 【学生】東、田中

【万葉文化館】井上、阪口、中本

【大学教員】米田、大西 計 7 名

◇内 容 授業構想について

1. 田中愛花さん（国語教育専修3回生）

中学校3年国語科「万葉の世界から今へ ～過去・現在・未来へ思いよ届け～

【構想】

- ・万葉集の歌をいくつか取り上げ、歌に込められた思いを情景とともに確認する
- ・いくつかの歌の中から好きな歌を選び、歌にあうような写真を撮る
- ・撮影した写真を紹介する
- ・自分で短歌をつくる
- ・つくった歌を万葉仮名に変換する
- ・つくった歌にあった写真を撮影し発表する

【意見交流から】

- ・導入は額田王などの恋の歌がいい。中学生なら自分と重ね合わせて考えられるはず。地名が入っているものもいい。自分が知っている地名が入っていれば興味・関心が広がる。
- ・写真に撮るとするのは、歌の内容を視覚に訴えてみることにつながる。ただ、写真に撮ってしまうと文字とのギャップを埋められるだろうか。歌には映像言語だけでは語られない「余白」があるはず。
- ・短歌をつくるという作業は、子どもにとってかなりハードルの高いものになる。いったんイメージする単語を書き出して、それを57577に組み合わせていくのだろうが、ただ31音に収めればいいというものでもない。伝えたいことがちゃんと伝わるようなものになるか。

→ 好きな写真から歌をつくる方が自然かも。

写真美術館には万葉集の歌をイメージした入江泰吉の作品もある。それを使ってはどうか。

- ・万葉仮名に変換するとあるが、単に面白おかしく当て字をはめ込んでいくだけでいいのだろうか。「孤哀」と書いて「恋」を表現するような感性を大切にしたい。そもそも、万葉集の歌がすべて万葉仮名で書かれているわけでもなく、むしろ一部である。
- ・学習のゴールをどこに求めているか？それによってどんな学習を展開するかが変わってくる。「万葉集に親しむ」ということでもいいのではないと思う。歌をつくる、万葉仮名について考える、写真を撮るなど、活動が多岐にわたっていてかなりレベルが高いものになっているように感じる。



2. 伊藤 輔先生（高取町立たかむち小学校:専門職学位課程教職開発専攻 M1）当日欠席

小学校6年国語科・社会科など「万葉歌碑を生かした『仮名の由来』を学ぶ」

国語科において、「仮名の由来」を学ぶ小单元があるが、漢字から平仮名・片仮名に至るまでの中継地点として万葉仮名が紹介されているだけで、詳しく学ぶわけではない。

万葉仮名について深く知ることを通して、言葉のよさや面白さに気づかせたい。

本校は、春の遠足で明日香村をフィールドにしている、6年生では自分たちでコースを設定してフィールドワークを行うので、万葉歌碑に注目させながら歩かせてみたい。

【構想】

⑩ 3年生、4年生で春の遠足のときに万葉集の歌碑について確認しておく。（行事）

① 6年生の春の遠足において各グループで計画を立ててフィールドワークを行い、寺社仏閣や遺跡を巡るだけでなく、万葉歌碑探しをする。（行事）

※歌碑に関わるマップが必要

② 万葉集について歴史的背景を知り、図書やchrome bookを使って調べ学習を行う。（社会）

③ 万葉文化館を訪れ、学芸員の方の話を聞く。時間があれば歌碑の再確認。

※館内の紹介、万葉集がどのようにして生まれてきたのか、明日香村にどのような歌碑があるのかなど。

④ 一覧表を参考にしながら万葉仮名で書かれた万葉集の歌碑を読む。（国語）

⑤ 仮名の由来（漢字→万葉仮名→平仮名・片仮名）について学習する。（国語）

⑥ 万葉仮名と平仮名・片仮名の違いや共通点について意見交流をする。（国語）

⑦ 万葉仮名を使って、どのような思いで歌を作ったのか考える（国語）

⑧ 自分たちの考えた意見を基に学芸員の方の話を聞く。

※どの歌碑を使って学習を行うか、事前に決めておく。（現代語訳も準備）

※景色の写真や歌碑にまつわる写真も準備する。

【意見交流から】

・教科書の表記が、万葉集がいかにもすべて万葉仮名で書かれているような誤解を与えているように感じる。「万葉」という言葉に引っ張られているのではないか。

表音文字と表意文字が混在しており、すべてが万葉仮名で書かれているわけでもないし、万葉仮名だけの歌碑はない。

・そういう意味でも、あまり歌碑にこだわる必要はないと思う。導入で歌碑の表記に注目させるぐらいでもいいのでは。木簡などでもいい材料かも。

・「ふく」を、「吹」や「布久」と書いているものもある。

・「飛鳥」を、なぜこれで「あすか」と読むのか、「明日香」とどう違うのか。これを学ぶのもいい。

・仮名の五十音は、なぜ50ではないのか、表の「や行」「わ行」にはなぜ空白があるのか、今は使われない文字はなぜ使われなくなったのかなど、そこに注目させるのも面白い。

・もともとは、漢文を解釈するために使われるようになったのが仮名である。

・現場にいる人になら音声言語で伝えられるが、遠くににいる人に伝えるには文字が必要だった。そこで、外国語である漢字を借りて仮名を生み出していった人々の工夫や苦勞、思いを感じさせることが大事なのではないだろうか。

・万葉文化館の見学や学芸員の話については、何を知りたいか、何を聞きたいかにもよるが、ポイントをピックアップすれば1時間程度でできる。



第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

◇日 時 2024 年 12 月 7 日（土）10：00～12：00

◇場 所 県立万葉文化館

◇参加者 【学生】東、田中

【院生】伊藤

【万葉文化館】阪口、中本

【大学教員】米田、大西 計 7 名



◇内 容 単元構想案の検討

1. 田中愛花さん（国語教育専修3回生）

中学校3年国語科「万葉の世界から今へ ～過去・現在・未来へ思いよ届け～

【構想】

1. 万葉集の歌をいくつか取り上げ、歌に込められた思いを背景とともに確認する

万葉文化館の見学、研究員さんからのレクチャー

（地名が入った歌）

「青丹よし 奈良の都は咲く花の薫ふがごとく 今盛りなり」

（恋の歌）

「あかねさす 紫野行き標野行き、野守は見ずや 君が袖振る」

2. 入江泰吉が万葉の写真を撮り始めたことについて考える

写真美術館学芸員さんとの出会い

3. いくつかある歌の中から好きな歌を選び、歌に合うような写真を撮る

4. 選んだ歌に合わせて、撮影した写真を紹介する

【意見交流から】

- ・万葉文化館の「万葉百科」にアクセスして、好きな歌を選ぶとよいのでは。
- ・1の段階で万葉集を取り上げる際に、すでに写真と一緒にの方がイメージしやすいのではないか。
- ・1から2へのつながりが唐突。どうやって入江泰吉をつなぐかを考えても、1の段階で入江の作品を提示す方がいい。
- ・古典ではなく国語科としてこの授業を考えるなら、4で紹介文を「書く」という言語活動を大事にしたい。
- ・入江の作品集に、写真と万葉集を絡めた説明文があるので、まずそれを例示してやると分かりやすい。
- ・「過去・現在・未来」とテーマにあるが、「未来」にはどうつなげていくか？
 - 過去と現在では価値観が違うところ、共通するところがある。それを考えるのも一つ。
 - 入江が万葉の風景に思いを馳せて写真を撮ったように、人の思いも時間を超えてつながっていくものということを感じさせたい。
- ・自分で思い通りの写真が撮影できるか難しいところがある。
 - 入江泰吉の写真集から歌に合うものを選ぶということでもいいのではないか。
 - むしろ、その方が入江の写真のすごさにも気付けるのではないだろうか。

小学校6年国語科「仮名の由来はどこから？ ～万葉仮名から学ぶ私たちの言葉～」

日本人が育んできた文字文化への気づき、言葉の持つ力への気づきを大切にしたい

- 万葉仮名で書かれた歌碑を見つける

万葉文化館で万葉仮名のおこりについて話を聞く

- ### 3. 仮名の由来について学習する

仮名がなかった時代、歌をどのようにして作ったのか

遠くにいる人へ伝えるために仮名を生み出していった人々の工夫
や苦労、思い

- #### 4. 万葉集の歌に込められた思いについて考え、話し合う



・万葉仮名の種類はかなりたくさんある。(下図参照) 教科書に載っているものはほんの一部である。それを知るだけでも、昔の人々の苦労や工夫を実感できると思う。

木簡と万葉集でも、使われている万葉仮名が重ならないことも多い。

- ・紙が貴重だった当時は、石や金属、仏像などにも書いている。そこでも文字を残した人々の思いを考
えることができる。

- ・万葉文化館でも、万葉仮名のワークショップをやっているのでも、そこも使える。

4 は、万葉集に戻るよりも万葉仮名の方を考えたら、木簡のワークショップでよいのではないかな。

あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き	玄祇散枝	き	貴紀奇崎崎寄記 城木樹	き	疑直義	ぐ	久吹口野玄丘九嶋君 衆	ぐ	具過求群辭	げ	都室計餘余榮番係結要監陳 異	げ	子雅夏	げ	異院 毛食飼潤	げ	義宜母	こ	古故摩結葛結枯 子兒龍小僧	こ	胡似俊後成	こ	己許巨居去處全今乞興 木	こ	其期蘇瑟	こ	佐沙作左春春紗草二離師風讀散既相尺作	こ	偵探捕羅	し	射國招社謝座	し	斯乙之師室四子思司芝詩自各時指此至	し	次托他思局色顔色顔式顔式 磯為半跡	し	自土基草坪半仕	し	須國洲洲殊散散酒 餅實橋漆為	し	受控整	せ	勢世西青齋 瀧瀧背背迫石花
あ	伊呂波に異己移因印老 射五十馬海	う	汗有字子羽馬堂鬱 萬馬鎮持	お	衣業依 檀作持	か	景於馬鹿臨高乙	か	加可買阿迦羅蘇栗甘散申國子番香各	か	紋香芳顯	か	同我買可積	か	文吉時俊室積金 寸件業	き																																											



万葉文化館で提供している
万葉仮名のワークシート

万葉仮名一覽

(阪口研究員より提供)

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2025 年 1 月 25 日（土）10：00～12：00
- ◇場 所 県立万葉文化館
- ◇参加者 【学生】 東
【院生】 伊藤
【現職教員】 平田（纏向小）
【万葉文化館】 井上、中本
【大学教員】 米田、加藤、大西 計 8 名

◇内 容 学習指導案の検討

1. 伊藤 輔先生（高取町立たかむち小学校：専門職学位課程教職開発専攻 M1）

小学校6年国語科「仮名の由来はどこから？ ～万葉仮名から学ぶ私たちの言葉～」

【立案にあたって】

学習指導要領にある「仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること」は、教科書だけで可能なのだろうか・・・

以前は教科書に掲載されていた万葉仮名一覧も QR コードから自分で見に行くようになっている

→全く見ない子どももいるのではないか

→万葉歌碑が数多くあり、万葉仮名について学べる地理的条件を生かしたい

【構想】

○春の遠足（明日香村）で歌碑マップをもとに万葉歌碑を探し、書いている文字について疑問をもつ

○万葉集や万葉仮名について学ぶ 万葉文化館見学、研究員の方から話を聞く

○仮名の由来について学び、万葉仮名と平仮名・片仮名の共通点や違いについて考える

○木簡に、大切な人へのメッセージを書いてみる

なぜ、昔の人は万葉仮名を使って言葉を伝えようとしたのか考える

【意見交流から】

・そもそも「万葉仮名」というものではなく、外国の文字を自国の言葉に一字一音で充てた字をそのように分類しているだけ。いろんな万葉仮名があるが、その一部を教科書に掲載している。

・それがいちばん分かるのが万葉集である。

このあたりの話を研究員の方からしてもらおうとよいのでは。

・子どもの疑問を大切にしたい。

（例）教科書に掲載されている万葉仮名一覧は、それがすべてなのか？

平仮名と片仮名はどちらが先？ 外来語を片仮名で書くのはいつから？

漢字も含め、3つの文字を持っているのは日本だけ？

・暴走族なんかの「夜露死苦」も、見方を変えれば万葉仮名と同じ発想かも。

・「仮名」はその字の通り仮のものであって、「真名」（漢字）のもつ意義を改めて問うことも大事。

・最初のフィールドワークでは、ワークシートを用意し、歌碑の形に枠をとる。そこに何と書いているか、文字や意味は分からずともその通りに書いてくるようにすれば面白いと思う。

2. 田中愛花さん（国語教育専修3回生）・・・当日欠席

中学校3年国語科「万葉の世界から今へ ～過去・現在・未来へ思いよ届け～

【立案にあたって】

入江泰吉は万葉の人々の強い思いに心を打たれ、万葉の人々の心情を写真に映し込もうとした

→万葉集で表された万葉の人々の思いは、芸術家の作風まで変えてしまった

1300 前に生きた万葉の人々が思ったことや感じたことは今の我々にも繋がるものがある

万葉の人々が感じたことをありのまま歌に表したように、生徒も自分の考えをありのまま文に表して、周囲に思いを伝える力を伸ばすこと

→本単元の学習を通して魅力的な文章の書き方を学んでほしい

【構想】

○「あをによし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり(小野老)」

入江泰吉について知る

この歌に合わせた写真を見て、自分が思い浮かべていた風景と同じか異なるかについて判断し、その理由を考える

○万葉集についての基礎知識を研究員の方に話してもらう

○万葉集の歌の鑑賞（「奈良の地名が入っている、相聞歌、太宰府で詠まれた」 一つ以上を満たす）

入江泰吉が撮影した写真がある

①百伝ふ磐余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ(3-416 大津皇子)

②神風の伊勢の国にもあらましをなにしか来けむ君もあらなくに(2-163 大伯皇女)

③今朝の朝明雁が音聞きつ春日山もみちにけらしわが心痛し(8-1513 穂積皇子)

→説明に「言繁き里に住まずは今朝鳴きし雁にたぐひて行かましものを(8-1515 但馬皇女)」を使う

④夏野行く小鹿の角の束の間も妹が心を忘れて思へや(4-502 柿本朝臣人麻呂)

⑤月立ちてただ三日月の眉根搔き日長く恋ひし君に逢へるかも(6-993 大伴坂上郎女)

⑥ふりさけて三日月見れば一目見し人の眉引思ほゆるかも(6-994 大伴宿禰家持)

⑦藤波の花は盛りになりけり奈良の都を思ほすや君(3-330 大伴宿禰四綱)

⑧わが行きは久にはあらじ夢のわだ瀬にはならずて渚にあらぬかも(3-335 大伴宿禰旅人)

→説明に「父母が頭搔き撫で幸くあれて言ひし言葉ぞ忘れかねつる(20-4346 丈部稲麻呂)

○それぞれにあった入江の写真の鑑賞する

「なぜその写真を撮ったのか？」

○この中から好きな歌と写真を選び、紹介文を書く

相互鑑賞、冊子にまとめる

【意見交流から】

・取り上げる歌は、相聞・挽歌・季節の歌というグループではどうだろうか。

①②は挽歌の部類になる。

・写真の力を借りて「万葉集を味わう」という方がいいのではないか。

いろんな説があるような歌を取り上げて、自分なりの解釈と入江の解釈を比べてみたり…

・紹介文はハードルが高いように感じる。

→意見文や感想文でもよいのでは。



令和6年度 森と水の源流館 ESD授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

奈良教育大学を中心とする「近畿ESDコンソーシアム」の活動の一環として、川上村森と水の源流館と「水の恵み」や「森林環境」に着目した授業づくりセミナーに協働的に取り組みます。森と水源流館スタッフによる、自然環境保全の取組や水生生物などに関する情報提、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員が指導案を作成し、授業実践を行います。これによりESDを指導できる教員としての資質・能力の向上につながる継続的な研修の機会となっています。

2. 主催

奈良教育大学 ESD・SDGs センター、近畿ESDコンソーシアム、森と水の源流館

3. 会場

オンラインによる開催を予定

4. 開催日時と研修内容

第1回 令和6年7月 6日(土) 川上村及び森と水の源流館の紹介・ESDの授業づくりの基本

第2回 令和6年7月27日(土) 優良実践事例の分析

第3回 令和6年8月31日(土) 授業構想の相互検討 → 9月7日(土)に変更

第4回 令和6年9月 7日(土) 学習指導案の相互検討 → 11月10日(日)に変更

第5回 令和7年2月 8日(土) 授業実践報告会：森と水の源流館にて

※ 開催時間はいずれの回も10時～12時（オンラインにて開催）

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等

奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生

森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 及びスタッフ

奈良教育大学教授 中澤静男

奈良教育大学准教授 大西浩明

奈良教育大学研究員 杉山拓次 ほか

2024 年度 第 1 回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2024 年 7 月 06 日（土）10 時～12 時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 新宮（奈良女子高等学校）、加藤（川上村水源地課）、原孝博（奈良学園）、島俊彦（福岡市立七隈小）、
- 森と水の源流館：尾上・古山・成瀬・上西・高田・木村
- 奈良教育大学：大西・中澤、学生

◇内容

1. 源流館の紹介

【尾上事務局長】

- ・川上村は広いが、その 95%は山林が占めている
- ・「地域資源の教材化」にこだわって進めている。テーマは「水の恵み」
- ・川上村は紀ノ川、吉野川の源流域にあたる。
- ・大滝ダム（発電）と大迫ダム（農業用水）の 2 つのダムがある。そして 3 つ目のダムが、自然のダム 水源地の森 吉野林業が始まった地域
- ・土倉庄三郎—吉野林業
- ・川上宣言（水源地の村づくり）1996 年～
- ・現実的な問題 バーベキューにともなうゴミの散乱
- ・発問を重視した展示 「ありがとう」って、だれからだれに伝える言葉？ 「おかげ」私にできることって何だろう？

【高田次長】

- ・源流館スタッフが行っている様々な調査を村の行政に生かし、地域創生につなげたい。そして、「暮らしの質の向上」に貢献できないかと考えている。

【上西さん】

- ・民俗分野の調査を担当
- ・木と水と人の共生
- ・8 月 24 日にトヨタソーシャルフェスを開催する「大切な源流を未来へつなごう！」

【成瀬さん】

- ・「源流の社：丹生川上神社上社」の発掘調査に参加して以来、川上村に関わる
- ・ものを拾ってくることや城歩きが趣味・なわばり図などを作成している
- ・古い絵ハガキを集めるのも趣味で、県立図書情報館に寄贈している

【木村さん】

- ・コケが専門
- ・コケは大気汚染の指標として授業でも生かすことができる
- ・フィールドワーク・過疎問題、顕微鏡の使用などアドバイスできる。

【古山さん】

- ・昆虫が専門
- ・昆虫は環境そのものである。昆虫の状況を把握することが地域の自然環境を把握することになる

- ・昆虫から生活環境の変化を把握できる。

2. 「E S Dの授業をつくる」(中澤静男)

(1) E S Dではどのような児童生徒の育成を目指すのか。

「ヒト・モノ・コトにC A R Eできる児童生徒の育成」

ヒトに対する CARE : すべての人に親切にする、元気のない友達に声をかける、いじめられている
友達の味方になる

モノに対する CARE : モノを大切に修理しながら長く使う。リユース、リサイクル

コトに対する CARE : お祭りを受け継ぐ。お祭りを見に行く。

CARE できる人には、様々な場面で適切な行動や言動を期待できる。では、そのような人々の行動の
変革を促すには、どうすればいいのか？

「それは、個人的な信念、洞察、あるいは何が正しいかという単なる感覚から生じることが最も多い。」

(「ユネスコ持続可能な開発のための教育ロードマップ」P. 57)

(2) 教材開発・授業実践

- ・自然環境や生態系の保全を重要視できる価値観

→ 生き物探し、海ごみ、気候変動、水の恵み、 など、児童生徒にとって身近な素材の教材化

- ・人権・文化を尊重できる価値観

→ 横の異文化：食文化、宗教、民族衣装（服装）、トイレ

縦の異文化：生活習慣の移り変わり、歴史文化遺産、お祭りなど、身近な素材の教材化

- ・幸せの四葉のクローバーを意識した学級経営・子どもとの接し方、声のかけ方

①「やってみよう！」因子（自己実現と成長の因子）

②「ありがとう！」因子（つながりと感謝の因子）

③「なんとかなる！」因子（前向きと楽観の因子）

④「あなたらしく！」因子（独立とマイペースの因子：自分を人と比較しない）

（出典：『幸せのメカニズム』前野隆司、講談社、2013 年）

(3) 教材研究

①文献調査：地域のことを知るためには『〇〇史』は必読

②現地調査：足を運んで五感で感じとる

（本・教科書に書かれていることと変わってしまっていることが多々ある）

③インタビュー調査：変化には人の影響が大きい、それを聞き取る。複数人から聞き取ることで、
教材にふさわしいかどうかを判断する。

(4) 単元をデザインする

①中心発問：それを追究することで単元の目標に迫ることができる発問

②深める発問：児童・生徒の「わかったつもり」を揺さぶる発問

③発展させる発問：自らの行動の変革を促す発問、次の学習意欲を高める発問

(5) 評価について「自己評価力（メタ認知）を高める」

①単元前のアンケートと単元後のアンケートを比べさせる

②学習ノートに考察・感想を書かせ、4つ葉のクローバーのコメントを記載する。

③単元終了後に作文（レポート）を書かせ、児童・生徒による相互検討を促す。

2024 年度 第2回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2024 年 7 月 27 日（土）10 時～12 時
- ◇開催方法 ZOOM によるオンラインセミナー
- ◇参加者 米本（雲雀ヶ丘学園小学部）、加藤（川上村水源地課）、新宮（奈良女子高等学校）、
森と水の源流館：尾上・古山・上西・高田・木村
奈良教育大学：加藤・中澤、学生・田中 11 名

◇内容

1. 雲雀ヶ丘学園小学部の実践の紹介

「里地里山 命の環プロジェクト」のきっかけ

- ・力強く生きぬく人間力は自然の中で豊かな体験でこそ育つ

2018 年 11 月 池跡地の施工のスタート

2019 年 11 月 親子協働活動のスタート 防水シートをひいてひばりの里づくり

- ・これまでに 4 回実施 600 人以上が参加
- ・家族で熱心に取り組んでいたのが印象的であった
- ・学園長や副校長も一緒に活動していた

【大変だったこと】

- ・土と腐葉土を 32 トン、バケツリレーで運んだ
- ・親子活動ができるまでの準備が大変だった
- ・教員の理解や協力を得ることが困難であった

2. 学校ビオトープ「ひばりの里」で行っている環境教育

1・2 年：米作りのお手伝い（代掻き・落ち葉集め）

3 年生：無農薬・勇氣肥料による米作り（全 20 時間）里のお手入れ（草抜き・田おこし）

学習目標「みんなの力を合わせておいしいお米を作り、地域の自然や、生きものも守ろう」

米づくり活動の苦労

カメムシやイネミズゾウムシ、スズメなど、自然が強すぎて米が満足に育ったことがない

2020 年度（0 キログラム）、2021 年度（1.7 キログラム）、2022 年度（5.8 キログラム）、

2023 年度（8.85 キログラム）、2024 年度（目標 10 キログラム）

4 年生：さと池の生き物と環境調べ

兵庫県では絶滅危惧種の種類数が増えているが、「さと池」では増えている。

ミナミメダカ、コオイムシ、スジヒラタガムシ、トチカガミ

12 月：生きものの救出活動

12 月：親子で「ひばりの里」お手入れ活動：約 80 家庭が参加

池の中にたまった「ヘドロ」は田んぼにまく

5・6 年：準備中

保護者：田植え、稲刈り補助、里のお手入れ協働活動（池のかいぼり等）、親子でモニタリング（生き物調べ）体験

3. アンケート調査：子どもたちの変容

- ・米づくりがとても楽しかった・楽しかったが 98%
- ・たんぼは人と生きものの両方にとって大切 85%
- ・お米をつくらなければ自然はまもれない 57%
- ・米を食べる回数を増やしたい 71%
- ・食べ残ししないようにしたい・残さない 94%
- ・ひばりの里の活動で自分の「よいところ」を見つけた 84%

4. 今後の展開

外へと子どもたちの視野を広げたい 最明寺川 猪名川流域

参加者の意見

- ・苦労そのものが教材
- ・農家との連携は重要
- ・親子にとって自然体験のおもしろさを体感させているところが素晴らしい



2024 年度 第3回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2024 年 9 月 7 日（土）10 時～12 時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 島（七隈小）、米本（雲雀ヶ丘学園小学部）、河野（大分大学）、上園（鹿屋市）、尾上・古山・上西・木村・成瀬（森と水の源流館）
大西・中澤（奈良教育大学） 11 名

◇内容

1. 奈良学園中学校・高等学校の実践紹介（原先生は校務のため、小山さんが代わりに発表）

里山をつかった環境教育に取り組んでいる

中学校：しいたけ植菌

高等学校：棚田での稲作実習、希少生物の研究（ゲンジボタル・赤ガエル・サギソウなど）

→ スーパーサイエンスハイスクールの指定を受ける

・森・里・海の連環の考え方を導入する（高校2年生）

森：ブナとヒトの共生研修

里：コウノトリとヒトの共生研修

海：北限サンゴの保全研修

→ それぞれが個別に取り組んでいた（つながりの視点が不足）・単発研修

森・里・海のとつながりに着目させる研修

研修内容を自分事化できる取り組みに 歴史から学ぶ必要があることに気づく

歴史から学ぶ：現状の当たり前をクリティカルに問い直す

・昔はどうであったのか

・なぜ変わってきたのか（過去の課題克服から学ぶ、姿勢・組織・意欲）

「歴史の証人」・林業に関する内容、治水に関する内容、使って残す・保全する

林業の現場を体験させる、林業家に出会わせることで自らの進路の決定にも影響

「吉野川・紀ノ川源流学研修」に取り組む

森：水源地の森での吉野林業の体験

五感で学ぶ体験的な活動を重視、村民との出会いを重視

天然林と自然林の比較から「管理とヒトとの共生」を考える

里：近畿農政局での配水や治水に関わる研究

海：和歌山県農林水産部水産局・漁民の森づくりの活動を調査

「吉野川・紀ノ川源流学研修」計画

森・里・海の双方に影響を与え合う・つながりを見出す取り組み

森：和歌山県立森林公園 根来山げんきの森の取組

里：和歌山県立紀伊風土記の丘 製塩の歴史と製塩土器

海：奈良「柿の葉寿司」文化 紀州産のサバと塩を使って

【意見交流】

・「めぐみ」をテーマにしてはどうか。めぐみをもたらす要素に着目させることで、それが受け継がれてきていること、受け継ぐためのシステムや人々の意識と行動があることに気づかせる（偶然残っているのではない）。今後も受け継がれていくだろうか？そのためにしなければならないことは何だろうか？を考えさせる。

・つながりの具体は想定されているか？

例えば柿の葉寿司

海：サバ、里：塩、森：山の神様のまつり

- ・紀州のサバの漁獲量の推移 温暖化の影響は？
- ・今も紀州産の塩が使われている？ 使われていないならその原因は？
- ・山の神様の祭りはこの先も継続できそう？ 林業不振 人口減

課題が明らかにできることで、課題解決を目的とした探究的な学びが始動する。

- ・自分事にすることが難しい。この単元で出会う方々は、生徒にとって身近な具体と言えるのか？

2. 小学校6年生総合「鹿屋市 PR プロジェクト」（上園先生）

昨年度までの取組

- ・台北の小学生と交流していた。互いにお国自慢をして終わっていた（黒豚がおいしい、白熊アイスクリーム、温泉、桜島など）。探究的な学習になっていない。
- ・平和学習：鹿屋基地「私たちが最後の戦争体験者であってほしい。」

今年度2学期

- ・ふるさと納税に着目する 鹿屋市のふるさと納税額は35億円 年々増えている（ただし去年は減）
→ 鹿屋市を PR して、納税額を増やしたい
- ・まとめて発表して終わり、にはしたくない。
- ・鹿屋市役所のふるさと PR 課の話を聞こう 鹿屋100チャレ
野菜価格の下落による収益・納税額の低下
→ 私たちにできることはないだろうか
- ・取組に対するフィードバックをもらうことで、児童の意欲ややりがいが増える
しかし、保護者からのフィードバックでは育たない（← がんばったね。よかったねで終わっている）
奈良女子高等学校と交流して、発信方法の洗練化を図る V6 動画の作成

【意見交流】

・ふるさと納税の返礼品に児童の作った鹿屋市の PR パンフレットを入れては。きっとフィードバックがもらえる。

・PR パンフレットに QR コードを貼り付けるとフィードバックが増えるだろう。

・学習の目的が経済方面ばかりにならないように。ふるさと納税が森林の保全などにも使われていることを伝える。

・戦後の鹿屋市から現在の鹿屋市に発展できたのは一般の人々の努力があったことを伝え、未来の鹿屋市のために、自分たちは何をすべきかを考えさせる。

2024 年度 第4回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2024 年 1 1 月 1 0 日（日）10 時～12 時 30 分
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 米本（雲雀ヶ丘学園小学部）、吉田（県立磯城野高校）、早崎（有功東小）、
山森（京都教育大学）、中谷（和歌山大附属小）、新宮（奈良女子高校）、
加藤（川上村水源地課）、尾上・古山・上西・木村（森と水の源流館）
大西・中澤（奈良教育大学） 13 名

◇内容

1. 「農業クラブ プロジェクトの指導から ESD へ」 県立磯城野高校：吉田先生

（1）農業クラブの位置づけ

農業クラブ本部役員会のもとに専門部会プロジェクト研究が位置づいており、教科「農業」の中にも位置付けられている。（プロジェクト研究が探究学習になっており、教科の学習内容を深化する役割もある）家庭系も加わり活動している。

（2）農業クラブの活動と地域との連携

「地域の力が生徒の力を伸ばす」をキーワードに、高校生が地域に出ていく機会を増やし、農業クラブの 3 大目標である「科学性」「社会性」「指導性」を身につける場を増やす。

近畿 SSH 環境フォーラムミミズ同定実習、SDG s QUEST みらい甲子園関西大会

東大寺のナラノヤエザクラ穂木採取、NHK みらいスイッチ番組、ワキ製菓、奈良植物研究会

- ・連携のきっかけ：生徒の発表を見ていただき、連携が広がっている

（3）活動の具体

活動テーマは生徒自身で気になったものを自由に設定している。

EX 「校内の生き物調べと野生生物目録の作成」「田んぼの水族館」「ナラノヤエザクラの挿し木繁殖」

- ・探究活動を行う上で、背景知識を習得するため、専門での学びが社会につながっていく。
- ・基礎学力の向上や資格取得にもつながり、希望進路の実現可能性も高まっている。

過去 5 年間の磯城野からの FFJ 検定特級合格者 5 名はすべて Flowers の生徒。

- ・2021 年はコロナで活動が縮小

2022 年 バタフライガーデンを設置

ミミズふふふ〜んど（ミミズ糞土培養土）

生き物調べサポーター活動など

（4）農業クラブ活動の問題点

仕事には「しなくていい仕事」、「した方がいい仕事」「しなければならない仕事」があるが、自分が異動したら活動を継続できないという理由で。管理職からは「しなくていい仕事」とされている。

農業クラブの活動の持続が大きな課題

◎持続可能な取組にするために Flowers 支援チーム Seeds を設立

卒業後も活動を希望する卒業生、特に教員志望の教え子

○Flowers 支援チーム Seeds の活動

プロジェクト研究の支援：Seeds & Flowers としてみどり戦略学生チャレンジの実施

「廃棄物酒粕を用いたスクミリンゴカイ（ジャンボタニシ）のイネへの被害抑制」

Seeds & Flowers は様々な立場の者が集まる中でのディスカッションの場となっており、多面的に捉える力、批判的な見る力、総合的に考える力、予測する力の育成や、新発見することを通じて、自己肯定感の獲得にも好影響がある。「総合知」

楽しいから続けられる、挑戦できる。仲間との交流・地域の人との交流・大会に参加しての交流

・バタフライガーデンは、地域の高齢者の活動の場になっており、高齢者の健康増進にもつながっている。

・第44回緑の都市賞市民協働部門で「奨励賞」を受賞

【意見交流】

・テーマ設定について。新しいテーマは、生徒の会話の中から生まれることが多い。一方、引き継ぐことが難しく止まってしまっているテーマもある（微振動による発芽促進効果）。

・地域と連携した活動を継続する決め手

「地域に開かれた教員」と「地域に開かれた教育課程」が必要

・持続するためには同僚の理解が欠かせないが

経験したことのある教員ならわかってくれるが、難しい。Seeds のメンバーから教員になる人材が生まれてくることが理想。

・バタフライガーデンはどうやって広げることができたのか

「ちょうちょがくるよ」と地域の推進会議で発信し、幼稚園の人から人へと広がった

2. 「つながる紀の川」4年生総合的な学習：有功東小学校・早崎先生

ねらい：吉野川・紀の川と暮らす人々の暮らしを知り、これからのかわり方を考える。

学級全体で取り組む総合学習と児童の個々の関心で取り組むマイカリキュラムの2本立て

・子どもの思いや願いを大切にしたい実践

【導入】

身近な千手川の調査から紀の川に向かう

紀の川大堰の見学：紀の川の概要を教わる、干潟での生き物観察会

【学習課題の作成・学習活動】「紀の川についてもっと調べてみたいことは？」

学習テーマ：紀の川の自然や、川と人のかかわりについて調べよう

○協働学習とマイテーマ学習

①どのようにして紀の川の水が水道水になるのだろう

和歌山市環境部と連携し、浄水実験（水道水がつくられていくしくみ）

②紀の川上流の見学 川上村蜻蛉の滝、源流館見学

水の始まりを知る 大滝ダムの見学

③田畑にどのように利用されているのだろう

小田井用水、県立博物館

④水質の比較 川上村の水と千手川の水

⑤川魚の飼育（千手川で魚釣り）

⑥千手川のゴミ調べ

⑦大滝ダムの役割 大滝ダムができる前・ダム建設反対運動 村長にインタビュー

⑧産業：柿の葉寿司について大滝茶屋にインタビュー

⑨川上村の神社・村の神様の話

○中流域

天然アユを守る人々の仕事

【意見交流】

- ・川上村の水に関わる「文化」を学んでいる。中流域の水に関わる「文化」と比較し、共通点と相違点（独自の文化）をぜひ見出す学習をしてほしい。それは文化を学ぶマスターキーの獲得になる。
- ・協働学習とマイテーマ学習の往還がよくできている
- ・大滝ダムの役割は治水・利水だけではない。水源地の村づくりに表現されている通り、村人のアイデンティティを形成するものとなっている
- ・大滝ダムのカッコよさ（村人の思い）：暮らしを守ってくれている、水に対する思いの象徴のような存在、大滝ダムを通じたいろいろな人との出会いや広がりがある
- ・水とのかかわりを学ぶマスターキー、水とかかわる生き方になっていく
- ・当初、関心の薄い子への対応
紀の川大堰でもらった「紀の川の暮らし」をみんなで読んだ、周りの子どもからの刺激がある
千手川の自然や生き物、川上村への見学が体験的な学びとなり、関心を高めている
追究できそうな複数のテーマを提示し、選択させる
ほかの児童のテーマを紹介する
テーマは途中で変更してもよいと柔軟な姿勢で対応する
- ・子どもの変容としては、「課題を設定する力（不思議を見つける力）」「活動の見通しをもつ力」が育成されている。

開催日時：2025年2月8日（土）10時～12時10分

開催方法：オンライン

1. 「つながる紀の川」有功東小学校4年生総合的な学習の時間（早崎先生）

（1）単元前の児童

○自然環境が好きな児童が多い

▲千手川と紀の川や海のつながりに気づいていない、自分の生活とのつながりに気づいていない

（2）単元展開の概要

①千手川のフィールドワーク（目的：千手川への関心を高める）

見学場所

- ・千手川と紀の川の合流地点
- ・紀の川大堰
- ・海とのつながり 干潟での生物観測

②学習課題づくり（もっと調べてみたいこと）

学習テーマ「紀の川の自然や、川と人のかかわりについて調べる」

- ・川の水の循環 きらめき紀の川、水道企画課
- ・7月 上流である川上村訪問 自然環境を感じる ダムの役割を知る
- ・水の使われ方：利水の歴史・大畑才蔵を通して 県立博物館

○マイテーマ学習（個別学習）と協働学習（どうしてダムを造ったのか 紀の川の産業）

③源流館による出前授業・歌

大滝ダム防災ステーション ダム（現在）、丹生川上神社（ダム以前）
紀の川漁協、清流の会 アユを食べる

現地学習・食：感性
人から学ぶ
時間軸

作文「私と紀の川・吉野川」

（3）単元後の児童

○紀の川と暮らしのつながりに気が付いた

○紀の川と自分とのつながりに気づき、行動化に発展した

▲出会った人々に関する学びを充実させたい

【意見交流】

- ・費用に関して：企業等からの学校への助成金を利用
- ・地域との連携においては、教員自身のネットワークに加えて、民生委員や社会福祉協議会の方々に依頼。もっと身近な単元の場合は、児童からの提案も参考にしている。
- ・現地学習、水の飲み比べ、アユの塩焼きなど、児童の感性を育てる場面がたくさんあったことが、行動化につながったのだろう。

2. 「わたしたちができること」紀の川市立田中小学校3・4年総合的な学習の時間（土橋先生）

（1）単元展開の概要

①1年目 イチゴ農家の訪問とイチゴ栽培へのチャレンジで見えてきた課題

・獣害対策の必要性、温暖化対策 ← 温暖化への適応のみで「緩和」には至っていない。

② 2年目

社会科：クリーンセンターの見学・海岸のゴミ拾い → ゴミ問題を解決したいという思いに

G T・平井研さんより学ぶ

- ・上流・中流・下流の調査－現状・事実把握
- ・個人よりも多くの人を巻き込む必要性

→池田小学校との交流 友が島「運動海」への参加

川上村への現地学習

水の飲み比べ

尾上さんから、森と水と海のつながりを学ぶ

川上村の看板から多くの人を巻き込むことの重要性を確認

国語科との連携 書くことはメタ認知を高める

【意見交流】

- ・生き物とのふれあいから感性を育てている
- ・ごみ問題はスケールが大きい。子どもはできることの限界（大きな壁）を感じていなかったか
発信・表現はアウトプットであり、それによって何がどう変化したのかがアウトカム
教育の効果は、子どもの変容でも十分効果的であると言える。社会への影響を見るためには、フィードバックを得る仕組みを作る。メディアを利用するなどがある。
- ・ごみ問題の解決は、大人が真剣に取り組まなければならない（平井氏）
I o T トング「とんがー」の紹介

3. 「身近な環境を考えよう 紀の川のつながりを通して」

橋本市立西部小学校 4年生総合的な学習の時間（辻本先生）

☆子どもの意識の流れや思考を大切にした授業づくり

クリティカル・シンキングを育て、自らの生活を問い直す子どもを育てる

（1）単元展開の概要

社会科との連携 エコライフ紀北（ゴミステーション）の見学

「自分たちの町は自分たちできれいにしたい」への共感

→ ゴミ拾いしよう 行動化

→ 捨てる人をなくしたい 新聞づくり・発信

「くらしを支える水」水の飲み比べ → 川上村への関心を高める

間伐材を利用した割りばし・川上宣言を学ぶ

道徳科との連携 「ダム問題」

社会科との連携「自然災害から命を守る」 環境とつながる自然災

源流館への現地学習

大滝ダム・学べる防災ステーションでの体験学習

・上流・中流・下流のつながりを学ぶ

・紀の川のために自分たちにできることを考える

（2）成果と課題

○現地学習の価値を感じた 見て・聞いて・感じながら学ぶ

▲下流についての学習には課題が残る

○様々な場所・立場の思いにふれることができ、自分の生活とのかかわりにも気づくことができた

▲水の使い方に効果があったか

○毎時間の記録をとることで、意識や行動の変化を把握できた

▲毎時間の記録を残すことは、教員の負担が大きい。

【意見交流】

・源流館でスタッフの方より児童に問いを投げかけてもらったのが良かった。教育施設としての源流館の良さが実感できた。

・子どものノートなどを丁寧にみて、子どものふとした疑問を全体に投げたことで、意識の流れに則した学習が展開できた。

4. 源流館の取組

川上村公共塾 ふるさと力 と 人間力

ESD はよりよい社会を創っていかうとする人を育てること

小学生は小学生なりに 中学生は中学生なりに 大人は大人なりに 自分ができることを実行化
する人を育てる

教育効果を高めるためには、先生方とのコミュニケーションが重要になっていく

9年後の目標にする子どもの姿を共有したい

チャットの記録

2月8日（土）森と水の源流館

流域のつながりから、郷土愛が育っていくのかなと思います。・質問としては、担任のマイカリキュラムの作成時に、学校運営協議会は関与されていますか？

吉田宏@奈良県立磯城野高等学校 10:42

また様々なセクターと連携していますが、これは先生独自のネットワークによるものですか、また児童からこの人に聞いたらいいか提案はありましたか？

早崎@有功東小 10:48

吉田先生、

ありがとうございました。来年度の学習では、学校運営協議会に大掛かりなサポートしてもらおう予定です。福祉に関する学習です。

あなた 10:53

知識だけでなく感性を育てておられたのが良かったです！

吉田宏@奈良県立磯城野高等学校 11:00

本校では学校運営協議会の熟議を経て、地域連携や交流、そしてESDはまだまだできていません。

中谷栄作 11:08

大きな問題をあつかっていると感じているのは大人だけなんだと思うんです。子どもたちは実際の効果

以上に「できることをすることにやりがいを感じる」段階だと思いました。

ここに効果を測定することで客観的な視点が入ってきてさらに深まる、みたいな。

教育実践でつくったモデルがどう継続発展していくか・・・そこを行政や自治体の人たちに協力してほしいですね

吉田宏@奈良県立磯城野高等学校 11:11

土橋先生 前の早崎先生もそうですが、校種が違くと新しい発見、気づきがあつてたいへん楽しく聞かせていただいています。勝手なことを申すと怒られるかもしれませんが、イチゴ栽培、近隣の農業高校と連携してみてください。本校は近くの小学校と連携し、小学生の栽培委員会の指導に高校生が行っています。昨年、雄花、雌花の話で、高校生がその場で教材にベゴニアを使い、児童に説明するというシーンがありました。これに驚いたのは小学校の先生方でした。ベゴニアに雄花雌花があることを知らない先生ばかりでした。これなら教材として割と長期間利用できます。高校生にとってもかなり有意義な交流となりました。

うちは用水路に生き物調べで入る際、ゴミ拾いをしています。悲しいかな農業資材も多く、近隣の農家に見ていただいています

吉田宏@奈良県立磯城野高等学校 11:22

高校は、まだまだ個人によるところが大きいですね。私も異動したら継続できないようなことは縮小廃止してほしいと言われています。働き方改革もあり、自ら指導したいという人がいない限り、他の先生にさせることはできません。学校としての取組なら、こうはならないのですが、結局させられる人が出て形骸化してしまうのかもしれません。トップダウンとボトムアップのすり合わせを学校運営協議会に期待していたのですが…。

中谷栄作 11:22

現在「ゴミ拾いをすること」「IoT トングを使うため、JT と株式会社ミカがコラボしてくれること」「市役所の学校教育課が少しなら協力してくれること」「ボランティアゴミ拾いとして登録すればゴミ袋を市役所から貸与してくれること」が決まっています！橋本市内でオススメの場所などあれば知りたいです～

中谷栄作 11:37

源流館のみなさんが「問いを作る」ことを大切にしてくれていることが分かる、それを料理する先生の手腕もすてきな実践でしたね～

橋本智美（福岡市 栄養教諭） 11:39

先生方のご報告から、和歌山県の ESD のサポート態勢（博物館や源流館など）が素晴らしいと感じました。先生方と地域の資源とのつながりが宝ですね。食を切り口での ESD を進めるため、改めて社会科での子どもたちの学びを私自身が学びたい！と感じました。

中谷栄作 11:51

その「この問い」を全体で自分事にするテクニックが知りたい。それと、それらを個別に探究させるこ

とをしているのかだれの問いを次のテーマにするかは先生が選ぶ？

授業の開始をふり返りからやるってことですね、了解！多分それをするかしないかで授業づくりが変わってくると思うんです。子どもありきかどうかのはじめの節目になると思うので・・・

加藤満@奈良県川上村 11:58

奈良県川上村の加藤です。 本日は耳だけ参加で失礼しています。 お三方とも素敵な授業の共有ありがとうございました。 毎回のことながら、目的意識をしっかりとって、現状を把握しながら、次に行うことが決まり学習が深まっていく。 あらゆる仕事にも共通することだなと思います。 ESDを意識した時、子どもたちを超えた大人たちへのアクセスは、一行政マンとして取組甲斐のある大きな問題だなと思います。 単純な評価軸で物事を図るだけでなく、事象の様々な側面を見て聞いて感じて、どうしていくか、考えていくことが世の中社会をつくっていくものだなと思いました。 素敵な時間をありがとうございました。

尾上さんのお話をお聞きして、栄養教諭としてESDの授業提案をする際に同じ視点でアプローチすると先生方にとっても、私にとっても良い取り組みにできると感じました。先生方に教材となる素材を提供できる栄養教諭を目指したい！と思います。とても参考になりました🌟ありがとうございます😊

2024 年度 ESD ティーチャープログラム
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク
担当：研究員 杉山

春日山原始林や奈良公園の自然環境を ESD に活かすための場として様々なテーマでフィールドワークを実施する。また、五感を使うなど、自然と交感することで、持続可能な社会に必要な自然環境保全の重要性の気づきを促す機会とする。

■第 1 回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）
2024 年 5 月 12 日（日）10:00～15:00

■第 2 回 雨の季節の森を歩く（春日山遊歩道北部）
2024 年 6 月 22 日（土）9:00～12:00

■第 3 回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）
2024 年 7 月 13 日（土）18:00～20:30

■第 4 回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺二月堂周辺散策）
2024 年 8 月 10 日（土）17:30～20:00

■第 5 回 高円山の自然（高円山）
2024 年 9 月 15 日（日）9:00～15:00

■第 6 回 奈良公園の自然（奈良公園・飛火野周辺）
2024 年 10 月 6 日（日）13:00～15:00

■第 7 回 秋の春日山原始林（滝坂の道）
2024 年 10 月 19 日（土）9:00～13:00

■第 8 回 春日山遊歩道 1 周ウォーク（春日山遊歩道南部～北部）
2024 年 11 月 16 日（土）9:00～16:00

■第 9 回 春日山の石仏（滝坂の道・地獄谷）
2024 年 12 月 7 日（土）9:00～16:00

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年5月12日（日）10:00～15:00

参加者：14名

（学部生：5名、教職大学院生：4名、外部関係者：1名、児童：2名 教職員：杉山、阪本）

■実施場所：春日山原始林

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2024年5月12日（土）10:00～15:00

概要：春日大社から春日山遊歩道～若草山までを歩き、特徴的な自然環境と課題について学び・体験する。

10:00 春日大社国宝殿前集合

10:30 挨拶・体操

11:00 春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説

12:00 五感の体操・みみをすます

12:20 森でねころぶ

12:30 昼食・ループで周辺の観察

13:00 解説しながら移動

14:30 若草山山頂

15:10 解散

■概要報告

春日山原始林北部遊歩道を歩き若草山を下るフィールドワーク。今回は、学部生、教職大学院生、児童、外部関係者など、多様な参加者となった。教職大学院の参加者からは、教材開発の視点で原始林を見てみたい等の希望もあったため、解説部分に重点を置きながらのフィールドワークとした。

初夏の春日山原始林は、照葉樹の新芽などがまだ残っており、曇り空の下であったが気持ちよく歩くことができた。

植生の遷移の話や、樹種の話のほか、木々の葉の手触り、苔の質感なども感じながら歩くとともに、五感で森を感じる体験も行った。「森でねころぶ」は新鮮な体験だったようで、森林を体全体で感じる体験となったようだ。

生き物についても、昆虫やカエルなどに出会えて、糞などから、森に住む動物についても解説を行った。また、春日山原始林が抱えている鹿との共生に関する課題についても植生保護柵の変化などから気づいてもらい、答えのない課題についてさまざまな視点から捉えることが重要であると伝えた。

終了後の感想からは、教材研究の観点から有意義であった、受験のために暗記していた知識を実際に目の前で見ることで有意義だった等の意見があった。

■写真



水谷神社(春日大社との関係)の説明



イチイガシと常緑広葉樹の説明



樹種の違いを感じる



感性のたいそう（みみをすます）



森でねころぶ



ヒメアシナガコガネ



若草山三重目にて集合写真



二重目から奈良公園の景観について解説

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第2回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年6月22日（土）9:00～12:00

参加者：4名

（学部生：3名（途中早退1名）、教職員：杉山、大西）

■実施場所：春日山原始林

■第2回 雨の季節の森を歩く（春日山遊歩道北部）

2024年6月22日（土）9:00～12:30

概要：梅雨時期の春日山原始林を歩きます。雨に濡れた森の美しさを感じるとともにコケなどの小さな植物を観察します。また、近年の豪雨の影響などについても触れ、春日山原始林の現状の課題についても考えます。（晴天でも実施します）

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:05 挨拶・出発

9:00 春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説

12:00 若草山山頂

12:30 若草山下山・解散

■概要報告

梅雨時期の春日山原始林を歩くフィールドワーク。前日に雨が降ったため、森は美しい状況となった。参加人数が少なかったため、じっくり歩きながら自然の中の小さな生き物（コケ、シダ、キノコ等）を中心にルーペを使って観察しながら歩いた。前日が雨であったこと、当日は天気も良かったことから、菌類（キノコ）を複数観察することができた。トダテグモに寄生するクモタケのほか、テングタケの仲間やウスタケ、ノボリリュウタケ、イグチの仲間など、それぞれ手で触れたり、観察しながら楽しんだ。生き物についても、トカゲやタゴガエルのほか、甲虫やクモなどが観察できたがまた、シダの葉裏の胞子嚢群（ソーラス）の観察、コケの観察、変形菌なども見つけることができた。また、自然の美しさや、植物の規則性についても簡単に触れ、自然を捉える視点を変えることで多様な楽しみ方があることに気づいてもらった。自然当初の予定では、遊歩道を途中折り返す想定であったが、学生の希望により、若草山山頂まで歩き、山頂から若草山へ入山する形で下山し、解散した。

■写真

	
遊歩道入り口付近からコケなどを観察	水谷橋の欄干に出ていた変形菌
	
地衣類（ヒメジョウゴゴケ？）	ズジブトハシリグモ
	
ホタルガ	この日一番大きかったキノコ

令和 6 年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第 3 回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024 年 7 月 13 日（土）18:00～21:00

参加者：7 名

（学部生：4 名、教職大学院生：1 名、外部関係者：3 名、教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第 3 回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

2024 年 7 月 13 日（土）18:00～21:00

概要：電灯のない月明かりだけの森の中で過ごし、夜の森の気配を感じる。

18:00 春日山遊歩道入口（南側）

数名参加者が遅れた。

18:20 挨拶・今の気持ちなど

18:30 春日山遊歩道（南部）を歩きながら解説

18:50 五感の体操

19:00 薄暗くなる森を歩きながら妙見宮まで移動

19:30 軽食を取る・休憩

19:40 移動

20:00 森で寝転ぶ

20:15 移動

21:00 解散

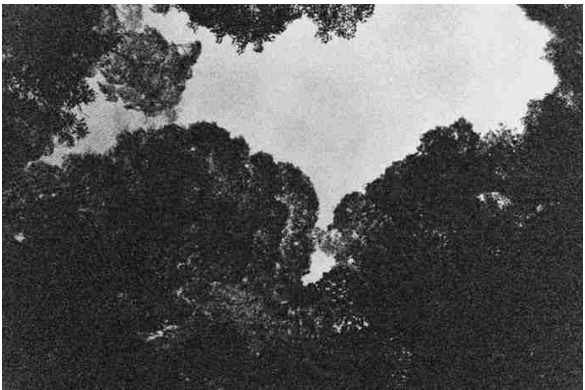
■概要報告

春日山原始林の夜を感じるフィールドワーク。この日は天候があまり良くない状況であったが、実施した。薄曇りの森をしばらく歩き、五感を開くアクティビティを実施。7 月に鳴くヒメハルゼミの声が森に響き渡り、この季節ならではの音風景を体感することができた。また、雨模様もあり、湿度・気温が共に高くなっていることから、夕方の時間にもかかわらず、たくさんのキノコを見ることができた。春日山のこの季節のキノコでは、傘の裏がスポンジ状のイグチの仲間が多くみられ、傘の裏がひだ状のものもあるなど、キノコにも多様な特徴があることを観察できた。

また、日が暮れて暗くなってからもライトをつけずしばらく歩き、目が慣れれば明かりがなくとも歩けること、空が思ったより明るいこと、森から見える街がとても明るいことなどを実感することができた。また、参加者との会話の中で、獣の匂いを感じるという声も聞かれた。

森に寝転ぶ体験では、眠ってしまう参加者もいたようであるが、時折、ムササビの鳴き声が聞こえることもあり、春日山原始林の夜の様子を体で感じる機会になったのではないかな。

■写真

	
五感のたいそう	妙見宮。原始林内で唯一ここだけ街灯がある。
	
夜の森に和気藹々とした声が響いた	森で寝転ぶ木々のシルエットと空が見える
	
キノコを観察（写真はイグチの仲間）	オオトモエ

令和 6 年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第 4 回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024 年 8 月 10 日（土）17:30～20:30

参加者：2 名 ※学部生 3 名の参加申込があったが、キャンセルの連絡があった。

（外部関係者：2 名、教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第 4 回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺二月堂周辺散策）

2024 年 8 月 10 日（土）17:30～20:00

概要：奈良の夏の風物詩として行われる「燈花会」。夏の夜にろうそくによるイルミネーションが奈良公園を彩ります。期間中は毎日 300 名以上のサポーターによってろうそくが設置・撤去されています。この燈花会をおとずれると共に、東大寺周辺の夜の奈良公園等も散策し、奈良公園の価値と魅力について学ぶ。

17:30 大学正門前集合

前日 1 名、当日 2 名の不参加の連絡があり、外部関係者 2 名と実施となった。

17:45 浅茅ヶ原園地－春日大社参道－春日野国際フォーラム－春日野園地－手向山八幡－二月堂

18:20 二月堂にて夕暮れを待つ

18:50 日没後移動－二月堂裏参道－大湯屋－鐘楼－東大寺南大門－春日野園地

19:20 燈花会鑑賞（春日野園地－春日野国際フォーラム－浮雲園地－浅茅ヶ原園地）

20:00 解散

■概要報告

奈良公園の夏の風物詩となった「なら燈花会」と東大寺二月堂周辺の夕暮れなどを体験するフィールドワーク。直前に学生から欠席の連絡があり、学校外関係者 2 名と、杉山・中澤の 4 名での実施となった。

浅茅ヶ原園地に着くと白い蠟燭ケースが整然と並ぶほか、竹で作られたオブジェが設置されていた他、「ろうそく募金箱」が設置されていた。燈花会は、NPO 法人なら燈花会の会が実施するお祭りであり、ボランティアや寄付・協賛によってこれまで継続されてきた。（今年度で 26 回目）春日大社参道では、8/14-15 に行われる「中元万燈籠」に合わせて、縁起に関わる箱型の提灯が展示されていた。

春日野国際フォーラム前は出店が並び、浮雲園地にも、蠟燭ケースが並んでいた。過去には、春日野園地にも同様に並べられていたことがあったが、今年は設置はなく、実施エリアの変遷も伺えた。

春日野園地から手向山八幡へと抜ける道は人もまばらであったが、二月堂へ登ると夕焼けを待つ人々が多くいた。海外からの旅行者が多く、観光客の増加を肌で感じる機会となった。

その後は、二月堂の裏参道か鐘楼、大仏殿へと移動し、浮雲園地で行われている燈花会を鑑賞。春日

野国際フォーラムでは、「一客一燈」と言われる、参加者自らが蠟燭を灯すことができる会場となっていたほか、石材の業者と連携したライトアップなどもあった。暗くなるほど人が増えてきて、浮雲園地から浅茅ヶ原では数多くの人が燈花会を楽しんでいた。一部ではコンサートが行われたり、竹細工で作られたオブジェの明かりも美しく、多くの人が写真を撮ったりして楽しんでいる様子であった。通常は18時過ぎには人もまばらとなり、静かな奈良公園であるが、奈良の夜の魅力を発信しようとはじまった燈花会は、四半世紀を過ぎて、市民から始まった奈良の夏の風物詩となっている。祭りの規模が若干縮小気味で今後の継続が大きな課題とも考えられるものの、こうした取り組みについて学生にも触れてもらう機会を今後も続けたい。

■写真

	
ろうそく募金箱	春日大社参道の箱型提灯
	
二月堂に集まる多くの人々	二月堂からの夕焼け
	
春日野国際フォーラムの一客一燈	浅茅ヶ原園地の竹のオブジェ

令和 6 年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第 7 回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024 年 10 月 19 日（土）9:00～13:00

参加者：10 名 ※ティーチャープログラム 5 名 ESD と世界遺産 5 名

（オープンクラス受講生 1 名を含む、教職員：杉山、中澤）

ティーチャープログラム申込者 2 名、ESD と世界遺産 1 名が欠席、1 名途中離脱

■実施場所：春日山原始林

■第 7 回 秋の春日山原始林（春日山遊歩道北部～若草山）

2024 年 10 月 19 日（土）9:00～13:00

概要：秋の春日山原始林を歩きます。少しずつ紅葉が始まる春日山を歩き季節の移り変わりを感じます。

09:00 春日大社国宝殿カフェ前集合

3 名の欠席、1 名は前日に連絡があり途中で抜けることを確認。

09:05 自己紹介、簡単な体操。

09:15 春日大社国宝殿カフェー水谷神社―春日山遊歩道―若草山山頂―若草山下山

12:50 若草山南ゲートにて解散

■概要報告

当日は、曇り空であったが、気温ものの適度で歩きやすい季節を感じることができた。

参加者の中は、これまで春日山原始林を歩いたことがある方もいたが、解説を聞きながら森を歩くことは初めてだったため、春日山原始林の木々や史跡などの解説が新鮮だったようだ。五感の体操では、目を閉じて光や音を感じると共に、耳を澄ます体験が特に印象に残ったようだ。原始林内では、タゴガエルが飛び、マムシも観察することができた。落葉紅葉樹が少しずつ色づき始めている状態も感じることができた。途中雨が降り出すなど、気候の変化があったものの、予定通りのスケジュールで実施することができた。

■写真

	
五感の体操（みみをすます）	ルーペで見る

令和 6 年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第 9 回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024 年 12 月 7 日（土）9:00～15:30

参加者：3 名 学生 1 名、職員 1 名、外部 1 名

（教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林・地獄谷国有林

■第 9 回 春日山の石仏（滝坂の道・地獄谷）

概要：春日山原始林の南端となる滝坂の道にある石仏群を巡り、自然と人の関わりについて学びます。

09:00 飛鳥中学校正門前集合

09:05 自己紹介、簡単な体操。

09:15 滝坂の道―首切り地蔵―地獄谷園地―地獄谷石窟仏―春日山石窟仏―滝坂の道―首切り地蔵
―春日山遊歩道南部

15:30 春日山遊歩道南入り口にて解散

■概要報告

快晴のなか、滝坂の道から地獄谷等の春日山原始林と周辺の石仏群を巡るフィールドワークとした。滝坂の道から入る春日山原始林は、イロハモミジの紅葉やムクロジの落葉が美しい。紅葉を愛でながらの石仏巡りとなった。天気が良いこともありこの日の石仏がよくみることができた。寝仏（大日如来）をはじめ、石像岩四仏（地蔵、薬師如来、釈迦、阿弥陀）、夕日観音（弥勒仏）滝坂三体地蔵、滝坂地蔵を双眼鏡等を使って、じっくりと観察することができた。首切り地蔵からは、地獄谷園地、国有林に入り、春日山原始林の照葉樹林とスギヒノキの人工林の雰囲気の違いや、双方で起きているニホンジカの食害等の影響についても観察した。

地獄谷石窟仏でも双眼鏡を使って、観察をした。地獄谷石窟仏は滝坂の道の石仏と異なり線刻と彩色が特徴のため、双眼鏡を使って観察すると、複数の石仏のうち、稚拙な様子なども見てとれた。その場で昼食を取り、その後春日山石窟仏へ移動。春日山石窟仏は凝灰岩のため、その他の石仏よりも立体的な作りになっており、独特の雰囲気を感じることができた。その後、滝坂の道を脇道に逸れたところにあり、間近でみることでできる石仏（阿弥陀如来立像）を観察。石仏周辺は掃き清められており、どなたかが清掃していることがわかる。道沿いにある地蔵や石仏は、いずれも掃き清められており、信仰がいまも息づいていることを実感した。

再び首切り地蔵まで戻り、以降は春日山遊歩道を下る。紅葉のピークを少し過ぎたところではあるが、イロハモミジやアカシデなどが赤や黄色に、常緑樹のシイやカシ、スギなどが深い緑で影を作り美しい景観を楽しみながら下山した。

■写真

	
シカ採食の影響等により地面に植物がない	解説の様子
	
寝仏（大日如来）	石像岩四仏 4体の石仏が彫られている
	
夕日観音（弥勒仏）	三体地蔵
	
滝坂地蔵	大きなスギに絡まるフジ

	
朝日観音	ルーペでコケを観察
	
ルーペで見た様子	ムチゴケの仲間
	
首切り地蔵	シカの樹皮剥ぎ被害
	
地獄谷石窟仏	向かって右側の十一面観音は線が稚拙



春日山石窟仏、双眼鏡を使って観察



春日山石窟仏の西窟の阿弥陀仏像



滝坂の道の脇道にある阿弥陀如来立像



観察の様子



春日山遊歩道の紅葉



イロハモミジの赤と黄色常緑樹の緑



黄色と緑のコントラストが美しい。



黄葉も多く見られ森が明るい。

2024年度 近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会開催要項

1. 目的

学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」を育成することが明記されたことより、全国の幼稚園、小中学校、高等学校で ESD の理念に基づく教育活動が展開されつつある。また、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が企業や NPO などの生涯教育において高まってきており、学校教育・生涯教育および企業等においても、質の高い教育活動が求められることから、構成団体メンバーの意欲向上と活動の質的向上、また ESD の普及を目的に開催する。

2. 主催

近畿 ESD コンソーシアム、奈良教育大学 ESD・SDGs センター

3. 後援

ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、ASPUniv.Net
株式会社 ワールド・ヘリテイジ

4. 開催日時

2025 年 1 月 12 日（日）9 時 50 分～17 時 10 分
1 月 13 日（月）9 時 30 分～12 時

5. 会場

奈良教育大学本部大会議室、ESD・SDGs センター多目的ホール、
連携教育開発センター大会議室

6. 日程

【1 月 12 日（日）】

9：30－9：50 受付（奈良教育大学本部）

9：50－10：00 開会行事：大会議室 司会：阪本さゆり氏（ESD・SDGs センター研究部員）
挨拶：宮下俊也（近畿 ESD コンソーシアム会長・奈良教育大学学長）

10：00－12：20 ESD 子どもフォーラム（発表 20 分＋意見交流・移動 10 分）
進行：奈良教育大学ユネスコクラブ 苗代昇妥・木幡美幸・下田愛結
① 福岡市立小呂小学校・小呂中学校
② 草津市立老上中学校
③ 白浜町立白浜中学校
④ 天理市立福住中学校
講評：宮下俊也（近畿 ESD コンソーシアム会長）
西口美佐子氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

12：20－13：30 昼食休憩

13：30－15：30 ESD 実践交流会 I（発表 20 分＋質疑 10 分）

第 1 分科会：大会議室

司会：草津市教育委員会学校教育課係長 中村大輔氏

- ① 和歌山：すさみ町立周参見中学校 谷口祐也氏
- ② 愛媛：新居浜市教育委員会 星加大輔氏
- ③ 滋賀：草津市立松原中学校 山本寛之氏
- ④ 秋田：大仙市立大曲南中学校 島田智氏

第2分科会：ESD・SDGs センター多目的ホール

司会： 橿原市教育委員会指導主事 葛本雅崇氏

① 熊本 ： 菊池市立隈府小学校 橋本歌織氏

② 和歌山： 白浜町立西富田小学校 大浦侑唄氏

③ 企業等： 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 宮川洋一氏

④ 福岡 ： 福岡市立小呂小学校・小呂中学校 力 恵利佳氏

第3分科会：連携教育開発センター大会議室

司会： 橋本市教育委員会主幹・主任指導主事 木下豪人氏

① 福岡 ： 福岡市立三宅小学校 橋本智美氏

② 滋賀 ： 草津市立玉川こども園 中川珠紀氏

③ 和歌山： 橋本市立高野口小学校 岡本崇史氏

④ 鹿児島： 屋久島町立小瀬田小学校 高橋百合香氏

15：45－17：00 ESD 講演会：大会議室

「学び、究め、創り出す力を育む ― 持続可能な世界を築くために」

国立大学法人奈良国立大学機構 理事長 榊 裕之

17：00－17：10 閉会行事：大会議室

講評：福井昌平氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

【1月13日（月）】

9：10－9：30 受付（奈良教育大学本部）

9：30－11：30 ESD 実践交流会Ⅱ（発表20分＋質疑10分）

第4分科会：大会議室

司会： 奈良市教育委員会指導主事 三木恵介氏

① 愛媛 ： 松山市立日浦小学校 西河珠美氏

② 鹿児島： 鹿児島市立広木小学校 横山邦昭氏

③ 石川 ： 能登町立小木小学校 倉見倫代氏

④ 奈良 ： 生駒市立俵口小学校 中川純一氏

第5分科会：ESD・SDGs センター多目的ホール

司会： 前大牟田市教育長 安田昌則氏（ESD・SDGs センター研究部員）

① 千葉 ： 麗澤中学校・高等学校 瀧村尚也氏

② 和歌山： 白浜町立白浜中学校 平野俊氏

③ 奈良 ： 奈良教育大学附属中学校 堤 彦三郎氏

④ 奈良 ： 奈良教育大学ユネスコクラブ 吉岡優来

第6分科会：連携教育開発センター大会議室

司会： 草津市教育委員会 ESD アドバイザー 井阪尚司氏

① 大阪 ： 大阪市立新森小路小学校 三笠日向氏

② 寺社 ： 華厳宗大本山東大寺 鷺尾隆元氏、平岡慎紹氏

③ 熊本 ： 菊池市立花房小学校 村上千砂子氏

④ NPO ： ビーフォレストクラブ 吉川 浩氏

11：40－12：00 閉会行事

講評：福井昌平氏、西口美佐子氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

挨拶：中澤静男（奈良教育大学 ESD・SDGs センター長）

※全プログラムとも Zoom 配信あり。

成果発表会・実践交流会のようす

【1日目】ESD 子どもフォーラム



福岡市立小呂小学校の発表



草津市立老上中学校の発表



白浜町立白浜中学校の発表



天理市立福住小中学校の発表



発表校への質問や感想を述べあう



全員集合！

みなさん、お疲れさまでした！

実践交流会 I



ESD 講演会



【2日目】実践交流会Ⅱ



お わ り に

奈良教育大学E S D・S D G s センター長 中澤 静男

今年も大西先生を中心にE S Dティーチャープログラムを展開していただきました。鹿児島県鹿児島市、熊本県菊池市、福岡県福岡市、愛媛県新居浜市、滋賀県大津市、和歌山県橋本市、和歌山県白浜町、東京都の各会場の他、天理市立福住小中学校、奈良教育大学附属中学校、そしてオンラインで11回開催したE S D連続セミナーで、教員養成（学生）と教員研修（現職教員）を融合したプログラムが展開できました。今年新たに認定させていただいたのは、学生のE S Dティーチャーが12名、現職教員のE S Dティーチャーは81名、マスターが25名、スペシャリストが11名です。

E S Dティーチャープログラムは、2015年度に本学が開発し、2016年度から運用しています。これまでの認定者数は、表1の通りです。

表1 これまでの認定者数

学生のティーチャー	現職のティーチャー	現職のマスター	現職のスペシャリスト
75 名	556 名	103 名	39 名

E S Dティーチャーは、認定されることが目的ではありません。認定は1つの通過点です。本学ではE S Dティーチャーを対象としたフォローアップ研修をオンラインで5回実施しています。オンラインですから全国のE S Dティーチャーが集まり、意見交流することで、新たな実践のアイデアや学校間交流が始まったりしています。その成果が遺憾なく発揮されたのが、1月12日・13日の近畿E S Dコンソーシアム成果発表会・実践交流会でした。

こういったボトムアップ型の地道な努力が重要です。一方、ユネスコのE S D for 2030 ロードマップに「大きな変革に照準を定める」と記載され、大きな変革という考え方は「社会構造の再編と結びついて、個人の行動が変化することを含意」しています。大きな変革のためにはボトムアップに加えてトップダウンも重要です。本学では、E S Dのナショナルセンターを目指し、2月22日には全国E S Dコンソーシアム/ステークホルダー円卓会議 2025 を開催しました。全国のE S Dコンソーシアムやステークホルダーのネットワークを形成し、協働して取り組むことで、大きな変革がもたらされることを期待しています。

次年度からは新しい体制で、さらにE S Dの推進に取り組んで参ります。みなさまのご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



2月22日 E S Dコンソーシアム円卓会議

近畿 ESD コンソーシアム規約

平成29年7月8日
制
令和5年11月1日
改 訂

第1章 総則

【名称】

第1条 この団体は、近畿 ESD コンソーシアム（英語名：ESD Consortium, Kinki Region ）という。

【事務局】

第2条 この団体の事務局を奈良教育大学 ESD・SDGs センターに置く。

【目的】

第3条 この団体は、様々な ESD 関係者が協力して近畿圏を中心に ESD を推進することを目的とする。

【活動】

第4条 上記3の目的を達成するため、この団体は以下の活動を行う。

- 一 ユネスコスクールをはじめとする教育機関での ESD の推進と国内外の ESD 推進校との交流促進
- 二 公民館、図書館をはじめとする社会教育施設、青少年教育施設を通じた社会教育における ESD の推進
- 三 ウェブサイトや成果報告会等を通じた ESD 関連情報の共有
- 四 ESD に関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- 五 企業、NGO を含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- 六 その他団体の目的のために有益と考えられる活動

第2章 会員

【会員種別】

第5条 この団体の会員は、この団体の目的に賛同して入会する団体及び個人とする。

2 この会員のうち、奈良教育大学を代表団体とする。

【入会】

第6条 会員として入会しようとするものは、別に定める方法により、入会申込書を事務局に提出することにより申し込むものとする。

2 入会は、運営委員会において承認する。運営委員会は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

【会費】

第7条 この団体の会費は、当面、徴収しないものとする。

【退会】

第8条 会員は、別に定める退会届を事務局に提出して、任意に退会することができる

第3章 役員

【種別及び定数】

第9条 この団体に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 1名以上3名以内
- 三 運営委員 10名程度

【選任】

第10条 会長は、この団体を代表し、その業務を総理する。

2 副会長は運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は、会長が指名する。

【職務】

第11条 会長は、この団体を代表し、その業務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 運営委員は、運営委員会を構成し、この団体の業務を執行する。

【任期等】

第12条 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第4章 会議

【会議の種別】

第13条 この団体の会議は、総会及び運営委員会とする。

【総会】

第14条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

【総会の権能】

第15条 総会は、以下の事項について検討し、議決する。

- 一 規約の決定及び変更
- 二 事業計画の承認
- 三 事業報告の承認
- 四 役員の承認
- 五 その他コンソーシアムの運営に関する重要事項

【総会の開催】

第16条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- 一 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。

【総会の招集】

第17条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

【総会の議長】

第18条 総会の議長は、その総会に出席した会員の中から選出する。

【総会の議決】

第19条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

【運営委員会】

第20条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に運営委員長1名及び副運営委員長1名を置く。

【運営委員会の権能】

第21条 運営委員会は、次の事項について検討し、議決する。

- 一 事業計画の立案と変更
- 二 事務局の運営に関する事項
- 三 総会の議決した事項の執行に関する事項
- 四 総会に付議すべき事項
- 五 その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

【運営委員会の開催】

第22条 運営委員会は、会長または運営委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章 ESD推進コーディネーター

【ESD推進コーディネーターの配置】

第23条 この団体に、ESD推進コーディネーター若干名を置く。

- 2 ESD推進コーディネーターは、この団体の目的に照らし、ESDの推進を支援する。
- 3 ESD推進コーディネーターは、ESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。
- 4 ESD推進コーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第6章 雑則

【細則】

第24条 この規約の施行について必要な細則は、運営委員会の議を経て、会長が定める。

令和 6 ・ 7 年度 近畿ESDコンソーシアム運営委員

会長	宮下俊也	学長
副会長	前田康二	副学長
副会長	今田 実	橋本市教育長

運営委員長	中澤静男	ESD・SDGsセンター長
副運営委員長	及川幸彦	ESD・SDGsセンター副センター長
事務局長	大西浩明	ESD・SDGsセンター
教育委員会	三木恵介	奈良市教育委員会
教育委員会	葛本雅崇	橿原市教育委員会
教育委員会	木下豪人	橋本市教育委員会
教育委員会	西田和歌子	長浜市教育委員会
教育委員会	中村大輔	草津市教育委員会
社会教育施設	尾上忠大	森と水の源流館
寺社	鷲尾隆元	華嚴宗大本山 東大寺
企業	植村将史	植村縫工株式会社
企業	川井徳子	公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ
NPO	杉山拓次	春日山原始林を未来へつなぐ会
学生	吉岡優来	ユネスコクラブ学生代表

外部評価委員	福井昌平	日本イベント学会副会長
外部評価委員	西口美佐子	奈良市立平城西小学校長

令和6年度 近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書

令和7年3月31日

国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学

ESD・SDGsセンター（近畿ESDコンソーシアム事務局）

〒630-8528 奈良市高畑町

Tel 0742-27-9367・Fax 0742-27-9147（教育研究支援課）

